

SYLLABUS

2022



別府市医師会立別府青山看護学校

3 年課程

シラバスとは

シラバスは、1年間（または3年間）の授業計画を示したものです。授業ごとに、授業科目、単位数、時間、対象学年、学期、担当教員をはじめ授業ごとの目標や成績評価の基準や方法、使用するテキストなどを示しています。シラバスをとおして授業のイメージを図り、しっかりと準備して授業に臨みましょう。なお、授業は、学生の皆さんの理解の程度や科目間の学習進度に合わせながら進めるため、予定が変更になることもあります。次回の授業の内容や予定の変更等については、講義ごとに案内します。毎回の授業をしっかりと受講し、次の授業に臨むための学習準備をしていきましょう。

目次

●シラバスとは	1
●教育理念	2
●教育目的	3
●教育目標	3
●教育理念に基づく方針	3
●ディプロマポリシー	4
●カリキュラムポリシー	4
●カリキュラムデザイン	6
●3年間の履修科目と進度	7
●1年次開講科目と進度	8
●2年次開講科目と進度	9
●3年次開講科目と進度	10
●基礎分野 授業計画	11～
●専門基礎分野 授業計画	42～
●専門分野 授業計画	89～

教育理念

生命尊重と人間愛の精神を基盤として豊かな感性と人間性を備え、専門職業人としての使命感・倫理観を持ち、科学的根拠に基づく看護を実践できる能力を育成するとともに、主体的に学び続ける姿勢と社会に貢献できる有能な人材の育成をします。

教育目的

看護師に必要な専門知識・技術・態度を修得させ、多職種と連携し地域に貢献できる看護師を育成することを目的とします。

教育目標

1. 人々の多様な価値観を認識し、人間関係を形成するための基礎的能力を育成する。
2. 地域の人々の命と生活を守り、人間をかけがえのない存在として総合的に理解できる力を育成する。
3. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる能力を育成する。
4. 専門職業人としての使命感を持ち、倫理に基づいた看護を実践できる能力を育成する。
5. 保健・医療・福祉のしくみと多職種の役割を理解し、連携・協働しながら、地域に密着したチーム医療を実践するための基礎的能力を育成する。
6. 看護を探究し、看護の向上を目指して自ら学び続ける姿勢を育成する。

教育理念に基づく方針

別府市医師会立別府青山看護学校は別府市にその所在を置き、地域の人々の健康な暮らしを支えることを役割として認識し、地域医療の担い手として能力を発揮できる有能な人材を育成することを目指しています。別府市は、人口 11 万人を超える大分県 2 番目の都市ですが、全国平均よりも高い高齢化率に加え、障害をもつ多くの人々が暮らし、また、外国からの留学生が多く暮らし、国内外からの観光客が多いといった多様な人々が暮らす特徴のある都市です。そのような特徴を背景にもつ地域を基盤に、人間関係を築く力、多様な人々に心を込めた看護を提供できる力、科学的根拠に基づいた看護を実践する力、倫理観や責任感にもとづき自ら考え行動する力、多職種と連携・協働するための力、そして卒業後も常に学び続ける姿勢を身につけることができるように、総計 102 単位の科目をもって教育課程を編成します。また、科目の履修に加えて行事や課外活動をとおして地域の人々と関わる時間を積極的にもち、人々とのかかわりをとおして、看護師として、ひとりの人間として豊かな感性を育てていきます。また、地域に暮らす人々とのかかわりをとおして人々の健康な暮らしについて関心を持ち、学生各々が主体的に学ぶ姿勢を強くしていくことを期待しています。学生の皆さんひとりひとりの気づきと豊かな発想を尊重し、様々な教育上の工夫を加えながら、この地域で学生の皆さんと共に温かい学校を創る思いで、以下の方針を示します。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

地域医療の担い手として能力を発揮するために、地域や地域の人々を愛し、教育理念・教育目的・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、所定の単位を修めた次のような人材を社会に輩出いたします。

1. よりよい人間関係を築く力を身につける。
2. 地域愛を基盤に、心のこもった看護が提供できる力を身につける。
3. 確かな知識と技術をもち、科学的根拠のもと看護を実践する力を身につける。
4. 専門職業人としての倫理や責務に基づいて考え、行動できる姿勢を身につける。
5. 多職種と連携・協働するために必要な基礎的な力を身につける。
6. 看護を探究し、学び続ける姿勢を身につける。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

ディプロマポリシーに掲げた看護師を育成するため、以下の方針に基づいて3年間のカリキュラムを編成し、実施いたします。

1. 〔DP よりよい人間関係を築く力を身につける。〕

看護の対象は人間です。その対象とは患者とその家族であり、地域に暮らす人々であり、ともに保健・医療・福祉を支えている多職種です。看護師は、その人々と良好な人間関係を築く努力を惜しまず行う必要があります。まずは、基礎分野において人間や人間を取り巻く社会を理解し、心理学・感性の哲学・人間関係論といった科目をとおして人間関係を築くための知識を身につけ、さらに、専門基礎分野の臨床心理では援助的な人間関係を構築するための方法を学びます。それらを基盤にして、グループワークにおける意見交換、実習におけるリフレクション、課外活動における学生主体のグループ活動を多く取り入れ“相手の話を聴くこと”、“相手の考えを知ること”、“相手の気持ちをわかろうとすること”、“相手に分かるように自分の考えを伝えること”、“相手の反応をみて自己を振り返ること”、“を繰り返し体験していきます。その過程において自己を見つめ、相手を尊重する姿勢や、相手と協調する力を養っていきます。これは、看護師として必要なコミュニケーション力を養うものでもあり、本校が最も重要と考えている教育課程実施の方針です。

2. 〔DP 地域愛を基盤に、心のこもった看護が提供できる力を身につける。〕

対象に心のこもった看護を提供するためには対象を理解することが必要となります。基礎分野で人間や社会について学び、専門分野では基礎看護学をはじめ各領域にわたり身体的・精神的・社会的・霊的側面から人間を統合体として理解するための学習を積み重ねます。また、地域の様々な場における体験学習、実習、学生主体の課外活動をとおして地域に暮らす人々との交流を深めます。中でも、様々な看護活動の場で展開する地域・在宅看護論実習は本校の教育課程実施における特徴を現すもので、人々や暮らしに関心を寄せ、理念に掲げる地域医療の担い手となる看護師を養うためにも力を入れるところです。そして、地域の人々との出会いや交流をとおして思いやりや優しさ、誠実さを育み、豊かな感性を養うことを期待します。

3. 〔DP 確かな知識と技術をもち、科学的根拠のもと看護を実践する力を身につける。〕

人々の命と生活を守る看護専門職として責務を果たすためには、対象に安心・安全な援助を提供す

るための確かな知識と技術が必要です。そこで、解剖生理の知識をはじめ疾病や健康段階に応じた看護を学ぶ中で、知識を看護に活かすことができる授業の展開をします。そのひとつに、解剖生理学の知識を、症候論に関連させて展開していく授業があります。基礎看護学における臨床判断では、“気づき”を看護専門職の気づきに発展させ臨床判断する力に導きます。これらの知識を各看護学領域の実習で統合させ、看護実践能力につなげます。また、1年次から患者を想定した基礎看護技術のトレーニングを行います。卒業後即実践につなげることができる技術の習得を目指します。2年次から3年次にかけては、各専門領域別の実習をとおして健康段階別・発達段階別の看護について学びを深め、臨床場面を想定したシミュレーション演習や臨地実習をとおして状況を判断しながら看護を実践する力を養っていきます。

4.〔DP 専門職業人としての倫理や責務に基づいて考え、行動できる姿勢を身につける。〕

成長するまでに培ってきた個々の道徳的考えは、人々の生命や生活を前にその判断を求められ試される時がやってきます。1年次における看護倫理の講義をとおして“倫理”とは何であるかを学び、看護師の行動指針となる「看護者の倫理綱領」について理解を深めていきます。また、グループワークをとおして他者の価値観や、自己の価値観に気づいていけるような授業を展開します。また、実習をとおして“リフレクション”の時間をもち、臨床指導者や専任教員の客観的な視点により実施した看護の振り返りを丁寧に支援します。1年次からの学習や実習における体験をとおして、自分の行動が他者に与える影響について考え、専門職業人としての責任感と倫理観を養っていきます。

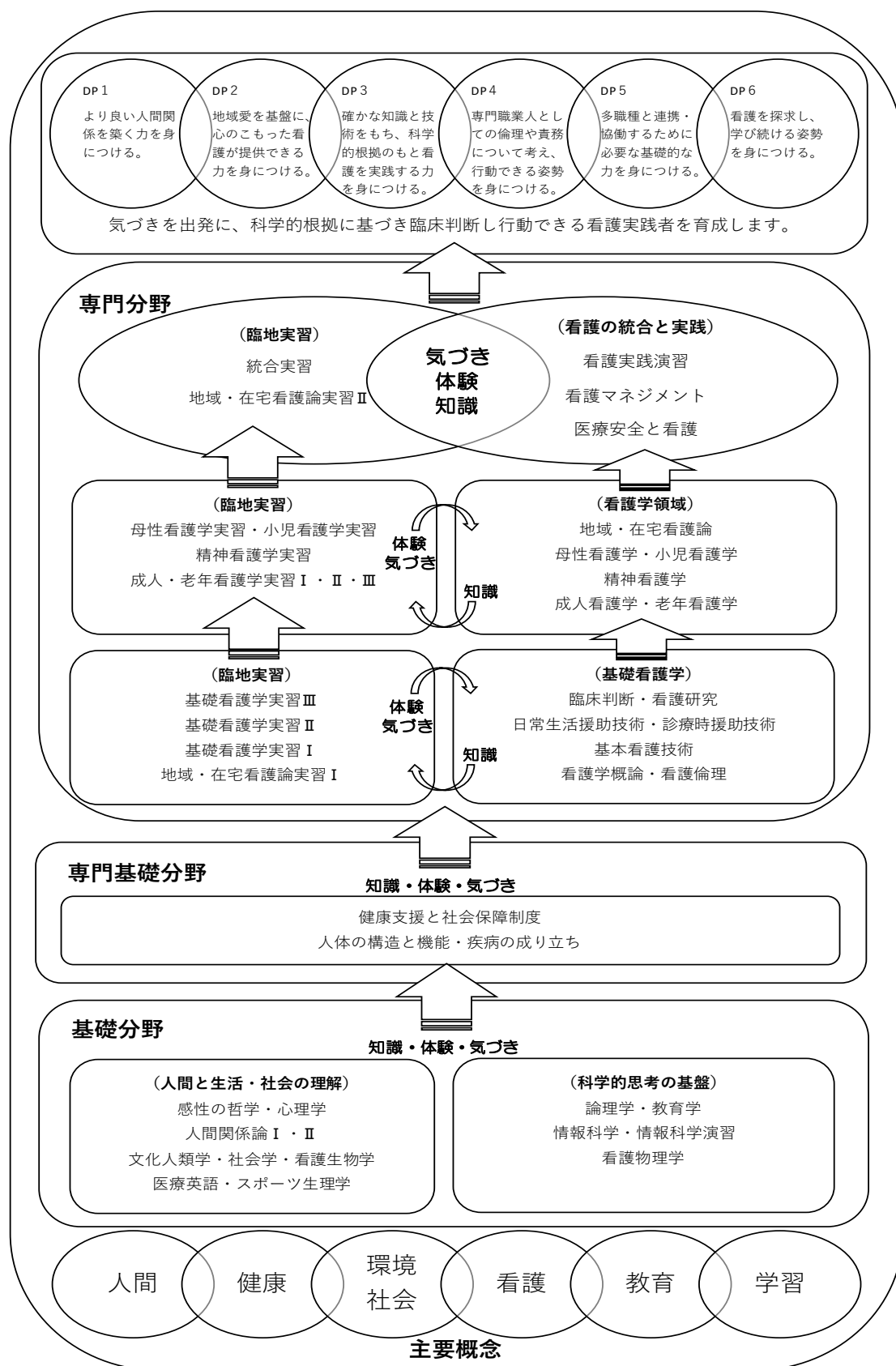
5.〔DP 多職種と連携・協働するために必要な基礎的な力を身につける。〕

看護はチームで行われます。専任教員が担当する看護学の講義ではグループワークを多く取り入れ、メンバーと協力して最後まで考え抜く力、答えを出す力を養います。地域・在宅看護論や領域横断科目となる家族看護・専門職連携・継続看護をとおしては、保健・医療・福祉にかかわる多職種の役割を学びます。また実習や演習をとおして他専門職学生との交流を深め、専門職間の連携・協働の必要性について考えていきます。このような活動をとおして、メンバーシップ・リーダーシップを身につけながら、多職種と連携・協働する力、地域・在宅で看護を実践する力を養っていきます。

6.〔DP 看護を探究し、学び続ける姿勢を身につける。〕

各看護学領域で与えられる課題の解決に向けて、個人またはチームで情報を集め整理し、ねばり強く最後まで考え抜き自ら答えを導き出すことのできる講義や実習を展開します。また、看護研究の授業をとおして研究方法を学習し、一つの事例を掘り下げて考え事例としてまとめる力を養っていきます。これらは臨床において課題を発見する力、今後の看護を発展させる力として必ず役立つものとなります。さらに、課外活動では、学生の皆さんの気づきや発想を最大限発揮できる主体的な活動を支援します。主体的な活動は、探求心や学び続ける力を養うものとなります。

カリキュラムデザイン



履修科目と進度

分野	内 容	授業科目	学年	1年次												2年次												3年次													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
基礎分野	H の 基 礎 的 基 礎	論理学	1 30																																						
		教育学	1 30																																						
		看護物理学	1 30																																						
		情報科学	1 30																																						
		情報科学演習	1 30																																						
		社会学	1 30																																						
		文化人類学	1 30																																						
		心理学	1 30																																						
		看護生物学	1 30																																						
		感性の哲学	1 30																																						
		人間関係論Ⅰ	1 15																																						
		人間関係論Ⅱ	1 30																																						
		医療英語	1 30																																						
		スポーツ生理学	1 30																																						
		専門基礎分野	機 体 の 成 り 立 ち	解剖生理学Ⅰ	1 30																																				
				解剖生理学Ⅱ	1 30																																				
生化学	1 30																																								
病理学総論	1 15																																								
症候論Ⅰ	1 30																																								
症候論Ⅱ	1 30																																								
微生物学	1 30																																								
疾病論Ⅰ	1 30																																								
疾病論Ⅱ	1 30																																								
疾病論Ⅲ	1 30																																								
疾病論Ⅳ	1 30																																								
疾病論Ⅴ	1 30																																								
保健医療論	1 15																																								
治療論	1 30																																								
臨床栄養学	1 30																																								
臨床薬理学	1 30																																								
専門分野	公 衆 衛 生 と 医 療 法 規 制	公衆衛生学	1 30																																						
		社会福祉	2 45																																						
		臨床心理Ⅰ	1 15																																						
		臨床心理Ⅱ	1 30																																						
		関係法規	1 30																																						
		看護学概論	1 30																																						
		看護倫理	1 15																																						
		基本看護技術Ⅰ	1 30																																						
		基本看護技術Ⅱ	1 30																																						
		日常生活援助技術Ⅰ	1 30																																						
		日常生活援助技術Ⅱ	1 60																																						
		診療時援助技術	2 60																																						
		臨床判断	2 30																																						
		看護研究	1 30																																						
		家族看護	1 15																																						
		専門分野	地 域 ・ 在 宅	保健指導論	1 30																																				
周術期と看護	1 30																																								
薬物療法と看護	1 30																																								
終末期と看護	1 30																																								

1 年次 開講科目と進度

分野	教育内容	授業科目	単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ページ	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30														
		教育学	1	30														
		看護物理学	1	30														
		情報科学	1	30														
		情報科学演習	1	30														
	社会と人間の生活	社会学	1	30														
		文化人類学	1	30														
		心理学	1	30														
		看護生物学	1	30														
		感性の哲学	1	30														
		人間関係論Ⅰ	1	15														
		人間関係論Ⅱ	1	30														
		医療英語	1	30														
		スポーツ生理学	1	30														
専門基礎分野	機能と人体の構造	解剖生理学Ⅰ	1	30														
		解剖生理学Ⅱ	1	30														
		生化学	1	30														
	疾病の成り立ち	病理学総論	1	15														
		症候論Ⅰ	1	30														
		症候論Ⅱ	1	30														
		微生物学	1	30														
		疾病論Ⅰ	1	30														
		疾病論Ⅱ	1	30														
		疾病論Ⅲ	1	30														
		疾病論Ⅳ	1	30														
		疾病論Ⅴ	1	30														
	回復の促進	保健医療論	1	15														
		治療論	1	30														
		臨床栄養学	1	30														
		臨床薬理学	1	30														
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30													
			看護倫理	1	15													
基本看護技術Ⅰ			1	30														
基本看護技術Ⅱ			1	30														
日常生活援助技術Ⅰ			1	30														
日常生活援助技術Ⅱ			1	60														
地域・在宅看護論		地域・在宅看護概論	1	15														
成人看護学		成人看護学概論	1	15														
老年看護学		老年看護学概論	1	15														
小児看護学		小児看護学概論	1	15														
母性看護学		母性看護学概論	1	15														
臨地実習		基礎看護学実習Ⅰ	1	45														
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90														
合計			44	1260														

2 年次 開講科目と進度

分野	教育内容	授業科目	単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ページ	
専門基礎分野	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	1	30														
		社会福祉	2	45														
		臨床心理Ⅰ	1	15														
		臨床心理Ⅱ	1	30														
		関係法規	1	30														
専門分野	基礎看護学	診療時援助技術	2	60														
		臨床判断	2	30														
		看護研究	1	30														
	領域横断	家族看護	1	15														
		保健指導論	1	30														
		周術期と看護	1	30														
		終末期と看護	1	30														
		専門職連携	1	30														
		継続看護	1	15														
		地域・在宅看護論	1	30														
	成人看護学	成人看護方法論Ⅰ	1	30														
		成人看護方法論Ⅱ	1	30														
		成人看護方法論Ⅲ	1	30														
		成人看護方法論Ⅳ	1	30														
	老年看護学	老年看護方法論Ⅰ	1	30														
		老年看護方法論Ⅱ	1	30														
	小児看護学	小児看護方法論Ⅰ	1	30														
		小児看護方法論Ⅱ	1	30														
	母性看護学	母性看護方法論Ⅰ	1	30														
		母性看護方法論Ⅱ	1	30														
	精神看護学	精神看護学概論	1	15														
		精神看護方法論Ⅰ	1	30														
		精神看護方法論Ⅱ	1	30														
	看護の統合と実践	医療安全と看護	1	30														
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	90														
		基礎看護学実習Ⅲ	2	90														
		成人老年看護学実習Ⅰ	*	*														
		成人老年看護学実習Ⅱ	*	*														
		小児看護学実習	*	*														
		母性看護学実習	*	*														
合計			36	1035														
																	* 印：3年次として開講	

3 年次 開講科目と進度

分野	教育内容	授業科目	単位数	時間数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ページ
専門分野	領域横断	専門職連携	1	30													
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30													
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30													
		地域・在宅看護方法論Ⅳ	1	15													
	看護の統合と実践	看護マネジメント	1	30													
		看護実践演習	1	30													
	臨地実習	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90													
		成人老年看護学実習Ⅰ	2	90													
		成人老年看護学実習Ⅱ	2	90													
		成人老年看護学実習Ⅲ	2	90													
		小児看護学実習	2	90													
		母性看護学実習	2	90													
		精神看護学実習	2	90													
統合実習		2	90														
合計			22	885													

基礎分野

授業計画

基礎分野は、専門基礎分野・専門分野の基礎となる分野で、看護に欠かせない科学的根拠の基盤や、人間関係構築の基盤となる重要な科目を総計 14 科目（14 単位）で構成しています。科学的思考の基盤を構成する科目では、看護を科学的に客観的に、系統的に考えるための基本的知識と、思考を整理する方法や情報を適切に活用するための方法を学びます。また、人々の多様な価値観や生活を理解するため、人間と生活・社会の理解を構成する科目においては社会学、文化人類学をととして社会の中に暮らす人間を理解します。心理学、看護生物学では個としての人間を理解します。また感性の哲学、人間関係論、医療英語、スポーツ生理学をととしては人々との人間関係を構築するための看護者としてのコミュニケーション能力を高めるための基本的知識を身につけます。

科目区分	基礎分野	科目名	論理学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	野村 文宏	実務経験 関連資格	別府大学 文学部 史学・文化財学科 教授		
目 的	論理学を学び、ものごとを筋道立てて考察し理解する方法を学ぶ。次に、批判的視点・思考（クリティカルシンキング）の重要性を理解し、そのための技法を学ぶ。最後に、論理学や批判的思考において学んだことを、レポートや論文において表現するための①基本的姿勢や②具体的技法について理解し学ぶ。				
目 標	1. 論理学について、基本的な事項を理解する。 2. クリティカルシンキングおよび批判への視点を理解する。 3. 論文やレポートを書く際の、基本的姿勢と具体的な注意事項について理解する。				DP への対応
					DP3 DP1,2,5 DP6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	論理学で何を学ぶかを理解する。		配布資料 パワーポイント	論理学とはどのような学問なのか、辞書で調べるなどして考えてみよう
	授業予定	ガイダンス ・イントロダクション：論理の基本についての講義 ・論理学とはどのような学問分野でありこの講義で何を何のために学ぶのか理解する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな接続関係について、論理学的観点から理解する。		配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業内容	論理学 ・さまざまな接続関係について			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	接続の構造について、論理学的観点から理解する。		配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	論理学 ・接続の構造について			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	議論の組み立てについて、論理学的観点から理解する。		配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	論理学 ・議論の組み立てについて			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	論証の構造について、論理学的観点から理解する。		配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	論理学 ・論証の構造について			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	推測と演繹について、論理学的観点から理解する。		配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	論理学 ・推測と演繹について			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	クリティカルシンキングと批判の視点の大切さについて理解する		配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	クリティカルシンキングについて学ぶ ・クリティカルシンキングとは何か。批判の視点の大切さ			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	議論の明確化について、クリティカルシンキングの視点から理解する。		配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解
	授業予定	クリティカルシンキング			

		・議論の明確化について		き授業に臨むこと
第 9 回 〔講義〕	到達目標	隠れた前提について、クリティカルシンキングの視点から理解する。	配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	クリティカルシンキング ・隠れた前提について		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	根拠の確かさについて、クリティカルシンキングの視点から理解する。	配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	クリティカルシンキング ・根拠の確かさについて		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	論文・レポートを書く際の、問題をつかむことの大切さを理解する。	配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	論文・レポートを書く（ロジカルライティング） ・問題をつかむ		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	論文・レポートを書く際の、組み立て方、構成の仕方について理解する。	配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	論文・レポートを書く（ロジカルライティング） ・論文・レポートを組み立てる		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	論文・レポートを書く際、具体的に注意すべき事項について理解する。	配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	論文・レポートを書く（ロジカルライティング） ・具体的に注意すべきこと 1		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	論文・レポートを書く際、具体的に注意すべき事項について理解する。	配布資料 パワーポイント	・講義内容や練習問題を復習しておくこと ・宿題・課題を解き授業に臨むこと
	授業予定	論文・レポートを書く（ロジカルライティング） ・具体的に注意すべきこと 2		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	教科書は使用しません。授業内でプリントを配布します。		
	参考図書	山田ズーニー『伝わる・揺さぶる!文章を書く』（PHP 新書） 渡辺健介『世界一やさしい 問題解決の授業』（ダイヤモンド社）		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		講義内容や練習問題を復習し、宿題・課題がある場合は自分で解いて授業に臨むこと。		
履修上の留意点		論理的な力は知識ではなく練習問題（トレーニング）を通じてしか向上しません。講義内で出される課題に意欲的に取り組んでください。		

科目区分	基礎科目	科目名	教育学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	伊藤 安浩	実務経験 関連資格	大分大学 教育学部 教授		
目 的	人間が社会的存在として成立するために、必要な不可欠な営為である教育について理解し、人間を対象とする看護を 実践していくための基礎的知識を学ぶ。				
目 標	1. 人間の成長・発達や学習に関する教育学の意義について理解する。 2. 教育とは何か、教育の対象と必要性、教育の内容、教育の方法、教育の評価に関する基礎 を理解する。 3. 教育に関する自分の考えを確立し、看護活動に活用する。			DP への対応	
				DP1,2 DP3,5	
				DP4,6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	教育学を学ぶ意義について理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	ガイダンス 教育学を学ぶ意義について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	現代社会における教育の現状を理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業内容	現代社会における教育の現状を説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	教育の語源と定義を理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	教育の語源と定義を説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	教育の法的基盤を理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	教育の法的基盤を説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	誕生直後の人間の姿に見る教育の意義を理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	誕生直後の人間の姿に見る教育の意義を説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	人間の成長・発達と教育の関係について理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	人間の成長・発達と教育の関係について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	生涯学習の意義について理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	生涯学習の意義について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	教育評価の目的について理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	教育評価の目的について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	教育評価の方法～集団準拠評価, 目標準拠評価, 個人内評価 ～について理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	教育評価の方法～集団準拠評価, 目標準拠評価, 個人内評価 ～について説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	教育評価の方法～自己評価, 相互評価, 他者評価～について 理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	教育評価の方法～自己評価, 相互評価, 他者評価～について 説明する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	家族と人間の成長・発達の関係について理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	家族と人間の成長・発達の関係について説明する。			
第 12 回 〔講義〕	到達目標	アメリカの家族との比較から, 日本の家族の特徴を理解す る。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	アメリカの家族との比較から, 日本の家族の特徴を説明す る。			
第 13 回 〔講義〕	到達目標	歴史的に見た日本の家族の特徴を理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	歴史的に見た日本の家族の特徴を説明する。			
第 14 回 〔講義〕	到達目標	テクノロジーの進歩に伴う家族像の変化を理解する。		配布資料	課題にきちんととり くんでください。
	授業予定	テクノロジーの進歩に伴う家族像の変化を説明する。			
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)			
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。			

		方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。
使用教材	テキスト	
	参考図書	系統看護学講座 基礎分野 教育学
	その他	
授業以外の学習方法		看護師は、自分自身を常に振り返りながら研鑽し向上していかなければなりません。さらに、患者や家族に対して、指導や助言が必要となり、教育者としての役割も担っています。教育とは、看護とは、自分の考えをもてるようになります。
履修上の留意点		看護と教育の関連について注目しながら、常に「なぜ？」と考えながら授業を受けましょう。

科目区分	基礎分野	科目名	看護物理学	単 位	1 単位
対象学年	1 年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	小林 正	実務経験 関連資格	大分大学 名誉教授 大分大学 理工学部創生工学科・電気電子コース		
目 的	看護技術の原理や原則を理解するための基礎を学ぶ。				
目 標	身近な現象を通して看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関係する物理学の原理を理解する。			DP への対応	
				DP3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をとおして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関係する原理を理解する。		教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	1. 物理学とは 看護への物理学の応用・・・看護物理学 2. 数学の準備 ：度(degree)と弧度(radian) 三角関数 sin cos tan 3. スマホの関数電卓機能による各種計算問題の演習と宿題 宿題：度・弧度の変換 三角関数の計算とグラフ表示			
第 2 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をとおして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関係する原理を理解する。		教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業内容	4. 物理量とは スカラー量とベクトル量 5. 国際 (SI) 単位系 基本単位と組立単位 SI 接頭語 (キロ・ミリ) 6. 質量 (k g) と重さ (k g 重)			
第 3 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をとおして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関係する原理を理解する。		教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	7. 力の合成と分解 三角関数の応用 演習問題 8. 体位と体位変換への力学の応用 9. MKS と CGS 単位系の換算 力 N(ニュートン)と dyn (ダイン)			
第 4 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をとおして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関係する原理を理解する。		教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	10. トルク (力のモーメント) と「てこ」の原理 11. トルクと体位変換 看護への応用 12. 仕事とエネルギー (J、cal、erg) 仕事率 (W (ワット)) の演習問題			
第 5 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をとおして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関係する原理を理解する。		教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	13. 重心 重心位置の計算 14. 安定の条件 (倒れない条件) 重心線 支持基底面 応用			
第 6 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をとおして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関係する原理を理解する。		教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	15. 運動量と撃力 定義と計算 身体ケアへの応用			

		16. 力のつりあい 牽引と身体ケアについて	義の前に提出)	
第 7 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をととして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する原理を理解する。	教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	17. 作用 反作用の力 と つりあいの力 看護への応用 18. 摩擦力と摩擦係数 看護と摩擦		
第 8 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をととして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する原理を理解する。	教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	19. 熱力学 ：温度・比熱 水の状態変化 融解熱・気化熱の問題 20. 看護における冷電法と温電法 水の状態変化と計算問題 21. 体熱の産生・喪失のバランス 伝導・対流・放射での熱の移動		
第 9 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をととして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する原理を理解する。	教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	22. 看護における電気 電流・電圧・抵抗 オームの法則 直流と交流 直列・並列回路 演習問題 23. 安全電気 電撃：マクロショックとミクロショック 24. 電力と電力量の計算		
第 10 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をととして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する原理を理解する。	教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	25. 看護における圧力 ：胃洗浄とサイホン 血圧 ポンベの圧力 単位の変換 ： Pa kg(重)/cm ² mmHg cmH ₂ O Torr atm		
第 11 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をととして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する原理を理解する。	教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	26. ネブライザーの原理 動圧と側圧 27. 流体： 連続の式 ベルヌーイの式 28. 毛細管現象 表面張力 濡れの現象と界面活性剤		
第 12 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をととして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する原理を理解する。	教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	29. 血圧測定と音の関係 30. 起立性低血圧 31. 血圧測定に関する注意事項とその根拠		
第 13 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をととして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する原理を理解する。	教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	32. 胸腔内圧と低圧持続吸引 33. 水封びんと圧制御びんの働き		

第 14 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	身近な現象をとおして看護に必要な物理学の基礎を学び、身体/身体ケアや検査・治療・処置に関する原理を理解する。	教材提示装置による講義、演習、宿題(次回講義の前に提出)	事前課題にしっかりと取り組み、授業に臨みましょう。
	授業予定	34. 酸素ポンベ と その取り扱い 35. ボイルの法則 シャルルの法則 ボイル・シャルルの法則		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。課題レポート(ほぼ毎回)と終講時の筆記試験の結果を 100%として評価する。		
使用教材	テキスト	完全版 ベッドサイドを科学する ―看護に生かす物理学― (学研メディカル秀潤社)		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法				
履修上の留意点		授業の進め方 授業は、中等教育の物理学Ⅰ・Ⅱや力学Ⅰ・Ⅱ(力の合成、トルクなど)、数学(三角関数)の知識を用いて講義を進める。教材提示装置を用いて、教科書及び配布教材をプロジェクターで教室正面のホワイトボードに映して効率よく授業を進める。時には既成品の血圧計、体温計、放射温度計、レーザー長さ測定器等を持ち込み、装置の測定原理、仕様、測定法を分かり易く説明する。或いは講義の説明を助ける実験装置、または動画ソフト等を導入して分かり易く授業を進めていく。 ほぼ毎回のように宿題を出します。宿題は A4 サイズのレポート用紙を縦向きで記入・作成して下さい。宿題の提出は次の授業の開始前にクラスごとに集めて提出して下さい。		

科目区分	基礎分野	科目名	情報科学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	①品川佳満 ②佐伯圭一郎	実 務 経 験 関 連 資 格	①大分県立看護科学大学 健康情報学 准教授 ②大分県立看護科学大学 健康情報学 教授		
目 的	社会における情報化進展およびコンピュータの役割や、仕組みとその利用方法について理解する。				
目 標	1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な用語を理解する。 2. 医療機関における個人情報保護のための対策・対応について理解する。 3. 情報セキュリティにまつわる危険を理解し、トラブルを事前に回避する方法を理解する。 4. インターネットや文献データベースを用いて、精度の高い検索方法を理解する。 5. 統計的データの適切な理解と基本的処理について理解する。			DP への対応	
				DP3,4,5,6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (品川)	到達目標	情報のさまざまな特徴を理解し、現代社会と医療現場における情報の適正な活用の意義を説明できる		テキスト 配付資料	テキストの対応部分を予習すること
	授業予定	情報の定義と特徴			
第 2 回 〔講義〕 (品川)	到達目標	コンピュータのハードウェアについて説明できる		〃	〃
	授業内容	情報機器・情報システムの基礎知識(1)コンピュータの仕組み			
第 3 回 〔講義〕 (品川)	到達目標	ソフトウェアやネットワークの仕組みについて説明できる		〃	〃
	授業予定	情報機器・情報システムの基礎知識(2)ネットワークやアプリケーションソフトの仕組み			
第 4 回 〔講義〕 (品川)	到達目標	個人情報の保護に関するルール、情報倫理の原則を説明できる		〃	〃
	授業予定	個人情報の保護・情報倫理			
第 5 回 〔講義〕 (品川)	到達目標	情報セキュリティを脅かす事例を知り、セキュリティ技術の概要を説明できる		〃	〃
	授業予定	情報セキュリティ(1)セキュリティ技術			
第 6 回 〔講義〕 (品川)	到達目標	セキュリティ対策の具体的内容を説明できると共に、実践できる態度を身につける		〃	〃
	授業予定	情報セキュリティ(2)セキュリティ対策			
第 7 回 〔講義〕 (品川)	到達目標	医療現場で利用されている各種情報システムについて説明できる		〃	〃
	授業予定	医療における情報システム(1)			
第 8 回 〔講義〕 (品川)	到達目標	電子カルテシステムや看護情報システムの仕組みと利用法を説明できる		〃	〃
	授業予定	医療における情報システム(2)			
第 9 回 〔講義〕 (佐伯)	到達目標	文章やスライドの上手な作成法や、プレゼンテーション・ネットワークへの情報発信の適切な行い方を説明できる		〃	〃
	授業予定	文章の作成・情報発信の技法			
第 10 回 〔講義〕 (佐伯)	到達目標	基本的な調査や実験のデザインと進め方について説明できる		〃	〃
	授業予定	調査や実験によるデータ収集			
第 11 回 〔講義〕 (佐伯)	到達目標	統計学の前提となる確率や統計学の基本概念を理解し、説明できる		〃	〃
	授業予定	統計データ解析(1)確率・統計の考え方			
第 12 回 〔講義〕 (佐伯)	到達目標	記述統計の手法の主要なものを説明できる		〃	〃
	授業予定	統計データ解析(2)記述統計			
第 13 回 〔講義〕	到達目標	推測統計の基本的な理論を説明できる		〃	〃
	授業予定	統計データ解析(3)推測統計の基礎			

(佐伯)				
第 14 回 〔講義〕	到達目標	基本的な推測統計の手法が説明でき、検定結果を適切に読み取ることができる	〃	〃
	授業予定	統計データ解析(4)推測統計各論		
第 15 回		まとめ 終講試験 (50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座「看護情報学」医学書院		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおきましょう。		
履修上の留意点		課題にきちんと取り組んでください。		

科目区分	基礎分野	科目名	情報科学演習	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	佐伯圭一郎	実務経験 関連資格	大分県立看護科学大学 健康情報学 教授		
目 的	コンピュータを情報処理および管理の道具として使いこなす方法を理解し、コミュニケーションや学習の道具、さらに、看護研究に必要な統計処理の基礎知識について学び、実際にコンピュータを使った処理技術を理解する。				
目 標	1. ネットワークの利用方法を理解する。 2. ファイル管理と文書作成について理解する。 3. 表計算、プレゼンテーション、統計処理の基礎を理解する。			DP への対応	
				DP3,4,5,6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	基本的な操作のスキルと知識を身につけ、安全確実にコンピュータ作業を行うことができる		テキスト、 配付資料	テキストの対応部分を予習すること、また「情報科学」の講義の対応部分を復習しておくこと
	授業予定	コンピュータ操作の基礎			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	インターネットやイントラネット利用の基本知識を深め、安全にネットワークサービスを利用できる		〃	〃
	授業内容	ネットワークの利用(1)ネットワークの仕組みと基本			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	ウェブ検索を効率よく行う技術を身につける、データベースの仕組みが説明できる		〃	〃
	授業予定	ネットワークの利用(2)情報検索の技術、データベース			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	各種文献データベースを理解し、学術論文を検索するための基本的記述を身につける		〃	〃
	授業予定	ネットワークの利用(3)文献データベース			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	基本的な文書作成・編集操作を身につけ、罫線を用いた表を作成できる		〃	〃
	授業予定	文書作成(1)Word による文書作成の基本と作表			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	図なども組み込み、全体の構成も考慮した文書作成ができる		〃	〃
	授業予定	文書作成(2)Word による表現力のある文書作成			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	パワーポイントの基本操作を行える		〃	〃
	授業予定	プレゼンテーション(1)パワーポイントの基本			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	動画や写真などを加工したプレゼンテーションを作成できる		〃	〃
	授業予定	プレゼンテーション(2)画像・動画処理			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	表計算ソフトにおけるデータ入力や作表などの基本操作ができる		〃	〃
	授業予定	表計算(1)Excel の基本操作			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	表計算ソフトで計算式や関数を使って、データを加工できる		〃	〃
	授業予定	表計算(2)計算・関数の利用			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	数値による要約やグラフによる 1 変数の記述統計を実践できる		〃	〃
	授業予定	表計算(3)Excel による記述統計 1			
第 12 回 〔講義〕	到達目標	数値による要約やグラフによる 2 変数の記述統計を実践できる		〃	〃
	授業予定	表計算(4)Excel による記述統計 2			
第 13 回 〔講義〕	到達目標	基本的な推定・検定の手法を表計算ソフトで行える		〃	〃
	授業予定	表計算(5)Excel による推測統計			
第 14 回 〔講義〕	到達目標	表計算、プレゼンテーション、文書作成のソフトウェアを連携させ、活用することができる		〃	〃
	授業予定	ソフトウェアの連携／総合演習			

第 15 回		まとめ 終講試験 (50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座「看護情報学」医学書院		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		IT化の進展は、医療・看護の現場において、患者の所見や検査結果、看護データなどが、電子データとして日常的に蓄積され、いつでも、だれでも、容易に利用できるようになりました。情報リテラシーをしっかりと学習しましょう。		
履修上の留意点		提示した課題には、しっかり取り組んでください。		

科目区分	基礎分野	科目名	社会学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	松森 武嗣	実務経験 関連資格	長崎県立大学 非常勤講師 (元) 別府大学 文学部 史学・文化財学科 教授		
目 的	社会の仕組みや構成を理解し、社会的存在としての人間について理解し、社会をさまざまな角度からとらえることで、人々の多様性を認め、多様な人々が生きやすい社会について学ぶ。				
目 標	1. 社会の仕組みや構成を理解する。 2. 社会の現実を客観的に理解する。 3. 人々多様性を認め、多様な人々が生きやすい社会について理解する。				DP への対応
					DP1,2,3,5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	授業概要の説明、戦前の日本社会の特徴を理解する。		配付資料	課題にきちんと取り 組む（生活の基本的 単位、相互扶助な ど）
	授業予定	授業概要の説明、日本社会の変容(1)戦前を説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	戦後～1970 年代の日本社会の特徴を理解する。			課題にきちんと取り 組む（生存権、農地 改革など）
	授業内容	日本社会の変容(2)戦後～1970 年代を説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	1980 年代以降の日本社会の特徴を理解する。			課題にきちんと取り 組む（都市社会の変 容など）
	授業予定	日本社会の変容(3)1980 年代以降を説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	コミュニティの意味を理解する。			課題にきちんと取り 組む（概念の内容、 コミュニティの類型 など）
	授業予定	コミュニティの定義、都市コミュニティの理論などを説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	コミュニティ形成と社会参加を理解する。		配付資料	課題にきちんと取り 組む（中央社会福祉 審議会の答申など）
	授業予定	コミュニティ形成と社会参加を説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	地域福祉の基本理念(1)普遍化、統合化を理解する。			課題にきちんと取り 組む（授業の復習な ど）
	授業予定	地域福祉の基本理念(1)普遍化、統合化を説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	地域福祉の基本理念(2)住民参加、生活の共同化を理解する。			課題にきちんと取り 組む（授業の復習な ど）
	授業予定	地域福祉の基本理念(2)住民参加、生活の共同化を説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	地域福祉の内容を理解する。		配付資料	課題にきちんと取り 組む（5 つの具体的 内容など）
	授業予定	地域福祉の内容を説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	地域福祉の対象を理解する。			課題にきちんと取り 組む（地域問題とし ての生活問題など）
	授業予定	地域福祉の対象を説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	高齢者福祉の理念と沿革を理解する。		配付資料	課題にきちんと取り 組む（老人福祉法な ど）
	授業予定	高齢者福祉の理念と沿革を説明する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	高齢化の現状と将来を理解する。		配付資料	課題にきちんと取り 組む（高齢化の特徴 など）
	授業予定	高齢化の現状と将来を説明する。			
第 12 回 〔講義〕	到達目標	地域福祉の構成(1)－在宅福祉・環境改善サービスを理解する。		配付資料	課題にきちんと取り 組む（在宅福祉サー

	授業予定	地域福祉の構成(1)－在宅福祉・環境改善サービス－を説明する。		ビスの類型化など)
第 13 回 〔講義〕	到達目標	地域福祉の構成(2)－組織化活動、共同募金・福祉基金－を理解する。	配付資料	課題にきちんと取り組む（介護・施設の社会化など）
	授業予定	地域福祉の構成(2)－組織化活動、共同募金・福祉基金－を説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	地域福祉の主体－ボランティア活動、社協－を理解する。	配付資料	課題にきちんと取り組む（ボランティア活動の特質など）
	授業予定	地域福祉の主体－ボランティア活動、社協－を説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト			
	参考図書	系統看護学講座 基礎分野 社会学		
	その他	配布資料		
授業以外の学習方法		社会の仕組みや構成について学んだことを今の自分にあてはめて、人間の行動や、人と人との関係性を社会的に理解していきましょう。		
履修上の留意点		基礎分野の人間と生活・社会の理解に位置付けられています。様々な角度から人間をとらえ、多様な人々の生きやすい社会について考えていきましょう。		

科目区分	基礎分野	科目名	文化人類学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	針塚 瑞樹	実務経験 関連資格	別府大学 文学部 教職課程 准教授		
目 的	文化人類学の基本的な考え方を学習することで、人間の物の見方や行動様式の多様性を理解すると同時に、自分が準拠する社会において当たり前となっている考え方を、一歩距離をおいて見つめ直す視点の獲得を目的とする。人によって異なる背景や志向を理解し、尊重する看護実践を重んじる態度の獲得を目指す。				
目 標	1. 「文化」の普遍性と多様性を理解する。 2. 自分にとっての「当たり前」が他者にとっての「当たり前」と異なることを理解する。 3. 他者を尊重するとはどういうことかについて、話し合い、考えを深める。			DP への対応 DP1,2,4,5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	文化という概念について説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	授業の進め方について 文化を学ぶ意義について話し合い、理解を深める			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	文化人類学の学問的特質を説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業内容	文化人類学とはどのような学問であるか理解し、現代社会において文化人類学を学ぶことの意義はどのようなものかについて考える。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	質的研究とはどのような研究の手法であるか説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	他者を理解するための手法としての質的研究の特徴を理解する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	エスノグラフィーとはどのような研究の手法であるか説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	エスノグラフィーの研究の視点と方法について理解する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	家族の機能・類型とその変化について説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	家族の機能と類型、その変化について理解する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	現代社会における家族・親族の多様な在り方について説明できる①		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	事例を基に現代社会における家族・親族の多様な在り方について考え、議論する①			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	現代社会における家族・親族の多様な在り方について説明できる②		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	事例を基に現代社会における家族・親族の多様な在り方について考え、議論する②			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	文化人類学における宗教概念について説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	「宗教」という言葉が幅広い思想や実践を含むことを理解する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	トランスナショナルという時代状況と、宗教に対する理解の重要性について説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	トランスナショナル時代状況において、宗教に対する理解が重要である理由について話し合い、理解する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	病気を認識する様式があるとはどういうことか説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	病気の認識についての普遍性と多様性について理解する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	医療体系について病気の観念と治療の制度の観点から説明できる		テキスト 配布資料	指示した予習や課題 に取り組む。
	授業予定	社会によって異なる病気の観念と医療の制度が関連づけられ体系化された医療制度のなかで、病気と医療の現象化することを理解する			
第 12 回	到達目標	病気や障害を環境に対する適応/不適応という視点から説明		テキスト	指示した予習や課題

〔講義〕		できる	配布資料	に取り組む。
	授業予定	発達障がい事例に基づき、障害の個人モデルと社会モデルの見方を理解する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	「いのち/生命」の認識や表現が文化により異なることを説明できる	テキスト 配布資料	指示した予習や課題に取り組む。
	授業予定	生物が生きていることには、客観的な領域と主観的な領域があり、それらに価値の考え方が関連することを理解する		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	「いのち/生命」のはじまりや存在に関する認識が、文化や時代状況によって変化することを説明できる	テキスト 配布資料	指示した予習や課題に取り組む。
	授業予定	事例に基づき「いのち/生命」の誕生をどのように認識するのかは、人々の規範や技術の発展の相互作用により変化することを理解する		
第 15 回		まとめ 終講試験（50 分）		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：コメント 40 点、筆記試験 60 点として評価を行う。60 点未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院		
	参考図書	授業中に提示する。		
	その他	毎授業後に授業の内容に関して考えたことをできるだけ具体的にコメントする。		
授業以外の学習方法		授業の前に、教科書の該当箇所を精読し、疑問に思うところや興味深いところを把握する。		
履修上の留意点		授業は授業者と受講生と一緒につくるものです。対話をしながら一緒に良い授業をつくりましょう。		

科目区分	基礎分野	科目名	心理学	単位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時間	30 時間
担当教員	麻生 良太	実務経験 関連資格	大分大学 教育学部附属教育実践総合センター 准教授		
目 的	この授業では、はじめに基礎的な分野で従来積み上げられてきた研究を概観し、基礎的な心理学事実を関連付け統合し、実際の看護や臨床の場面で、どのように対応すべきか、また、実際になされているかについて学ぶ。				
目 標	1. 心理学の概要について理解する。 2. 実際の看護や臨床の場面でどのように対応すべきかについて理解する。			DP への対応	
				Dp1,2	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	心理学の概要について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	ガイダンス 心理学とは を説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	感覚と知覚の関係について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業内容	感覚と知覚の関係について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	知覚された世界、ゲシュタルト心理学について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	知覚された世界、ゲシュタルト心理学を説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	空間・時間の知覚、対人知覚について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	空間・時間の知覚、対人知覚について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	学習と記憶、条件反射について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	学習と記憶、条件反射について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	記憶のメカニズム、記憶の種類について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	記憶のメカニズム、記憶の種類について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	感情・情緒・情動について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	感情・情緒・情動について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	動機の種類、情緒、情動について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	動機の種類、情緒、情動について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	情の役割、相互主体性について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	情の役割、相互主体性について説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	精神発達のプロセス(1):ピアジェの認知発達理論について理解する。		テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	精神発達のプロセス(1):ピアジェの認知発達理論について説明する。			

第 11 回 〔講義〕	到達目標	精神発達のプロセス(2):フロイト、エリクソンの心理・社会的発達理論について理解する。	テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	精神発達のプロセス(2):フロイト、エリクソンの心理・社会的発達理論について説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	発達障害と適応についてについて理解する。	テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	発達障害と適応についてについて説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	健康と病気について理解する。	テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	健康と病気について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	看護職と心理学について理解する。	テキスト 配布資料	指示した予習、復習、課題についてきちんと取り組みましょう
	授業予定	看護職と心理学について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	古城和敬 編「あなたのこころを科学する」北大路書房		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		人間の心の働きについて幅広く学びます。看護援助と密接に関係しています。日頃から、人間の心理について考えましょう。		
履修上の留意点		心理学は、皆さんにとって身近な学問です。学んだ理論を自分に置き換えながら学習していきましょう。		

科目区分	基礎分野	科目名	看護生物学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	西村 靖史	実務経験 関連資格	別府大学 文学部 人間関係学科 教授		
目 的	生命現象の基礎を理解し、生物学の基礎的知識の習得と生物学をとおして人について考える視点について学ぶ。				
目 標	1. 細胞の構造と機能、生命とエネルギー、遺伝子の働き、個体発生といった生物体内にみられる生命のミクロな現象について理解する。 2. 生態系や進化などのマクロな現象について理解する。			DP への対応	
				DP3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	生物や生命、生命観についての変遷を学び、生命の特徴と生命科学について理解する		テキスト	・教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	生命観とその変遷 生命と生物学 看護・医療の基礎科学としての生物学			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	生命体の構造と機能について理解する		テキスト	・教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業内容	生物学における構造と機能 細胞とその構造、細胞の化学成分、細胞膜の輸送 細菌とウイルス			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	生体維持のエネルギーについて生化学的機能について理解する		テキスト	・教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	生体寧の化学反応 ATP の生合成			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	細胞の増殖とからだのなりたちについて理解する #01		テキスト	・教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	細胞分裂 細胞の分化と個体のなりたち 細胞の老化			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	遺伝情報とその伝達・発言の仕組みについて理解する #01		テキスト	・教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	遺伝の法則と染色体 遺伝情報の担い手（DNA） DNA の複製			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	遺伝情報とその伝達・発言の仕組みについて理解する #02		テキスト	・教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	遺伝情報の伝達（RNA） タンパク質の合成（翻訳） 遺伝子組み換え技術とゲノムの構造解析方法、変異			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	遺伝情報とその伝達・発言の仕組みについて理解する #03		テキスト	・教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	ヒトの遺伝 遺伝子組み換えの応用			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	生殖と発生のメカニズムを理解する		テキスト	・教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	無性生殖と有性生殖 動物の授精と発生、哺乳類の発生			

第 9 回 〔講義〕	到達目標	個体の調節機能について理解する	テキスト	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	ホメオスタシス 各器官系の働き（呼吸、消化、循環、免疫、排出） 神経性相関、液性相関、無脊椎動物のホルモン		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	刺激の受容と行動の関係について理解する #01	テキスト	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	神経系における情報処理、環境の情報とその受容 神経系の情報伝達		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	刺激の受容と行動の関係について理解する #02	テキスト	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	神経系の系統的発達、効果器のはたらき 行動		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	生命の進化と多様性について理解する	テキスト	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	化学進化と生命の起源、生物の多様化と絶滅の歴史 生物の分類と系統、ヒトの起源と進化、進化の仕組み		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	生物と環境のかかわりについて理解する	テキスト	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	生物の集団、動物の社会、生態系の経済、 生態系の物質循環		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	地球環境とヒトの共存について理解する	テキスト	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	人間活動による環境への影響、生物多様性の保全		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 基礎分野 生物学		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		高校で生物を選択しなかった人は、高校の教科書や参考書で事前に基礎的知識を学習しておくことがのぞましいです。		
履修上の留意点		専門基礎分野の解剖生理学を学ぶための基礎的知識を学習する科目です。人間の体の仕組みについて関心を持ち、生きていくための体の部分と全体の働きを学びましょう。		

科目区分	基礎分野	科目名	感性の哲学	単位	1単位
対象学年	1学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	清岡 佳子	実務経験 関連資格	病院における看護師、助産師経験 別府市医師会立別府青山看護学校教員		
目的	感性の働きを身体的及び精神的次元から理論的に学び、さらに感性が社会的にどのような意味を持ち、表現されているかを理解し、看護実践の基礎知識として修得し、看護活動に役立かについて考察する。さらに、さまざまな議論を通して感性の視点で人間の社会性について、感性活動を浮彫にしていくことを目的とする。				
目標	1. 自分自身の感性に気づき、自分自身の経験に感性的理論づけを行うことができる。 2. 私たちの行動場面から感性についてリフレクションし、感性の視点から個別性を理解する。 3. 人間としての社会性を感性の視点から捉えてみる。			DP への対応	
				DP1,2 DP6	
				DP4	
授業回数 〔方法〕	内容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	ガイダンス： 感性の概要について理解する。（感性とは、感性の働き）		パソコン使用 論文：感性について （倉橋重史） カントの感性	今の自分が思うあるいは、考える感性について表現できるよう学習する。本授業がどのように展開するのか、シラバスから概要を理解しておく。
	授業予定	私たちは、「感性を通じて世界に開かれていることを具体的に知覚・触覚・痛みなど身体的次元から、感情や気分など精神的次元に至るまで、感性の働きを理論的に理解し、社会の中で感性がどのような意味を担わされているか、表現されているかを述べるができる。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	1. 感性の人体的側面の働きについて説明できる 1) 受容器と感覚情報についての理解。 （五感）及び平衡感覚、内臓感覚 2. 人の感性の違いについて説明できる		感性人材の育て方・活かしか方 p 3 2 感性について p 52	人間の受容器としての解剖生理について復習しておく。
	授業内容	1. 感性の人体的側面の働きについて理解する。 2. 感性と感覚器及び受容器について説明できる。自分自身の感覚を作動させてみる。視覚に焦点をあててみる			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	視覚と感性（視覚と感覚器、「みる」の多様性、言語表現：見かけ）について説明できる。		山上宋二記 「」茶道辞典	見ると観察を関連づけて学習しておく。
	授業予定	鑑賞の見る力、見ることの意味を事例をとおして「見える」ということについて説明できる。相手のことがどのようにみえるかについて、ナイチンゲールの相互性の中での見えるについて考えることができる。（「目利き」とは？）			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	聴覚と感性（聴覚と感覚器、「きく」の多様性について説明できる。言語表現：馬の耳）について説明できる。		資料配布	きくと、コミュニケーションについて学習しておく。
	授業予定	「心臓といのち」について感性論の視点でグループ討議			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	触覚と感性（触覚と感覚器、「ふれる」の多様性、）について説明できる。		資料配布	触れるとフィジカルアセスメントの関係について学習しておく。
	授業予定	触れて感じるメカニズムについて、触覚が人間へ及ぼす影響について理解する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	嗅覚と感覚器（「におう」の多種）について説明できる。		資料配布	臭うと看護との関係について学習しておく。
	授業予定	嗅覚のメカニズムについて、嗅覚が人間へ及ぼす影響について述べるができる。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	味覚と感覚器について説明ができる。		資料配布	味覚と看護との関係について学習しておく。
	授業予定	味覚のメカニズムと味覚の多様性について説明できる。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	平衡感覚と受容器について説明できる。		資料配布	平衡感覚と看護との関係について学
	授業予定	平衡感覚のメカニズムについて説明できる。体感バランス			

		とることの感性の視点		習しておく
第 9 回 〔講義〕	到達目標	1. 人の感性とコミュニケーションについて考えることができる。 2. 「言葉のケア」を深めることの意義について説明ことができる。	①シュラーの共感 研究感性とは P63。 ②ネット「チルドケアの言葉」	言葉とコミュニケーションを関係づけて学習しておく。
	授業予定	患者中心のチーム医療でのコミュニケーションについて		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	感情論と気分と日常性について説明できる。	資料配布	自分の感情。気分について向き合ってみる。
	授業予定	身体メカニズムと感情との関係、日常生活と感情の変化		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	感性の連続性と非連続性の問題について説明できる。感性の社会・環境的側面について説明できる	資料配布 感性の研究 p 55	人と人との絆と感性がどのように関係について学習しておく。
	授業予定	人と人をつなぐものについての感性		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	感性の実践的ケアについて理解できる。五感とセルフケア、色彩、アロマなど生活に取り入れ、五感に働きかけ、体の声を聞くことができる。	資料配布 WHOのセルフケア	
	授業予定	Q「個々のセルフケアについて。」演習		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	感性の感度をたかめる方法について理解し、取り組むことの必要性について説明できる。	資料配布	
	授業予定	感性能力を高めるための方法を身につける。みる、きく、ふれる、臭う、味わう、痛み、かゆみなど表現することなどからだ全体を使った感性の磨き方について体験する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	全体まとめ：プロセスレコードによる感性のトレーニング	資料配布	感性力を磨く道具としてプロセスレコードの活用について学習しておく。
	授業予定	知覚（対象が表現したこと、私が感じたり、思ったこと、私が話したり、行ったことを記述）		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		筆記試験の準備をしておく。
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：筆記試験 100 点満点で、60 点以上を合格とします。評価基準は、GPA を参考とし、筆記試験 80%、授業態度や課題レポートを 20%として評価します。		
使用教材	テキスト	授業は配布した資料を使用します。		
	参考図書	参考図書は授業ごとに提示します。		
	その他			
授業以外の学習方法		解剖生理や人間関係論、看護概論と関連付けて学習し、看護実践で感性力を磨いていけるよう学習してください。		
履修上の留意点		授業の出席日数が、3 分の 2 以下の場合は、筆記試験を受ける資格がありません。また、授業中の態度や課題レポートは、20%の評価となっています。提出期限を守ってください。		

科目区分	基礎分野	科目名	人間関係論Ⅰ	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	15 時間
担当教員	古城 和敬	実務経験 関連資格	放送大学 大分学習センター 所長（特任教授） 大分大学 名誉教授		
目 的	人間関係の諸相をグループワークをとおして体験し、理解する。				
目 標	1. 人間関係や集団過程の諸相を理解できる。 2. グループワークをとおしてリーダーシップやメンバーシップ、集団のまとまり、協働を理解できる。				DP への対応
					DP1 DP5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	1. 社会心理学や集団力学の知見から、人間関係や集団過程の諸相の一端を理解する。		配布資料「人間関係論課題プリント1」	課題学習
	授業予定	1. オリエンテーション 2. 人間関係論とは何か－社会心理学や集団力学の知見から			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	1. グループワーク(KJ法)をとおして人間関係や集団過程の諸相(リーダーシップやメンバーシップ、集団のまとまり、協働)を体験し、理解する。		配布資料「KJ法の実習」	課題学習
	授業内容	1. グループワークの意義と目的 2. グループワークの進め方 3. グループワークの実践（課題提示、ラベルづくり①）			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	1. グループワークをとおして人間関係や集団過程の諸相（リーダーシップやメンバーシップ、集団のまとまり、協働）を体験し、理解する。		配布資料「KJ法の実習」	課題学習
	授業予定	グループワークの実践（ラベルづくり②）			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	1. グループワークをとおして人間関係や集団過程の諸相（リーダーシップやメンバーシップ、集団のまとまり、協働）を体験し、理解する。		配布資料「KJ法の実習」	課題学習
	授業予定	グループワークの実践（ラベル集め、表札づくり①）			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	1. グループワークをとおして人間関係や集団過程の諸相(リーダーシップやメンバーシップ、集団のまとまり、協働)を体験し、理解する。		配布資料「KJ法の実習」	課題学習
	授業予定	グループワークの実践（ラベル集め、表札づくり②、空間配置）			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	1. グループワークをとおして人間関係や集団過程の諸相（リーダーシップやメンバーシップ、集団のまとまり、協働）を体験し、理解する。		配布資料「KJ法の実習」	課題学習
	授業予定	グループワークの実践（図解化①、文章化①）			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	1. グループワークをとおして人間関係や集団過程の諸相（リーダーシップやメンバーシップ、集団のまとまり、協働）を体験し、理解する。		配布資料「KJ法の実習」	課題レポートの作成
	授業予定	グループワークの実践（図解化②、文章化②）			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	1. グループワークをとおして人間関係や集団過程の諸相（リーダーシップやメンバーシップ、集団のまとまり、協働）を体験し、理解する。		配布資料「KJ法の実習」	課題レポートの作成
	授業予定	1. グループワークの実践（グループによる口頭発表と質疑応答） 2. 授業のまとめ			
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：			

		課題レポート 70% 口頭発表と図解化作品 20% 授業への積極的参加（質疑応答）10% 計 60%未満は再試験とする。
使用教材	テキスト	
	参考図書	
	その他	
授業以外の学習方法		普段より人との関係性づくりについて関心を持ち、よりよい人間関係とは何かを考えましょう。
履修上の留意点		グループワークで自分の意見を述べ、相手の考えを聴くなど、グループ・ディスカッションの方法を学びましょう。

科目区分	基礎分野	科目名	人間関係論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	榊原 有紀	実務経験 関連資格	別府大学 文学部 人間関係学科 講師 臨床心理士 公認臨床心理士		
目的	看護における患者との関係、医療現場での同僚や多職種連携をはかるためのコミュニケーションの持ち方を学び、円滑な人間関係を構築する能力を身につける。				
目 標	1.自己理解、他者理解について理解する。 2.アサーティブな自己表現について理解する。 2.傾聴スキルを理解する。			DP への対応	
				DP1,4	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	コミュニケーションの機能・目的について理解する。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	関係的存在としての人間について説明する。 さまざまなコミュニケーションについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	自己理解、他者理解を促進し、関係的自己を体験する。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業内容	自己理解、他者理解視点の重要性について説明を行い、コミュニケーションの体験的学習を行う。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	人間関係と援助的コミュニケーションについて理解する。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	態度と対人行動について説明する。 援助行動の心理的基盤について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	闘病を支える人間関係を理解する。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	闘病を支える者としてのコミュニケーションの在り方や人間関係構築の視点を体験的に学ぶ。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	看護師としてのアサーションの理論とスキル		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	ナースになぜアサーションが必要かを説明する。 DESC 法の説明をする。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	アサーティブコミュニケーションの看護への応用		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	アサーティブナースになるにはどうしたらよいかを説明する。 アサーティブコミュニケーションの体験学習。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	保健医療チームの人間関係について理解する。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	医療におけるチームと看護師の役割について説明する。 他職種連携について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	チームにおけるコミュニケーションエラーを理解する。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	コミュニケーションエラーの体験的学習を行う。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	患者心理を理解する視点を育む。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	患者体験について説明する。 看護理論にみる患者・看護師関係を説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	受容と傾聴について理解を深める。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	他者の話を聴くことについて考え、体験する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	傾聴スキル(1)共感的理解について理解する。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	患者の話を共感的に聴くために必要な視点の説明をする。			
第 12 回 〔講義〕	到達目標	様々な病状の患者心理を受容し、傾聴する意義を体験的に理解する。		テキスト、 配付資料	指示した予習や課題 にきちんと取り組み しましょう
	授業予定	慢性疾患の患者、人間関係構築が難しい患者の心理を説明、対応について考える(受容、傾聴、関係性構築)。			
第 13 回	到達目標	ロールプレイを理解する。		テキスト、	指示した予習や課題

〔講義〕	授業予定	患者の家族を含めた人間関係を説明し、ロールプレイを用いた体験的学習を行う。	配付資料	にきちんと取り組みましょう
第 14 回 〔講義〕	到達目標	看護師としての自己像について体験的に理解する。	テキスト、 配付資料	指示した予習や課題にきちんと取り組みましょう
	授業予定	ロールプレイを用いた体験的学習を行い、看護師としての自己理解を深める。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座「基礎分野 人間関係論」医学書院		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		看護師は看護手技のほかに、対人コミュニケーションのなかから他者を理解する視点が求められます。自分自身のことも大切にしたいよりよい看護実践のために、授業内で知ったことを日常にも活用してほしいと思います。		
履修上の留意点		素朴な疑問を大拙にし、心に浮かんだ質問を遠慮なくしましょう。		

科目区分	基礎分野	科目名	医療英語	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	真部 健一	実務経験 関連資格	(元) 別府大学 短期大学部 教授 (現) 別府大学 短期大学部 非常勤講師		
目 的	国際化社会の進展に伴い、文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションに必要とされる英語力の養成が求められている。本授業では、看護・医療の現場で必要とされる英語の語彙や専門用語、会話表現などの基礎的基本的な英語力を、リスニングやリーディング、対話練習等をバランスよく学習することにより身につけることができる。				
目 標	1.看護に関する英語の読み物や対話文を理解したり、場面に応じて簡単な英語で言いたいことを表現できるようになる。 2.看護や医療に関する語彙や英語表現を身につけるとともに、英語に対する興味関心が深まる。			DP への対応 DP1,2,4	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	1.授業の目的、目標、内容、方法等について理解する。 2.英語を通して看護の基本的なことを学習することに、興味を抱くようになる。		テキスト 配布資料	
	授業予定	ガイダンス 自己紹介等			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。			1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業内容	Chapter 1 First Visit to a Hospital (来院)			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。			1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 2 How to Fill in a Registration Form (初診受付)			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。			1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities (生活習慣を聞く)			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。			1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 4 Mr. Brown's Symptoms (問診 (1))			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。			1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演
	授業予定	Chapter 5 Medical Check Up 1			

		(脈拍、血圧、体重の測定)		習問題は英語辞書等を用いて調べる。
第 7 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。		1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 6 Medical Check Up 2 (採血、採尿)		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。		1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 7 Mr. Brown's Diagnosis(診断 1)		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。		1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 8 Mr. Anderson's Symptoms (問診(2))		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。		1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 9 Let's ask More about Mr. Anderson's Symptoms (症状をより詳しく聞く)		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。		1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 10 Explaining Blood Test Results (診断 (2))		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。		1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 11 How to Take Medicine (薬の説明)		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。		1. リーディング教材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 12 Mrs. Johnson Feels Dizzy (問診 (3))		
第 14 回	到達目標	1.看護に係る英語の対話文の概要を聞き取ったり、口頭でリ		1. リーディング教

〔講義〕		ピートできるようになる。 2.看護に係る英文の内容を理解する。 3.看護に係る英語の語彙や表現を身につける。		材の内容理解に努め、以下の問いに解答する。 2. 語彙、表現の演習問題は英語辞書等を用いて調べる。
	授業予定	Chapter 15 Post-operative Care (術後のコミュニケーション)		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	"First Aid! English for Nursing" (樋口昭彦/John Tremarco 著) 金星堂		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		・異文化間の人との交流を行うために必要な英語の基本的能力を身につける科目です。看護の主要概念である人間、健康、環境、看護の全領域に貢献します。 ・授業で学習した語彙や表現、対話文等については、何度も音読し暗唱するようにしてください。		
履修上の留意点		高校までに学習した英語の知識を活用し、読解力、聴解力、会話力の伸長を目指します。予習は必ず行って授業に臨んでください。英語の辞書は必ず持参してください。		

科目区分	基礎分野	科目名	スポーツ生理学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	長野 力	実務経験 関連資格	別府大学 健康センター所長 看護師養成所講師経験 健康運動指導士		
目的	現代における健康のあり方について考察し、健康を保持・増進し、体力向上のための具体的方法について実践をと おして学ぶ。				
目 標	1. 健康生活を送るためにスポーツとの関係を理解する。 2. 体力向上のための具体的方法を理解する。			DP への対応	
				DP3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	健康生活を送るためにスポーツとの関係を理解する。		配布プリン ト	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ガイダンス健康観の重要性、スポーツの意義、体力測定結果 から考えることなどについて説明する。 健康度アンケート調査			
第 2 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業内容	ストレッチ体操、バレーボール			
第 3 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 4 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 5 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 6 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 7 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 8 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	自体重によるトレーニング方法のあり方や道具を使つての運 動について実践及び理解する。			
第 9 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 10 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 11 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 12 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			
第 13 回 〔演習〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。		体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	ストレッチ体操、バレーボール、バトミントン			

第 14 回 〔 演 習 〕	到達目標	体力向上のための具体的方法を理解する。	体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
	授業予定	体力測定まとめ		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分) 健康度アンケート	体育館 必要器具 体操服準備	基本的な生活習慣を 身につけること。
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	けんこうストレッチング 運動のすすめ		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		この科目は基礎分野の人間と生活・社会の理解に位置付けられています。生涯健康な生活が送れるよう実践をとおして創造と活用能力を養いましょう。		
履修上の留意点		自ら健康観を持ち、スポーツ文化に親しんでください。将来看護師として働くための基礎体力の向上に務めることができるよう理論と習慣を学んでください。その体験が他者の健康を考えることにつながります。		

専門基礎分野

授業計画

専門基礎分野は、人体の構造と機能、疾病の成り立ち、回復の促進、健康支援と社会保障制度に分類し、総計 21 科目（22 単位）で構成します。人体の構造と機能では、看護学の観点から人体の構造や生命を維持するためのしくみを系統的に理解します。また、看護における観察力や判断力につなげるため、疾病の成り立ち・回復の促進では健康・疾病・障害・生活に関する基本的知識を身につけます。健康支援と社会保障制度では、人々が健康や障害の状態に応じて社会資源を活用しながら生活していくことを支援するため、保健・医療・福祉に関する基本的な知識を身につけます。また、臨床心理では、基礎分野で学習した人間関係論の知識を活用しながら援助的人間関係を築くための方法を学び、人々の健康を支援するために欠かせない専門的コミュニケーションの技術を養うための基盤をつくります。

科目区分	専門基礎分野	科目名	解剖生理学 I	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	小林 恭子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	解剖生理学では、疾病・病態等を学ぶ上での重要な基礎となるだけでなく、看護実践の科学的根拠となりうるため 人体の基本的な成り立ちを学ぶ。				
目 標	1. 正常な人体の構造と機能についての基本を理解する。 2. フィジカルアセスメントおよび日常生活の営みを支える看護に必要な人体の構造と機能 について基本を理解する。 3. 疾病の成り立ちを知る前提となる人体の構造と機能についての基本を理解する。				DP への対応
					DP3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	解剖生理学の基礎知識を理解する		テキスト P 2～44	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 人体の構造と機能を学ぶ目的を説明する。 3. 細胞の構造と機能について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	解剖生理学の基礎知識を理解する		テキスト P 27～46	
	授業内容	1. 人体の階層性について説明する。 2. 分化した細胞がつくる組織について説明する。 3. 体液とホメオスタシスについて説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	咀嚼・嚥下における構造と機能について理解する。		テキスト P 66～75	
	授業予定	1. 歯・口腔・唾液腺・咽頭・喉頭・食道の構造と機能に ついて説明する。 2. 咀嚼・嚥下のメカニズムについて説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	腹部消化管の構造と機能について理解する。		テキスト P 76～95	
	授業予定	1. 胃の構造と機能について説明する。 2. 小腸の構造と機能について説明する。 3. 大腸の構造と機能について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜の構造と機能について理解する。		テキスト P 96～108	
	授業予定	1. 肝臓・胆道・膵臓・腹膜の構造と機能について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	呼吸器の構造について理解する。		テキスト P 109～119	
	授業予定	1. 呼吸器の構造について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	呼吸運動について理解する。		テキスト P 120～130	
	授業予定	1. 内呼吸と外呼吸について説明する。 2. 呼吸器と呼吸運動について説明する。 3. 呼吸気量について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	ガス交換と呼吸の調節について理解する。		テキスト P 130～138	呼吸器系の病態生理 については症候論Ⅰ で学習する。
	授業予定	1. ガス交換とガスの運搬について説明する。 2. 肺の循環と血流について説明する。 3. 呼吸運動の調節について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	血液の成分と機能について理解する。		テキスト P 141～161	
	授業予定	1. 血液の組成と機能について説明する。 2. 血漿タンパク質と赤血球沈降速度について説明する。 3. 血液の凝固と線維素溶解について説明する。 4. 血液型について説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	心臓の構造と機能について理解する。		テキスト P 168～193	
	授業予定	1. 循環器系の構成と心臓の構造について説明する。 2. 心臓の拍出機能について説明する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	末梢循環系の構造と機能について理解する。特殊な循環に ついて理解する。		テキスト P 193～205	

	授業予定	1. 血管の構造について説明する。 2. リンパとリンパ管について説明する。 3. 門脈系・脳循環・胎児・胎盤の血液循環について説明する。	P 517～526	
第 12 回 〔講義〕	到達目標	血液の循環調節のしくみについて理解する。	テキスト P 206～222	循環器系の病態生理については症候論 I で学習する。
	授業予定	1. 血液の循環の調節（血圧、血液の循環、血圧・血流量の調節、微小循環）について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	腎臓の構造と機能について理解する。	テキスト P 233～248	
	授業予定	1. 腎臓の構造と機能について説明する。 2. 傍糸球体装置について説明する。 3. 尿の生成について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	排尿路の構造と機能について理解する。 体液の調節について理解する。		
	授業予定	1. 排尿路の構造について説明する。 2. 尿の貯蔵と排尿について説明する。 3. 体液の調整について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座『解剖生理学 人体の構造と機能①』（医学書院）		
	参考図書			
	その他	解いてわかる解剖生理学（医学教育出版社）		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		「解いてわかる解剖生理学」にて予習・復習を行うこと。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	解剖生理学Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	解剖生理学では、疾病・病態等を学ぶ上での重要な基礎となるだけでなく、看護実践の科学的根拠となりうるため人体の基本的な成り立ちを学ぶ。				
目 標	1. 正常な人体の構造と機能についての基本を理解する。 2. フィジカルアセスメントおよび日常生活の営みを支える看護に必要な人体の構造と機能について基本を理解する。 3. 疾病の成り立ちを知る前提となる人体の構造と機能についての基本を理解する。				DP への対応
					DP3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	自律神経の調節について理解する。		テキスト P 264～271	
	授業予定	1.ガイダンス 2.自律神経による調節について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	内分泌系による調節について理解する。 内分泌器官の構造とホルモンの機能について理解する。		テキスト P 272～276	
	授業内容	1.内分泌系による調節について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	内分泌器官の構造とホルモンの機能を理解する。		テキスト P 264～274	
	授業予定	1. 視床下部・下垂体系の構造と機能を説明する。 2. 甲状腺と副甲状腺(上皮小体)の構造と機能を説明する。 3. 膵島、副腎、性腺などの構造と機能を説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	骨格・関節の形態と構造と機能について理解する。		テキスト P 309～323	
	授業予定	1. 人体の骨格の構造と組成について説明する。 2. 骨の連結（関節、不動性の連結）について説明する。 3. 骨格筋の構造と作用および神経支配について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	体幹・上肢・下肢の骨格と筋について理解する。		テキスト P 324～360	
	授業予定	1. 体幹（脊柱、胸郭、背部、胸部、腹部）の骨格と筋について説明する。 2. 上肢帯（上肢帯、上腕、前腕、手）の骨格と筋群および上肢の運動について説明する。 3. 下肢帯と骨盤（下肢帯、大腿、下腿、足）の骨格と筋群および下肢の運動について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	頭頸部の骨格と筋について理解する。 筋の収縮のしくみについて理解する。		テキスト P 361～384	
	授業予定	1. 頭頸部の骨格と筋について説明する。 2. 筋の収縮機構、種類と特性について説明する。 3. 不随意筋の収縮の特徴が説明できる。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	神経系の構造と機能について理解する。		テキスト P 385～408	
	授業予定	1. 神経細胞と神経組織について説明する。 2. 中枢神経系の分類と機能・構造について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	末梢神経系の構造と機能について理解する。		テキスト P 409～428	
	授業予定	1. 脊髄神経と脳神経の構造と機能について説明する。 2. 脳の高次機能について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	感覚と運動の伝導路について理解する。		テキスト P 429～ 435、 P 455～462	
	授業予定	1. 運動機能と下行伝導路について説明する。 2. 感覚機能と上行伝導路について説明する。 3. 痛み（疼痛）の分類と発生機序について説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	感覚器系の構造と機能について理解する。		テキスト P 435～452	
	授業予定	1. 眼の構造と視覚について説明する。			

		2. 耳の構造と聴覚・平衡覚について説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	感覚器系の構造と機能について理解する。	テキスト P 453～454	
	授業予定	1. 味覚と嗅覚について説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	防御機能と適応について理解する。	テキスト P 463～479	
	授業予定	1. 皮膚の構造と機能について説明する。 2. 生体の防御機構について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	体温調節について理解する。	テキスト P 484～494	
	授業予定	1. 熱の出納と体温調整について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	生殖器系の構造と機能について理解する。 受精と発生について理解する。	テキスト P 495～516	
	授業予定	1. 男性生殖器系の構造と機能について説明する。 2. 女性生殖器系の構造と機能について説明する。 3. 受精と胎児の発生について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座『解剖生理学 人体の構造と機能①』(医学書院)		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		ワークブックにて予定範囲の課題があります。必ず課題に取り組み予習をして臨む。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	生化学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	藤岡 竜太	実務経験 関連資格	別府大学短期大学部 食物栄養科 准教授		
目 的	生化学は生物を化学の視点から理解することを目指す学問である。医療の現場には、生化学によって説明される多くの現象が存在する。どのようにして医薬品が効くのか、どのようにして病気になるのか、どのようにして生命活動が維持されるのか、これらを理解するためには、生化学の知識を欠かすことはできない。ここでは、看護師として必要な生命活動に対する基礎を理解する。				
目 標	1. 生体を構成する糖質や脂質、タンパク質、核酸を中心に、構造と機能、および代謝について理解する。 2. 遺伝子における基礎知識を理解する。				DP への対応
					DP 3
					DP 3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	細胞の構造と機能について理解する。		テキスト P 4～20	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 生化学を学ぶための基礎知識について説明する。 3. 生体の化学の基礎知識について説明する。 4. 細胞の構造と機能について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	酵素や補酵素の役割を理解する。		テキスト P 22～48	
	授業内容	1. 代謝と生体のエネルギーについて説明する。 2. 酵素の基礎知識について説明する。 3. 酵素の反応速度、酵素の阻害について説明する。"			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	糖質の種類とはたらきについて理解する。		テキスト P 50～66	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い。
	授業予定	1. 糖質について説明する。 2. 単糖、二糖、多糖の構造と機能について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	生体内の糖質代謝について理解する。		テキスト P 68～96	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. 糖質の消化と吸収について説明する。 2. 糖質の分解や代謝について説明する。 3. 糖質代謝に関する遺伝性疾患について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	脂質の種類とはたらきについて理解する。		テキスト P 98～110	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. 脂質の構造と機能について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	生体内の脂質代謝について理解する。		テキスト P 112～128	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. 脂質の消化と吸収について説明する。 2. 脂質の分解や合成について説明する。 3. 脂質代謝に関する遺伝性疾患について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	タンパク質の種類とはたらきについて理解する。		テキスト P 130～140	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. タンパク質、アミノ酸の構造と機能について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	生体内のタンパク質代謝について理解する。		テキスト P 142～154	栄養学で学んだ内容 を確認しておくとい い
	授業予定	1. タンパク質の消化と吸収について説明する。 2. アミノ酸の分解や合成について説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	生体内のポルフィリン代謝および異物代謝について理解する。		テキスト P 156～166	
	授業予定	1. ポルフィリン代謝と異物代謝について説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	遺伝子 (DNA) の構造の特徴と RNA との違いについて理解する。		テキスト P 170～192	
	授業予定	1. 遺伝子の基礎知識について説明する。 2. 核酸の構造と機能および代謝について説明する。			
第 11 回	到達目標	DNA の遺伝情報について理解する。		テキスト	

〔講義〕	授業予定	1. 遺伝子の複製・修復・組換えについて説明する。	P 194～211	
第 12 回 〔講義〕	到達目標	遺伝子情報からタンパク質が作られるまでの流れを理解する。(1)	テキスト P 214～227	
	授業予定	1. 転写の基礎知識について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	遺伝子情報からタンパク質が作られるまでの流れを理解する。(2)	テキスト P 230～243	
	授業予定	1. 翻訳の概要とメカニズムについて説明する。 2. 翻訳後修飾について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	1. 正常な細胞のさまざまなシグナル伝達の過程を理解する。 2. がんの発生機序と化学療法について理解する。	テキスト P 248～283	
	授業予定	1. シグナル伝達の概要と機序について説明する。 2. 内分泌の生化学的基盤について説明する。 3. がんの性質と細胞周期について説明する。 4. がん薬物療法について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 60% 小テスト 30% 授業態度 10% 全体で 60% 未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 『生化学 人体の構造と機能②』(医学書院)		
	参考図書	系統看護学講座 『栄養学 人体の構造と機能③』(医学書院)		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	病理学総論		単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期		時 間	15 時間
担当教員	局 敏郎	実務経験 関連資格	医師			
目 的	人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を学び、疾病の原因や成り立ち、症状について理解する。また、臓器、組織、細胞の変化としての病変について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解することで、各々の器官に生じる病気ごとの原因や病気の成り立ちなどの特徴も理解する。また、病院における病理検査について、看護師が知っておくべき最低限の知識を学ぶ。					
目 標	1. 病気の原因と、病因に基づく疾患の分類を理解できる。 2. 疾病の原因、疾病の成り立ち、進展あるいは治癒経過などを学習し、病気とは何かを理解できる 3. 人体の構造と機能において、正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解できる。 4. 病理検査について、看護師としての役割を理解できる。					DP への対応 DP3 DP3 DP3 DP3,4,5
授業回数 〔方法〕	内 容				使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	病理学で学ぶことを理解する。			テキスト② P 2～4	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 看護と病理学、病気の原因（内因、外因、公害病、医原病、職業がん）、病気の分類と病理学の学び方について説明する				
第 2 回 〔講義〕	到達目標	細胞の障害について理解する。			テキスト② P 9～11	
	授業内容	細胞の損傷と適応（細胞損傷の原因、適応現象（萎縮、肥大など）、細胞の死（壊死、アポトーシス）、細胞と組織の変性、組織の修復と創傷治癒障害について説明する				
第 3 回 〔講義〕	到達目標	循環障害について理解する。			テキスト② P 4～8	
	授業予定	浮腫、充血とうっ血、出血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、側副循環による障害、ショック、高血圧症、D I C について説明する				
第 4 回 〔講義〕	到達目標	炎症と免疫、アレルギーや自己免疫疾患、膠原病について理解する。			テキスト② P 9～1 4 P 4 4～5 4	
	授業予定	炎症とその分類、免疫と免疫不全、アレルギーと自己免疫疾患、移植と再生医療について説明する				
第 5 回 〔講義〕	到達目標	代謝障害について理解する。			テキスト② P 2 0 9 ～2 1 9	
	授業予定	脂質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖尿病、そのほかの代謝障害について説明する				
第 6 回 〔講義〕	到達目標	老化と死、先天異常と遺伝子異常について理解する。			テキスト② P 2 1～2 6	
	授業予定	個体の老化と老年症候群、加齢に伴う諸臓器の変化、個体の死と終末期医療、遺伝の生物学、先天異常、遺伝子の異常と疾患、先天異常・遺伝子異常の診断と治療について説明する				
第 7 回 〔講義〕	到達目標	腫瘍について理解する。			テキスト② P 1 8～2 0	
	授業予定	腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりや影響、腫瘍の発生病理、腫瘍の診断と治療について説明する				
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)				
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。				
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕 病態学 医学書院				
	参考図書					
	その他	配布資料、パワーポイント				
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。				
履修上の留意点						

科目区分	専門基礎分野	科目名	症候論Ⅰ	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	小林 恭子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	身体を構成している細胞・組織・器官が形態や生理機能に異常な変化が生じることで引き起こされる症状や徴候を学ぶ。さらにその損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいのかを考えることで、治療や看護につなげる。				
目 標	1. 各種機能障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する			DP への対応 DP3,5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	看護における症状のマネジメントについて理解する。		テキスト① P 2 テキスト④ P 338 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 症状マネジメントと看護実践モデルについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	呼吸困難・呼吸不全の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① P 125 テキスト② P 120 テキスト③ P136 パワーポイント ワークシート	①呼吸器系の解剖生理を復習して臨むこと。 ②”呼吸困難”の病態の関連性を図に表してみる
	授業内容	1. 呼吸器の構造と機能について説明する。 2. 呼吸困難の原因・メカニズム・随伴症状について説明する。 3. 呼吸困難のある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	咳嗽・喀痰・咯血の原因・メカニズムと特徴・種類・症状を理解する。		テキスト① P 126 テキスト② P 122 テキスト③ P136 パワーポイント ワークシート	①”咳嗽・喀痰・咯血”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 咳嗽・喀痰・咯血の分類・原因・メカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 2. 咳嗽・喀痰・咯血のある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	貧血とチアノーゼの原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① P 72 テキスト② P 141 テキスト③ P146 テキスト① P117 テキスト② P223 パワーポイント ワークシート	①血液の解剖生理を復習して臨むこと。 ②”貧血・チアノーゼ”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 赤血球の機能と末梢循環のしくみについて説明する。 2. 貧血の分類・原因・メカニズムと特徴・随伴症状について説明する。 3. チアノーゼの定義と原因・分類について説明する。 4. 貧血やチアノーゼのある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	出血傾向の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① P 84 テキスト② P 155 パワーポイント ワークシート	①”出血傾向”の病態の関連性を図に表してみる グループごとに呼吸困難と貧血について病態関連図を作成して次回臨
	授業予定	1. 血小板の機能について説明する。 2. 出血傾向の分類・原因・メカニズムと特徴・誘発因子 出血時の随伴症状について説明する。 3. 出血傾向のある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。			

				む。
第 6 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな症候に対する必要な看護を考える①。	P B L	
	授業予定	”呼吸困難”と”貧血”の原因、発症のメカニズムなどを病態関連図をグループごとに作成し、全体共有し、必要な看護を考える。 ※症状が対象の生活に及ぼす影響は何か（成り行き） ※対象の苦痛を軽減する方策は何か		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	心不全の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト① P 106 テキスト② P 170 テキスト③ P146 パワーポイント ワークシート	①循環器（心臓）の解剖生理を復習して臨むこと。 ②”心不全”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 心臓の構造と機能について説明する。 2. 心不全の原因疾患による分類と発生メカニズムと特徴・随伴症状について説明する。 3. 心不全のある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	不整脈の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト① P 97 テキスト② P 183 パワーポイント ワークシート	①心臓の拍出機能と心電図について復習して臨むこと。 ②”不整脈”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 心臓の拍出機能と心電図について説明する。 2. 不整脈の原因疾患による分類と発生メカニズムと特徴・随伴症状について説明する。 3. 不整脈のある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	ショックの原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト① P 112 テキスト② P 206 テキスト③ P150 パワーポイント ワークシート	①血液の循環の調節について復習して臨むこと。 ②”ショック”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 血圧調節と末梢循環の仕組みについて説明する。 2. ショックの分類・原因ならびにメカニズムと特徴、経過に伴う徴候について説明する。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	浮腫の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト① P 6 テキスト② P 221 テキスト③ P150 パワーポイント ワークシート	①血漿膠質浸透圧について復習して臨むこと。 ②”浮腫”の病態の関連性を図に表してみる グループごとに心不全について病態関連図を作成して次回臨む。
	授業予定	1. 浮腫と腹水・胸水 膠質浸透圧と浮腫について説明する。 2. 浮腫の分類・原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 3. 浮腫のある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな症候に対する必要な看護を考える②。	P B L	
	授業予定	心不全の原因、発症のメカニズムなどを病態関連図をグループごとに作成し、全体共有し、必要な看護を考える。 ※症状が対象の生活に及ぼす影響は何か（成り行き） ※対象の苦痛を軽減する方策は何か		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	脱水の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト① P 59 テキスト② P254 パワーポイント ワークシート	①体液の調節（P253）について復習して臨むこと。 ②”脱水”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 体液・電解質の調節とその異常について説明する。 2. 脱水の分類・原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 3. 脱水のある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。		

第 13 回 〔講義〕	到達目標	排尿障害（多尿・乏尿・無尿・頻尿・尿失禁）の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト① P 188	①腎泌尿器系の解剖生理を復習して臨むこと。 ②”排尿障害”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 腎泌尿器の構造と機能について説明する。 2. 排尿障害の分類・原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 3. 排尿障害のある患者の訴えと生活に及ぼす影響を考える。	テキスト② P 250 テキスト③ P171 パワーポイント ワークシート	
第 14 回 〔講義〕	到達目標	各症候の病態関連図を作成し、必要な看護を考える。	P B L	
	授業予定	各症候ごとに原因、発症のメカニズムなどを病態関連図をグループごとに作成し、全体共有し、必要な看護をまとめる。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 『病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進②』（医学書院） ②系統看護学講座 『解剖生理学 人体の構造と機能①』（医学書院） ③系統看護学講座 『臨床看護総論』（医学書院） ④系統看護学講座 『成人看護学総論』（医学書院）		
	参考図書	緊急度・重症度から見た症状別看護過程（医学書院）		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門礎分野	科目名	症候論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	身体を構成している細胞・組織・器官が形態や生理機能に異常な変化が生じることで引き起こされる症状や徴候を学ぶ。さらにその損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいのかを考えることで、治療や看護につなげる。				
目 標	1. 各種機能障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する			DP への対応 DP3,5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	高体温・低体温の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① P33	①体温とその調節について復習して臨むこと。 ②”高体温・低体温”の病態の関連性を図に表してみる。
	授業予定	1. 体温調節の仕組みについて説明する。 2. 高体温・低体温の定義、メカニズムと随伴症状について説明する。 3. 高体温・低体温のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。		テキスト② P484 テキスト③ P224 パワーポイント ワークシート	
第 2 回 〔講義〕	到達目標	嚥下障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① P145	①口・咽頭・食道の構造と機能について復習して臨むこと。 ②”嚥下障害”の病態の関連性を図に表してみる。
	授業内容	1. 咀嚼・嚥下の仕組みについて説明する。 2. 嚥下障害の定義、メカニズムと随伴症状について説明する。 3. 嚥下障害のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。		テキスト② P66 テキスト③ P165 パワーポイント ワークシート	
第 3 回 〔講義〕	到達目標	腹痛、下痢・便秘の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① P151	①腹部消化管の構造と機能について復習して臨むこと。 ②”腹痛・下痢・便秘”の病態の関連性を図に表してみる。
	授業予定	1. 腹部消化管の構造と機能について説明する。 2. 腹痛、下痢・便秘の分類・原因ならびにメカニズムと特徴について説明する。 3. 腹痛、下痢・便秘のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。		テキスト② P76 テキスト③ 175 パワーポイント ワークシート	
第 4 回 〔講義〕	到達目標	吐血・下血の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① P156	①”吐血・下血”の病態の関連性を図に表してみる。
	授業予定	1. 吐血・下血の定義・性状・分類・原因ならびに発症のメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 2. 吐血・下血のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。		パワーポイント ワークシート	
第 5 回 〔講義〕	到達目標	黄疸の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。		テキスト① P76	①肝臓の機能（P100）とビリルビン代謝（P148～）の復習をして臨むこと。 ②”黄疸”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. ビリルビン代謝について説明する。 2. 黄疸の分類・原因ならびにメカニズムと特徴について説明する。 3. 黄疸のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。		テキスト② P149 パワーポイント ワークシート	
第 6 回 〔講義〕	到達目標	各症候の病態関連図を作成し、必要な看護を考える。			P B L
	授業予定	各症候の原因、発症のメカニズムなどを病態関連図をグループごとに作成し、全体共有し、必要な看護を考える。 ※症状が対象の生活に及ぼす影響は何か（成り行き）			

		※対象の苦痛を軽減する方策は何か		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	悪心嘔吐の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	①”悪心嘔吐”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 悪心嘔吐の分類・原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 2. 悪心嘔吐のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。	P 155 テキスト② パワーポイント ワークシート	
第 8 回 〔講義〕	到達目標	頭痛の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	①脳の構造と機能、脳循環や髄膜・髄液の働きについて復習して臨むこと。 ②”頭痛”の病態の関連性を図に表してみる。
	授業予定	1. 脳・神経・筋肉の機能、脳循環や髄膜・髄液の働きについて説明する。 2. 頭痛の分類・原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 3. 頭痛のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。	P249 テキスト② P 397 パワーポイント ワークシート	
第 9 回 〔講義〕	到達目標	意識障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	①”意識障害”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 意識障害の定義、分類、原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 2. 意識障害のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。	P249 テキスト② P 397 パワーポイント ワークシート	
第 10 回 〔講義〕	到達目標	けいれん・てんかんの原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト②	①”けいれん・てんかん”の病態の関連性を図に表してみよう。
	授業予定	1. けいれん・てんかんの定義、分類、原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する 2. けいれん・てんかんのある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。	P 256 パワーポイント ワークシート	
第 11 回 〔講義〕	到達目標	症候ごとの病態関連図を作成し、必要な看護を考えることができる	P B L	
	授業予定	各症候の原因、発症のメカニズムなどを病態関連図をグループごとに作成し、全体共有し、必要な看護を考える。 ※症状が対象の生活に及ぼす影響は何か（成り行き） ※対象の苦痛を軽減する方策は何か		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	運動麻痺の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	①運動機能と下行伝導路について復習して臨む。 ②”運動麻痺”の病態の関連性を図に作成する
	授業予定	1. 運動制御のしくみについて説明する。 2. 運動麻痺の分類、原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 3. 運動麻痺のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。	P 259 テキスト② P429 パワーポイント ワークシート	
第 13 回 〔講義〕	到達目標	感覚障害の原因・メカニズム・種類・症状を理解する。	テキスト①	①皮膚の構造と機能、感覚機能と上行伝導路について復習して臨むこと。 ②”感覚障害”の病態の関連性を図に表してみる
	授業予定	1. 皮膚の構造と機能、感覚機能と上行伝導路について説明する。 2. 皮膚感覚の異常の原因ならびにメカニズムと特徴、随伴症状について説明する。 3. 感覚障害のある患者の訴えと生活に及ぼす影響について考える。	P 276 テキスト② P431・463 テキスト③ P199 パワーポイント ワークシート	
第 14 回 〔講義〕	到達目標	症候ごとの病態関連図を作成し、必要な看護を考えることができる	P B L	
	授業予定	各症候ごとに原因、発症のメカニズムなどを病態関連図をグループごとに作成し、全体共有し、必要な看護をまとめる。		

第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 『病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進②』（医学書院） ②系統看護学講座 『解剖生理学 人体の構造と機能①』（医学書院） ③系統看護学講座 『臨床看護総論』（医学書院） ④系統看護学講座 『成人看護学総論』（医学書院）		
	参考図書	緊急度・重症度から見た症状別看護過程（医学書院）		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	微生物学	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	李 康生	実務経験 関連資格	医師 (元) 大分大学 微生物学 講師 平松学園 教員		
目 的	微生物とは何かを理解する。 感染とその防御について理解する。 主な病原微生物について理解する。				
目 標	1. 微生物の性質について、その種類と特徴を理解する。 2. 病原微生物の構造と機能、それらが人体に及ぼす影響を理解する。 3. 感染及び異物に対する、ヒトの生体反応について理解する。 4. 感染症の予防、治療について理解する。			DP への対応 DP3 DP3 DP3 DP3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	微生物学の概要について理解する。		微生物学 4P～12P	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 微生物の性質、微生物と人間、微生物学の対象と目的、 微生物学の歩みについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	細菌の性質について理解する。		微生物学 14P～35P	
	授業内容	1. 細菌の形態と特徴、培養環境と栄養、細菌の遺伝、 細菌の分類、常在細菌叢について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	真菌の性質について理解する。		微生物学 40P～48P	
	授業予定	1. 真菌の形態と特徴、真菌の増殖、真菌の分類と命名法、 栄養と培養について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	原虫の性質について理解する。		微生物学 4P～15P	
	授業予定	1. 原虫の形態と特徴 病原原虫の種類			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	ウィルスの性質について理解する。		微生物学 55P～66P	
	授業予定	ウィルスの特徴 構造と各部分の機能 ウィルスの増殖 ウ ィルスの分類について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	微生物感染の一般的機構と感染の成立・発症、さらにさまざ まな病原因子や感染様式について理解する。		微生物学 70P～93P	
	授業予定	微生物感染の機構、感染の成立から発症・治癒まで、細菌感 染の機構、真菌感染の機構、原虫感染の機構、ウィルス感染 の機構について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	感染に対する生体防御機構と免疫異常について理解する。		微生物学 4P～18P	
	授業予定	自然免疫のしくみ 獲得免疫の仕組み 粘膜免疫の仕組み 感染の徴候と症状について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	環境微生物の分布と感染源、感染経路について理解する。		微生物学 4P～19P	
	授業予定	1. 感染源・感染経路からみた感染症（経口・経気道・接触 経皮・母子）について説明する。 2. 滅菌と消毒（バイオハザードとバイオセーフティ、意義 と定義、滅菌法、濾過除菌、消毒と消毒薬について説明す る。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	感染症の検査と診断について理解する。		微生物学 156P～167P	
	授業予定	病原体を検出する方法 生体の反応から診断する方法を説明 する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	感染症の予防と治療について理解する。		微生物学 4P～21P	
	授業予定	化学療法の基礎 各種の化学療法薬 その他の治療法を説明 し、ワクチンについて説明する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	感染症の現状と対策について理解する。		微生物学 4P～22P	
	授業予定	感染症の変遷 感染症の現状と問題点 感染症への対策を説			

		明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	病原細菌と細菌感染症について理解する。	微生物学 4P～23P	
	授業予定	グラム陽性球菌・陰性球菌 グラム陰性好気性杆菌・通性杆菌 カンピロバクター属・ヘリコバクター属 グラム陽性杆菌 抗酸菌と放線菌 嫌気性菌 スピロヘータ マイコプラズマ リケッチア目 クラミジア科について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	病原真菌と真菌感染症について理解する。	微生物学 4P～24P	
	授業予定	深在性真菌症をおこす真菌 深部皮膚真菌症をおこす真菌 表在性真菌症をおこす真菌について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	寄生虫および病原原虫と原虫感染症について理解する。 病原ウィルスとウィルス感染症について理解する。	微生物学 4P～25P	
	授業予定	1. 根足虫類、鞭毛虫類、胞子虫類、繊毛虫類を説明する。 2. DNAウィルス RNAウィルス ウィルスの臨床的分類について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座『微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進④』(医学書院)		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅰ	単位	1単位
対象学年	1学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	①廣田 潤 ②吉賀 攝 ③佐藤 文憲	実 務 経 験 関 連 資 格	①医師 ②医師 ③医師		
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			DP への対応	
				D P 3	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (廣 田)	到達目標	1. 循環器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① P 16 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習 問題 を復習しておくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 循環器の構造と機能について説明する。 3. 症状とその病態生理について説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕 (廣 田)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① P 32 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 症状とその病態生理について説明する。 胸痛 動悸 呼吸困難 浮腫 チアノーゼ めまい・失神 四肢の疼痛 ショック			
第 3 回 〔 講 義 〕 (廣 田)	到達目標	主な検査について理解する。		テキスト① P 48 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (心電図 胸部X線検査 心エコー 法 脈波検査 心臓 カテーテル法 血行動態モニタリング)			
第 4 回 〔 講 義 〕 (廣 田)	到達目標	主な治療・処置について理解する。		テキスト① P 83 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 ・内科的治療(薬物療法 経皮的冠状動脈インターベンシ ョンペースメーカ治療) ・外科的治療(心臓手術の周術期管理 冠状動脈バイパス術 など) 補助循環装置			
第 5 回 〔 講 義 〕 (吉 賀)	到達目標	主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P 122 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 虚血性心疾患			
第 6 回 〔 講 義 〕 (吉 賀)	到達目標	主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防を理解する。		テキスト① P 152 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 心不全 血圧異常			
第 7 回 〔 講 義 〕 (吉 賀)	到達目標	主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P 175 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 不整脈 弁膜症 心膜炎 心筋疾患			
第 8 回 〔 講 義 〕 (吉 賀)	到達目標	主な循環器疾患の病態、検査、治療、予防を理解する。		テキスト① P 214 配布資料	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。			

		肺性心 先天性心疾患 動脈系疾患 静脈系疾患 リンパ系疾患	パワーポイント	
第 9 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	1. 腎泌尿器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト② P 18 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 腎泌尿器の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。		
第 10 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト P 40 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な症状とその病態生理について説明する。 尿の異常 排尿に関連した症状 浮腫 脱水 循環器系の異常 血液の異常 尿毒症 疼痛 腫脹・腫瘤 その他の症状		
第 11 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な検査について理解する。	テキスト② P 68 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (尿検査 分泌物検査 腎機能検査 画像検査 経尿道的操作および内視鏡検査 尿流動態検査 生検 性・生殖機能の検査)		
第 12 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な治療・処置について理解する。	テキスト② P 94 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 腎疾患の内科的治療 尿路感染症の治療 手術療法 腎・泌尿器がんの治療 排尿管理 透析療法 腎移植		
第 13 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な腎泌尿器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 115 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 腎不全と A K I ・ C K D ネフローゼ症候群 糸球体腎炎		
第 14 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	主な腎泌尿器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 133 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 全身性疾患による腎障害 尿細管間質性腎炎 腎血管性病変 尿細管機能異常 妊娠高血圧症候群 尿路・性器の感染症 尿路の通過障害と機能障害 尿路損傷および異物 尿路結石症 尿路・性器の腫瘍 発生・発育の異常 男性不妊症、男性性機能障害		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講試験は、循環器・腎泌尿器合わせて 100% の試験とする。得点 60% 未満は再試験とする。 終講試験 (100 点満点) 内訳は以下のとおり ・第 1 回～第 4 回 循環器 (25 点) ・第 5 回～第 8 回 循環器 (25 点) ・第 9 回～第 14 回 腎泌尿器 (50 点)		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 『成人看護学 循環器』(医学書院)		

		②系統看護学講座 『成人看護学 腎・泌尿器』(医学書院)
	参 考 図 書	
	そ の 他	配布資料
授 業 以 外 の 学 習 方 法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。
履 修 上 の 留 意 点		

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	①河野 宏 ②田村 洋一	実務経験 関連資格	①医師 ②医師		
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			DP への対応	
				DP3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (河野)	到達目標	1. 呼吸器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① P 20 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事 前 に 読 ん で お く こと。 ・講義内容や練習 問題 を 復 習 し て お く こと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 呼吸器の構造と機能について説明する。 3. 症状とその病態生理について説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (河野)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① P 42 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 症状とその病態生理について説明する。 咳嗽 喀痰 血痰・咯血 胸痛 呼吸困難 チアノーゼ ばち指 発熱 呼吸の異常 声の異常 いびき 意識障 害			
第 3 回 〔講義〕 (河野)	到達目標	主な検査について理解する。		テキスト① P 70 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (血液検査 喀痰検査 咽頭・鼻腔ぬぐい液検査 胸水検査 画像診断 内視鏡検査 生検 呼吸機能検査)			
第 4 回 〔講義〕 (河野)	到達目標	主な治療・処置について理解する。		テキスト① P 109 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 吸入療法 酸素療法 人口呼吸療法 呼吸リハビリテーション 気道確保 胸腔ドレナージ 呼吸器外科の手術			
第 5 回 〔講義〕 (河野)	到達目標	主な呼吸器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P 138 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 感染症 間質性肺疾患 気道疾患 肺循環疾患			
第 6 回 〔講義〕 (河野)	到達目標	主な呼吸器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P 192 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 呼吸不全 呼吸調節に関する疾患 肺腫瘍 肺・肺血管系の形成異常			
第 7 回 〔講義〕 (河野)	到達目標	主な呼吸器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P 213 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 肺移植 胸部外傷			
第 8 回 〔講義〕 (田村)	到達目標	1. 消化器の構造と機能を理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト② P 16 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 消化器の構造と機能について説明する。			

		3. 症状とその病態生理について説明する。		
第 9 回 〔講義〕 (田村)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト② P 42 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 症状とその病態生理について説明する。 嚥下困難 おくび・胸やけ 吐き気・嘔吐 腹痛 吐血・ 下血 下痢 便秘 腹部膨満 食欲不振と体重減少 腹水 黄疸 意識障害 (肝性脳症)		
第 10 回 〔講義〕 (田村)	到達目標	主な検査について理解する。	テキスト② P 68 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (糞便検査 肝機能検査 膵外分泌検査 超音波検査 内視鏡検査 肝生検 放射線検査 X線CT MRI シンチグラフィ P E T)		
第 11 回 〔講義〕 (田村)	到達目標	主な治療・処置について理解する。	テキスト② P 112 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 薬物療法 栄養療法・食事療法 手術療法 放射線療法		
第 10 回 〔講義〕 (田村)	到達目標	主な消化器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 142 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 食道の疾患 胃・十二指腸の疾患		
第 13 回 〔講義〕 (田村)	到達目標	主な消化器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 172 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 腸および腹膜疾患 肝臓・胆嚢の疾患		
第 14 回 〔講義〕 (田村)	到達目標	主な消化器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 257 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 膵臓の疾患 急性腹症 腹部外傷		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講試験は、呼吸器・消化器合わせて 100% の試験とする。得点 60% 未満は再試験とする。 終講試験 (100 点満点) 内訳は以下のとおり ・第 1 回～第 7 回 呼吸器 (50 点) ・第 8 回～第 14 回 消化器 (50 点)		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 『成人看護学 呼吸器』(医学書院) ②系統看護学講座 『成人看護学 消化器』(医学書院)		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅲ	単位	1単位
対象学年	1学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	①市村 誉 ②野口 蒸治	実務経験 関連資格	①医師 ②医師		
目的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			DP への対応	
				DP3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (市村)	到達目標	1. 脳神経の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① P 18 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事 前 に 読 ん で お く こと。・講義内容 や練習問題 を復習 しておくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 脳神経の構造と機能について説明する。 3. 症状とその病態生理について説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (市村)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① P 52 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 主な症状とその病態生理について説明する。 脳神経障害とは 意識障害 高次脳機能障害 運動機能障害 感覚機能障害 自律性のある機能の障害 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 髄膜刺激症状 頭痛 めまい			
第 3 回 〔講義〕 (市村)	到達目標	主な検査について理解する。		テキスト① P 88 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査 (神経学的診察 画像診断 電気生理学的検査 脳脊髄液検査・生検)			
第 4 回 〔講義〕 (市村)	到達目標	主な治療・処置について理解する。		テキスト① P 108 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 ・外科的治療法 ・内科的治療法			
第 5 回 〔講義〕 (市村)	到達目標	主な疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P 122 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 脳疾患 脊髄疾患 末梢神経障害			
第 6 回 〔講義〕 (市村)	到達目標	主な脳神経疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P 168 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 末梢神経障害 筋疾患・神経筋接合部疾患 脱髄・変性疾患			
第 7 回 〔講義〕 (市村)	到達目標	主な脳神経疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P 205 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 脳・神経系の感染症 中毒 てんかん 認知症 内科疾患に伴う神経疾患			
第 8 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	1. 運動器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト② P 20 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 運動器の構造と機能について説明する。			

		3. 主な症状とその病態生理について説明する。		
第 9 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト② P 44 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な症状とその病態生理について説明する。 疼痛 形態の異常 関節運動の異常 神経の障害 跛行 筋肉の異常 その他の障害		
第 10 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な検査について理解する。	テキスト② P 62 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査（画像検査 電気生理学的検査 関節鏡検査 その他の検査）		
第 11 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な治療・処置について理解する。	テキスト② P 71 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な治療・処置について説明する。 保存療法 理学療法と作業療法 手術療法 義肢と装具		
第 12 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な運動器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 86 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 外傷性の疾患 (骨折 脱臼 捻挫及び打撲 神経の損傷 筋・腱・靱帯などの損傷)		
第 13 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な運動器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 122 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 非外傷性の疾患 (先天性疾患 骨・関節の炎症性疾患 骨腫瘍および軟 部腫瘍 代謝性骨疾患 腱の疾患 神経・筋疾患)		
第 14 回 〔講義〕 (野口)	到達目標	主な運動器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 163 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 上肢および上肢帯の疾患 脊椎の疾患 下肢及び下肢帯の疾患 ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 フレイル サルコペニア 廃用症候群		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講試験は、脳神経・運動器合わせて 100% の試験とする。得点 60% 未満は再試験とする。 終講試験（100 点満点）内訳は以下のとおり ・第 1 回～第 7 回 脳神経（50 点） ・第 8 回～第 14 回 運動器（50 点）		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 『成人看護学 脳・神経』（医学書院） ②系統看護学講座 『成人看護学 運動器』（医学書院）		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	疾病論Ⅳ		単位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期		時 間	30 時間
担当教員	①幸野 和洋 ②檜垣 直幸	実務経験 関連資格	①医師 ②医師			
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。					
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。					DP への対応
						D P 3
授業回数 〔方法〕	内 容				使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (幸野)	到達目標	1. 血液・造血器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。			テキスト① P18 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や練習問題を 復習しておくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 血液造血器の構造と機能について説明する。				
第 2 回 〔講義〕 (幸野)	到達目標	検査・診断と症候・病態生理について理解する。			テキスト① P34 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 病歴聴取と身体所見について説明する。 2. 検査（末梢血検査 骨髓穿刺・骨髓生検）について説明する。 3. 症候（貧血 白血球増加症 白血球減少症 脾腫 リンパ節腫脹 出血性素因）について説明する。				
第 3 回 〔講義〕 (幸野)	到達目標	主な血液・造血器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			テキスト① P54 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 赤血球系の異常 白血球系の異常				
第 4 回 〔講義〕 (幸野)	到達目標	主な血液・造血器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			テキスト① P74 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 造血器腫瘍 出血性疾患				
第 5 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	1. 内分泌・代謝器官の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。			テキスト② P16 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 内分泌・代謝器官の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。				
第 6 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な症状とその病態生理について理解する。			テキスト② P50 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な症状とその病態生理について説明する。 体重変化・身長異常 容貌の変化 神経・筋症状 循環器症状 消化器症状 皮膚の変化 無月経				
第 7 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な検査について理解する。			テキスト②P 62 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な検査について説明する。 ・内分泌疾患の検査（ホルモンの血中濃度・尿中ホルモン及び代謝産物測定 免疫学的評価 ホルモン負荷試験 画像検査 ） ・代謝疾患の検査（糖尿病の診断・治療に用いる検査 脂質異常症の診断・治療に用いる検査）				
第 8 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な内分泌・代謝疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			テキスト② P82 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。				

		視床下部-下垂体前葉系疾患 視床下部-下垂体後葉系疾患 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患 性腺疾患 膵・消化管神経内分泌腫瘍 多発性内分泌腫瘍症 内分泌疾患の救急治療		
第 9 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な内分泌・代謝疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P 132	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 糖尿病 脂質異常症 肥満症とメタボリックシンドローム 尿酸代謝異常	配布資料 パワーポイント	
第 10 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	免疫のしくみとアレルギーについて理解する。	テキスト③ P 16	
	授業予定	1. 免疫のしくみとアレルギーについて説明する。 免疫反応と病気 アレルギーに関与する免疫担当細胞と伝達物質 アレルギーのしくみ	配布資料 パワーポイント	
第 11 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主なアレルギー疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト③ P 28	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 気管支喘息 アレルギー性鼻炎 アトピー性皮膚炎 薬物のアレルギー アナフィラキシーショック 蕁麻疹 接触性皮膚炎 食物アレルギー	配布資料 パワーポイント	
第 12 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	膠原病の主な症状・検査と治療について理解する。	テキスト③ P 98	
	授業予定	1. 主な膠原病の病態、検査、治療、予防について説明する。 ・症状（関節痛・関節炎 レイノー現象 皮膚・粘膜症状 発熱 たんぱく尿 筋力低下） ・検査と治療 ・膠原病の診断までの流れ ・検査（一般検査 血清・免疫学的検査 その他の検査） ・治療方法（一般療法 薬物療法）	配布資料 パワーポイント	
第 13 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な膠原病の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト③ P 124	
	授業予定	1. 主な膠原病の病態、検査、治療、予防について説明する。 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス 抗リン脂質抗体症候群 全身性強皮症 多発性筋炎・皮膚筋炎 混合性結合性組織病 シェーグレン症候群 ペーチェット病 血管炎症候群 リウマチ性多発筋痛症 成人発症ステイル病	配布資料 パワーポイント	
第 14 回 〔講義〕 (檜垣)	到達目標	主な感染症の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト③ P 210	
	授業予定	1. 主な感染症の病態、検査、治療、予防について説明する。 感染症の概要 検査・診断・治療 疾患の理解	配布資料 パワーポイント	
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講試験は、血液造血器・内分泌代謝・アレルギー・感染症合わせて 100% の試験とする。 得点 60% 未満は再試験とする。 終講試験（100 点満点）内訳は以下のとおり ・第 1 回～第 4 回 血液造血器（30 点） ・第 5 回～第 14 回 内分泌代謝・アレルギー・感染症（70 点）		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 『成人看護学 血液・造血器』（医学書院） ②系統看護学講座 『成人看護学 内分泌・代謝』（医学書院）		

		③系統看護学講座 『成人看護学 アレルギー 膠原病 感染症』(医学書院)
	参 考 図 書	
	そ の 他	配布資料、パワーポイント
授 業 以 外 の 学 習 方 法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。
履 修 上 の 留 意 点		

科 目 区 分	専門基礎分野	科 目 名	疾病論Ⅴ	単 位	1 単位
対 象 学 年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①本多和夫 ②岡田豊和 ③重見英男 ④甲斐宜貴 ⑤首藤謙一	実 務 経 験 関 連 資 格	①医師 ②医師 ③医師 ④医師 ⑤歯科医師		
目 的	急速な少子高齢化の進展や、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、医療技術の進歩、看護業務の複雑・多様化など看護を取り巻く環境は大きく変化した。その中で質の高い看護を提供するためには、正確な疾病の知識を習得することが重要である。器官系統別に疾患について学び、対象の病態の理解や看護につなげる。				
目 標	1. 各種疾患の病因と病変の特徴について理解する。 2. 各種疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。			DP への対応	
				DP3	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (本 多)	到達目標	1. 女性生殖器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト① P20 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでおくこと ・講義内容や練習 問題 を復習しておくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 女性生殖器の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。 ショック 出血 帯下 疼痛 発熱 下腹部膨満・腫瘍感 外陰部掻痒感 排尿障害 自律神経症状・不定愁訴 リンパ浮腫			
第 2 回 〔 講 義 〕 (本 多)	到達目標	主な検査・治療や処置についてについて理解する。		テキスト① P48 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	1. 主な検査・治療や処置について説明する。 (診察・治療器具 理学的検査 病理検査 細菌・ウィルス・原虫検査 画像検査 腫瘍マーカー検査 妊娠検査 内視鏡検査 染色低検査・遺伝子検査) ・治療・処置(膣洗浄 膣タンポン 導尿 腹腔穿刺 ダグラス窩穿刺 レーザー治療 薬物療法 手術 避妊)			
第 3 回 〔 講 義 〕 (本 多)	到達目標	主な女性生殖器疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。		テキスト① P98 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 性分化疾患 臓器別疾患(外陰・膣・子宮・卵管・卵巣・乳房の疾患 骨盤内炎症性疾患) 機能的疾患(月経異常・月経随伴症状 更年期障害 不妊症 不育症 感染症)			
第 4 回 〔 講 義 〕 (岡 田)	到達目標	1. 眼の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。		テキスト② P14 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 眼の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。 視力障害 視野異常 色覚異常 夜盲 充血 流涙 眼脂			
第 5 回 〔 講 義 〕 (岡 田)	到達目標	主な検査・治療や処置について理解する。		テキスト② P36 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 検査と治療・処置について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査(視力検査 屈折検査 開瞼法 開瞼反転法など) ・治療(点眼法 洗眼法 眼帯 手術など)			

第 6 回 〔講義〕 (岡田)	到達目標	主な眼疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト② P72 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 ・機能の異常 ・部位別の疾患（眼瞼 結膜 涙器 角膜 強膜 ぶどう膜網膜・硝子体 水晶体 緑内障など） ・外傷 全身疾患との関連		
第 7 回 〔講義〕 (重見)	到達目標	1. 耳鼻咽喉の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について説明する。	テキスト③ P 22 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能について説明する。 3. 耳にあらわれる症状 鼻にあらわれる症状 口腔・唾液腺・咽頭にあらわれる症状 喉頭にあらわれる症状		
第 8 回 〔講義〕 (重見)	到達目標	主な検査・治療や処置について理解する。	テキスト③ P 56 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 検査と治療・処置について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査（聴力検査 平衡機能検査など） ・治療（耳・鼻・口腔・咽喉頭・気管・食道疾患・頸部疾患の処置 手術療法）		
第 9 回 〔講義〕 (重見)	到達目標	主な耳鼻咽喉疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト③ P 102 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 耳疾患 鼻疾患 口腔・咽喉頭疾患 気道・食道・頸部疾患と音声・言語		
第 10 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	1. 皮膚の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト④ P22 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 皮膚の構造と機能について説明する。 3. 主な症状（発疹 掻痒 皮膚の変化）について説明する。		
第 11 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	主な検査・治療や処置について理解する。	テキスト④ P 52 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 検査と治療・処置について説明する。 ・診察と診断の流れ ・検査（皮膚科的検査法 病原微生物の検査法 病理組織検査法 分子生物学的検査法） ・治療（全身療法 外用療法 手術療法 光線療法 レーザー療法 放射線療法 など）		
第 12 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	主な皮膚疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト④ P 80 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 表在性皮膚疾患 真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器の疾患 脈管系の異常による疾患 物理・化学的皮膚障害 腫瘍および色素異常症 感染症 全身性疾患に伴う皮膚病変		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	1. 歯・口腔の構造と機能について理解する。 2. 主な症状とその病態生理について理解する。	テキスト⑤ P 16	

(首 藤)		3. 主な検査・治療や処置について理解する。	配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 歯・口腔の構造と機能について説明する。 3. 主な症状とその病態生理について説明する。 4. 主な検査と治療・処置について説明する。		
第 14 回 〔 講 義 〕 (首 藤)	到達目標	主な歯・口腔疾患の病態、検査、治療、予防について理解する。	テキスト⑤ P 84 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 主な疾患の病態、検査、治療、予防について説明する。 歯の異常と疾患 口腔領域の炎症 口腔粘膜の疾患 口腔領域の嚢胞 口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 歯と顎骨の外傷		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法： 終講試験は、女性生殖器・皮膚・耳鼻咽喉・眼・歯科口腔合わせて 100% の試験とする。 得点 60% 未満は再試験とする。 終講試験（100 点満点）内訳は以下のとおり ・第 1 回～第 3 回 女性生殖器（20 点） ・第 3 回～第 5 回 眼（20 点） ・第 6 回～第 8 回 耳鼻咽喉（20 点） ・第 9 回～第 11 回 皮膚（20 点） ・第 12 回～第 14 回 歯科口腔（20 点）		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 『成人看護学 女性生殖器』 ②『成人看護学 眼』 ③『成人看護学 耳鼻咽喉』 ④『成人看護学 皮膚』 ⑤『成人看護学歯・口腔』（医学書院）		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	保健医療論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	矢田 公裕	実務経験 関連資格	医師 別府市医師会立別府青山看護学校学校長		
目 的	医療の現場は、生きることと死ぬこと、喜びと悲しみ、希望と絶望が行き交う人間味あふれる世界である。医療はときに、病に苦しむ患者を絶望の淵から救い出すことができる。しかし医療は限界があり、ときに無力でもある。患者が不治の病によって生きる道をふさがれ、手の施しようがないという厳しい現実と直面することもある。医療者の仕事は、決して生易しいものではない。どんな時にも医療者は、常に患者に寄り添い、共に病気に向き合っていかなければならない。その責任を果たすための、十分な知識と技術に裏打ちされた職業人としてのプロ意識について学ぶ。				
目 標	1. 生命を尊ぶ心、死を悼む心、健やかに生きること、おだやかに死ぬことについて理解する。 2. 医学の歴史、科学としての医学、エビデンスに基づく医療について理解する。 3. 社会保障制度、保健・医療・介護システムなどの幅広い分野について、基礎的な知識について理解する。 4. 医の倫理、医療安全、医薬品、最先端医療、医療情報といった現代医療にかかわる諸問題について理解する。 5. 医療現場の視点にとどまらず、社会全体の視点に立って、経済学や政策を通じて医療を良くするという考え方を理解する。				DP への対応 DP 4 DP 3 DP 5 DP 4 DP 3、2
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	死ぬことと生きることについて、医学だけでなく、哲学、社会学、宗教などさまざまな立場から理解する。		テキスト P 2～P40	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 患者との出会いと別れ。生と死、希望と絶望、歓喜と悲嘆が交錯する医療の現場についてイメージできるように説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	医学の歴史、科学としての医学、エビデンスに基づく医療について理解する。		テキスト P42～P58	
	授業内容	1. 医療の不確実性について説明する。 2. エビデンスに基づく医療とは何かを説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	保健・医療・福祉を取り巻く社会環境について、時代と共に変化してきたことを理解する。		テキスト P60～P72	
	授業予定	1. 少子高齢化、地域社会の変容、疾病構造の変化について説明する。 2. わが国の社会保障制度の4つの柱（①社会保険②公的扶助③社会福祉④公衆衛生・医療）の概要を説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	公衆衛生の概要を知り、現代医療に携わる多職種の役割とチーム医療の実践について理解する。		テキスト P72～P142	
	授業予定	1. 公衆衛生の概要と、パブリックヘルスの対象を説明する。 2. 現代医療に携わる多職種の役割について説明する。 3. チーム医療の実践について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	医療倫理、医療安全、医薬品、最先端医療、医療情報における諸問題を理解する。		テキスト P144～P178	
	授業予定	1. 脳死・臓器移植における倫理について説明する。 2. 医療安全について説明する。 3. 医薬品、最先端医療、医療情報の概要を説明する。			

第 6 回 〔講義〕	到達目標	別府市医師会が担う医療政策について知ることができる。	テキスト P195～ PP206 資料	
	授業予定	1. 別府市の医療の特徴、医療政策について説明する。 2. 別府市医師会の役割と機能やネットワーク、医療サービスについて説明する。		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	意見交換が活発にできる	資料	
	授業予定	1. レポート内容を発表。 2. 発学生の意見交換。		
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法： 終講筆記試験 80%、レポート 20%（日本臓器移植ネットワークがウェブサイトで公開している経験者の手記、および提供ご家族の手記を読み、その概要と感想、自分の考えを 400 字詰め原稿用紙 2 枚にまとめ、講義 7 回目に臨むこと。レポートは第 7 回講義終了時に提出すること）（60%未満は再試験とする）		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕 医療概論 医学書院		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		第 6 講義までに別府市の医療についての情報収集をし、その現状をまとめて授業に臨む。		
履修上の留意点				

科 目 区 分	専門基礎分野	科 目 名	治療論	単 位	1 単位
対 象 学 年	1 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担 当 教 員	金馬 義平	実 務 経 験 関 連 資 格	医師		
目 的	医療は、個々の患者の病気や生活に関する情報を収集し、エビデンスのある診断・治療やケア方法を利用して、患者の病気を治したり生活の質（Q O L）を向上させたりすることを目的とする。実際に患者に接し治療が行われている医療現場において、さまざまな患者の意思決定を支え、回復を促進するために、幅広く専門的な各種検査・治療を看護師は学び理解している必要がある。				
目 標	1．外科医療について理解する。 2．画像診断・放射線治療について理解する。 3．がん治療の実践について理解する。				DP への対応 DP3 DP4 DP5
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕	到達目標	外科医療の基礎について理解する		テキスト① 第 1 章 12P～	
	授業予定	1. ガイダンス 2.外科的治療の特徴と変遷、手術侵襲と生体の反応、炎症、感染症、創傷治癒について説明する			
第 2 回 〔 講 義 〕	到達目標	外科的治療を支える分野について理解する		テキスト① 第 3 章 P76～	
	授業内容	1. 麻酔法について説明する 2. 呼吸管理（酸素療法と機械的人工換気）について説明する			
第 3 回 〔 講 義 〕	到達目標	外科的治療を支える分野について理解する		テキスト① 第 3 章 P109～	
	授業予定	1. 体液管理、栄養管理、輸血療法、緩和医療について説明する			
第 4 回 〔 講 義 〕	到達目標	外科的治療の実践について理解する		テキスト① 第 4 章 P 144～	
	授業予定	1. 外科の基本手技について説明する 切開 縫合 抜糸 止血 胃管の挿入 体腔穿刺			
第 5 回 〔 講 義 〕	到達目標	外科的治療の実践について理解する		テキスト① 第 4 章 P 161～	
	授業予定	1. 低侵襲手術について説明する 内視鏡ガイド下の治療 画像ガイド下の治療			
第 6 回 〔 講 義 〕	到達目標	外科の基本手技の実践について理解する		テキスト① 第 4 章 P 169～	
	授業予定	1. 臓器移植について説明する 基礎知識 移植の臨床			
第 7 回 〔 講 義 〕	到達目標	救急看護の基礎について理解する		テキスト① 第 5 章 P 184～	
	授業予定	1. 救急処置法の実践について説明する 救急処置の範囲と対象 救急処置法の原則と実際			
第 8 回 〔 講 義 〕	到達目標	画像診断について理解する		テキスト② 第 2 章～第 7 章 P 50～	
	授業予定	1. 医療における放射線医学の役割について説明する 2. X線診断、CT、MRI、超音波検査、核医学検査、VRI・血管造影について説明する			
第 9 回 〔 講 義 〕	到達目標	放射線治療（総論）について理解する		テキスト② 第 8 章 P 182～	
	授業予定	1. 放射線治療の原理について説明する 2. 放射線治療の基礎について説明する 3. 正常組織の有害反応について説明する 4. 治癒線量・耐容線量と治療可能比について説明する			
第 10 回 〔 講 義 〕	到達目標	放射線治療（総論）について理解する		テキスト② 第 8 章 P 193～	
	授業予定	1. 放射線治療の特徴と目的について説明する 2. 照射法の種類について説明する			
第 11 回	到達目標	放射線による障害と防護について理解する		テキスト②	

〔講義〕	授業予定	1. 放射線障害について説明する 2. 放射線防護について説明する	第11章 P266～章	
第12回 〔講義〕	到達目標	がんの病態と診断について理解する	テキスト③	
	授業予定	1. がんの生物学的特性について説明する 定義と種類 がんの発生、増殖と分化、浸潤と転移、特有の病態と症候、診断と病期分類	第2章 P50～	
第13回 〔講義〕	到達目標	がんの治療について理解する	テキスト③	
	授業予定	1. がん治療の選択と実際について説明する 2. 緩和ケアについて説明する 3. がんゲノム医療について説明する 4. 手術療法について説明する	第3章 P84～	
第14回 〔講義〕	到達目標	がんの治療について理解する	テキスト③	
	授業予定	1. 薬物療法について説明する 2. 放射線療法について説明する	第3章 P128～	
第15回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論：医学書院 ②系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学：医学書院 ③系統看護学講座 別巻 がん看護：医学書院		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科 目 区 分	専門基礎分野	科 目 名	臨床栄養学	単 位	1 単位
対 象 学 年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担 当 教 員	中津留 郁子	実 務 経 験 関 連 資 格	(元) 別府大学 講師		
目 的	臨床栄養学は、時代のニーズが変わっても人々の生活の質を高める為に欠く事の出来ない学問であり、栄養を通して疾病の予防や改善、生活の質の向上に寄与する学問でもある。看護者が臨床栄養学の知見を看護ケアに生かす為に、先ず基礎となる知識を学ぶ。				
目 標	1. 人間栄養学と看護の関係について理解する。 2. 栄養素の種類とはたらき、エネルギー代謝について理解する。 3. 栄養状態の評価方法について理解する。 4. ライフステージと栄養について理解する。 5. 健康障害に対する食事療法について理解する。			DP への対応	
				D P 3 D P 5 D P 6	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕	到達目標	「人間栄養学」における看護の役割を理解する。		テキスト P 2 パワーポイント ワークシート	教科書の指定部分を 事前に読んでおくこと。 ・講義内容や 練習問題 を復習し ておくこと。
	授業予定	人間栄養学と看護について説明する。 栄養学を学ぶということ 保健・医療における栄養学 看護と栄養			
第 2 回 〔 講 義 〕	到達目標	各種栄養素の種類とはたらきを理解する。		テキスト P 18 パワーポイント ワークシート	
	授業内容	栄養素の種類とはたらきについて説明する。 糖質の種類と働き 脂質の種類とはたらき コレステロールのはたらき			
第 3 回 〔 講 義 〕	到達目標	各種栄養素の種類とはたらきを理解する。		テキスト P 23 パワーポイント ワークシート	
	授業予定	栄養素の種類とはたらきについて説明する。 タンパク質・アミノ酸の種類とはたらき・栄養価 ビタミンの種類とはたらき ミネラルの種類と働き			
第 4 回 〔 講 義 〕	到達目標	1. 栄養の消化・吸収・代謝について理解する。 2. エネルギー代謝について理解する。		テキスト P 46 パワーポイント ワークシート	
	授業予定	1. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝について説明する 2. エネルギー代謝について説明する。 食品のエネルギー 体内のエネルギー エネルギー代謝の測定 エネルギー消費			
第 5 回 〔 講 義 〕	到達目標	18 の食品群の分類を中心に、食品ごとの特徴を理解する。		テキスト P 92 パワーポイント ワークシート	
	授業予定	食事と食品ごとの特徴について説明する。 食事摂取基準 食品群とその分類 食品に含まれる栄養素 食品の調理			
第 6 回 〔 講 義 〕	到達目標	栄養ケア・マネジメントの重要な基礎的事項を理解する。		テキスト P 114 パワーポイント ワークシート	
	授業予定	栄養ケア・マネジメントについて説明する。 チームアプローチと栄養ケア・マネジメント スクリー ニングとアセスメント ケア計画と実施・モニタリング 評価			
第 7 回 〔 講 義 〕	到達目標	栄養状態を評価・判定するための具体的な方法を理解する。		テキスト P 132 パワーポイント ワークシート	
	授業予定	栄養状態の評価・判定について説明する。 栄養アセスメントの意義・方法 臨床検査・診査 食事調査			
第 8 回 〔 講 義 〕	到達目標	ライフステージごとの特徴と、そこにおける栄養ケア・マネジメントについて理解する。		テキスト P 152 パワーポイント	
	授業予定	ライフステージごとの特徴と、そこにおける栄養ケア・マ			

		ネジメントについて説明する。 乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期の栄養	ワークシート	
第 9 回 〔講義〕	到達目標	ライフステージごとの特徴と、そこにおける栄養ケア・マネジメントについて理解する。	テキスト P165	
	授業予定	ライフステージごとの特徴と、そこにおける栄養ケア・マネジメントについて説明する。 成人期・妊娠期・更年期・高齢期の栄養	パワーポイント ワークシート	
第 10 回 〔講義〕	到達目標	病院における栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法の実際を理解する。	テキスト P188	
	授業予定	病院における栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法の実際について説明する。 チームで取り組む栄養管理 病院食の意義や種類 栄養補給法	パワーポイント ワークシート	
第 11 回 〔講義〕	到達目標	各種疾患患者の食事療法の実際を理解する。	テキスト P206	
	授業予定	各疾患・症状別食事療法について説明する。 やせ・低栄養 肥満・メタボリックシンドローム	パワーポイント ワークシート	
第 12 回 〔講義〕	到達目標	各種疾患患者の食事療法の実際を理解する。	テキスト P210	
	授業予定	各疾患・症状別食事療法について説明する。 循環器・消化器・栄養代謝・腎臓疾患	パワーポイント ワークシート	
第 13 回 〔講義〕	到達目標	各種疾患患者の食事療法の実際を理解する。	テキスト P222	
	授業予定	各疾患・症状別食事療法について説明する。 血液・食物アレルギー・骨粗鬆症・摂食・嚥下障害) 場面別の栄養管理（小児 周手術期 高齢者の在宅療養がんの食事療法）	パワーポイント ワークシート	
第 14 回 〔講義〕	到達目標	栄養に関する各種問題を解決するための施策について理解する。	テキスト P238	
	授業予定	栄養に関する各種問題を解決するための施策について説明する。 生活習慣病の予防 食生活の改善への施策 食の安全性の表示	パワーポイント ワークシート	
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 『栄養学 人体の構造と機能③』（医学書院）		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床薬理学	単位	1単位
対象学年	1学年	学期	後期	時間	30時間
担当教員	薬剤師	実務経験 関連資格	別府医療センター 薬剤師		
目的	薬物は、直接的、間接的に摂取、適用することでヒトの生体機能に影響を及ぼす化学物質である。薬物の作用(薬効)、臨床応用(適性疾患)、正しい与薬法(薬物動態)、与薬後の注意(十分な観察とケア)、有害作用(副作用)とその対策(処置)、医薬品の取り扱い方についての理解が必要である。解剖生理学や生化学、基礎看護学での学びをふまえて、薬物作用の理論、各薬物の特徴(作用、副作用、体内動態)、作用機序、薬物の管理について理解する。また、薬物療法における看護師の役割や、チーム医療の一員としての重要性についても理解する。				
目標	1. 基本的薬物の薬理作用とその適応・副作用を理解する。 2. 薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をするうえでの留意点を理解する。 3. 薬物治療に重要な看護師の役割を理解する。			DP への対応	
				DP 3 DP 3 DP 3、4、5	
授業回数 〔方法〕	内容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	1. ガイダンス 2. 薬物療法における看護師の役割について理解する		テキスト③ P4～12	
	授業予定	薬物による病気の治療、薬理学とは何かについて説明する		テキスト別巻 P 2～4	
第 2 回 〔講義〕	到達目標	薬物の作用と相互作用及び体内動態、薬物の保管・管理と法的規制について理解する		テキスト③ P16～59	
	授業内容	薬理学の基礎知識、薬力学、薬物動態学、薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子、薬物作用の有益性と危険性、薬と法律について説明する		テキスト別巻 P6～36	
第 3 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する		テキスト③ P66～	
	授業予定	抗感染症薬（感染症治療に関する基礎事項、抗菌薬、抗真菌薬・抗ウィルス薬・好寄生虫薬、感染症治療に関する問題点）について説明する		92 テキスト別巻 P277～283	
第 4 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する		テキスト③ P96～	
	授業予定	抗がん薬（がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論、分子標的薬）について説明する		106 テキスト別巻 P289～296	
第 5 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する		テキスト③ P110～P119	
	授業予定	免疫治療薬（免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬）について説明する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する		テキスト③ P112～136	
	授業予定	抗アレルギー薬・抗炎症薬（抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬）について説明する		テキスト別巻 P277～283	
第 7 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する		テキスト③ P138～154	
	授業予定	末梢での神経活動に作用する薬物（神経系による情報伝達、自律神経系作用薬、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬）について説明する			
第 8 回	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用		テキスト③	

〔講義〕		を理解する	P158～187	
	授業予定	中枢神経系に作用する薬物（中枢神経系のはたらきと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬・気分安定薬、パーキンソン、症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬）について説明する		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ P190～226	
	授業予定	循環器系に作用する薬物（降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固系・線溶系に作用する薬物、血液に作用する薬物）について説明する		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ P230～246	
	授業予定	呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物、生殖器・泌尿器系に作用する薬物について説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ P250～262	
	授業予定	物質代謝に作用する薬物（ホルモンとホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン）について説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ P266～275	
	授業予定	皮膚に使用する薬物、眼科用薬について説明する		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ P278～286	
	授業予定	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物について説明する		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	代表的な薬物の作用のしくみ、医療用途および主な副作用を理解する	テキスト③ P290～325	
	授業予定	漢方医学の基礎知識、漢方薬各論、消毒薬、輸液製剤・輸血剤、看護業務に必要な薬の知識について説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進③ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門基礎分野	科目名	公衆衛生学	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	吉川 政治	実務経験 関連資格	環境計量士 ・(元) 大分県庁職員 大分大学 講師		
目 的	社会において果たすべき公衆衛生の役割・地域ですすめるべき健康づくりの方向や方法、人々の健康づくりの基盤づくりを理解していく中で、看護職が果たすべき役割を明確にする。				
目 標	1. 地域社会において人々が直面する健康上の課題について理解する。 2. 公衆衛生学の範囲と概要を理解する。			DP への対応	
				DP3・4・5 DP3・4・5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	「公衆衛生」という言葉のもつ意味を、歴史的背景をふまえて理解する。		テキスト P16	統計学や疫学の分野でも活躍した、近代看護教育の生みの親であるナイチンゲールの活躍について、学習しておきましょう。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 公衆衛生とは何か説明する。 3. 世界の公衆衛生の歴史について説明する。 4. 日本における公衆衛生の始まりと今日までの展開について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	看護職が公衆衛生を学ぶ意義を理解する。		テキスト P47	自分の健康に影響を与えるものについて、具体的に考えておきましょう。
	授業内容	公衆衛生の活動対象を説明する。 ・自分の生活と健康に関係する社会集団 ・看護職の公的責任と活動対象			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	国民の健康をまもるための、日本における主な政策や看護職の役割について理解する。		テキスト P66	自分や家族の健康が、どのような人々によって支えられているかイメージしておきましょう。
	授業予定	公衆衛生のしくみについて説明する。 ・政策展開・国と地方自治体の役割 ・専門職のはたらき・多職種・住民との協働			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	人々の健康状態を知るために、様々な指標があることを理解する。		テキスト P92 参考図書	人口構成をはじめとした保健統計は、人々の健康状態と密接な関係があります。基礎・小児・母性・成人・老年・精神・在宅・統合分野の概論と関係を持たせながら学習しましょう
	授業予定	集団の健康をとらえるための手法を説明する。 ・疫学と保健統計①			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	保健統計をもとに、日本人の健康状態と健康上の課題について理解する。		テキスト P92 参考図書	人口構成をはじめとした保健統計は、人々の健康状態と密接な関係があります。基礎・小児・母性・成人・老年・精神・在宅・統合分野の概論と関係を持たせながら学習しましょう。
	授業予定	集団の健康をとらえるための手法を説明する。 ・疫学と保健統計②			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	環境と健康、生活とのつながりについて理解する。		テキスト P118 参考図書	既習の、人々の健康に大きく影響する環境について復習しておきましょう。
	授業予定	環境と健康について説明する。〔1〕			

第 7 回 〔講義〕	到達目標	人々の日常生活に直結する、身のまわりの環境問題とその対策、健康への影響について理解する。	テキスト P118	既習の、人々の健康に大きく影響する環境について復習しておきましょう。
	授業予定	環境と健康について説明する。〔2〕	参考図書	
第 8 回 〔講義〕	到達目標	日本の公衆衛生上の、重要な感染症とその対策について理解する。	テキスト P156	基礎看護学で学習した、医療者の感染予防対策と関連させながら学習を深めましょう。
	授業予定	感染症とその予防策について説明する。	参考図書	
第 9 回 〔講義〕	到達目標	国際保健活動について理解する。	テキスト P182	自分が知っている、国際的な医療活動についてイメージしておきましょう。
	授業予定	国際保健活動の概要を説明する。	参考図書	
第 10 回 〔講義〕	到達目標	母子保健の対象となる人々や、しくみ（法制度・システム）、具体的な保健活動について理解する。	テキスト P196	母性看護の対象や看護活動について学習しておきましょう。また、関係法規と関連させながら学習していきましょう。
	授業予定	1. 公衆衛生看護とは何か説明する。 2. 母子保健について説明する。	参考図書	
第 11 回 〔講義〕	到達目標	成人保健・高齢者保健の対象となる人々や、しくみ（法制度・システム）、具体的な保健活動について理解する。	テキスト P225	自分が住んでいる地域で行われている保健活動について、知っていることを明確にしておきましょう。また、関係法規と関連させながら学習していきましょう。
	授業予定	1. 成人保健の概要を説明する。 2. 高齢者保健の概要を説明する。	テキスト P247 参考図書	
第 12 回 〔講義〕	到達目標	精神保健・歯科保健・障害者保健・難病保健の対象となる人々や、しくみ（法制度・システム）、具体的な保健活動について理解する。	テキスト P266	自分の身のまわりで、知っている保健活動について具体的にしておきましょう。また、関係法規と関連させながら学習していきましょう。
	授業予定	1. 精神保健の概要を説明する。 2. 歯科保健の概要を説明する。 3. 障害者保健・難病保健の概要を説明する。	参考図書	
第 13 回 〔講義〕	到達目標	現代の子どもの健康課題や、具体的な活動について理解する。	テキスト P314	自らが経験してきた小・中・高等学校生活において、健康を守るために行われていた保健活動について、想起しておきましょう。
	授業予定	1. 学校における健康のとらえを説明する。 2. 学校保健の展開について説明する。 3. 特別な支援を必要とする子どもたちについて説明する。	参考図書	
第 14 回 〔講義〕	到達目標	1. 働く人々に生じる健康問題と、健康管理のしくみについて理解する。 2. 過去の健康危機や日本における健康危機管理体制を知り、日ごろから私たちができることについて想像する。	テキスト P338 テキスト P362	働く人々における、健康上の問題について新聞等を用いて調べておきましょう。 近年の日本における代表的な災害において、保健活動に携わった人々の職種や
	授業予定	1. 職場における健康と産業保健活動について説明する。 2. 健康危機管理・災害保健の概要を説明する。	参考図書	

				活動について調べておきましょう。
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生（医学書院）		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定のテキストを読み、人々の健康状態についてイメージしておきましょう。また、日ごろから、世界や日本の人々の健康状態に関心をもち、新聞やテレビニュースは敏感に確認しておきましょう。		
履修上の留意点		公衆衛生は、人々の健康を目的とする看護と密接な関係があります。特に、人口構成を中心とした保健統計や、国の政策は看護師国家試験においても必ず出題されるものです。それぞれの看護学領域においても基本的知識となります。また、保健統計は年度ごとに変化していくものです。留意しましょう。		

科 目 区 分	専門基礎分野	科 目 名	社会福祉	単 位	2 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期・後期	時 間	45 時間
担 当 教 員	四ツ谷 年晴	実 務 経 験 関 連 資 格	大分県社会福祉介護研修センター 専門員 (元) 大分県庁職員 (障害福祉・高齢者福祉にかかわる)		
目 的	国民の最低限度の生活を保障するための社会保障制度、障害者や要介護者が自立した生活を送るための社会福祉の概要と制度について理解する。				
目 標	1. 社会保障制度の概要を理解する。 2. 社会福祉の意義を理解する。 3. 医療・看護・福祉の連携の必要性を理解する。			DP への対応	
				DP2・3 DP3・4 DP3・4・5	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕	到達目標	わが国の人々が、誕生してから最期の時を迎えるまで、どのような制度によって支えられているのか理解する。		テキスト P2 参考図書	社会保障や社会福祉についてイメージしておきましょう。家族や自分がどのような制度の中で生活してきたのか、イメージしておきましょう。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 社会保障制度について説明する。 3. 社会福祉の法制度について説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕	到達目標	1. ガイダンス 2. 社会保障制度について説明する。 3. 社会福祉の法制度について説明する。		テキスト P30 参考図書	自分の身のまわりや、社会の中で起きている諸問題を考えおきましょう。公衆衛生における保健統計を想起し、現代社会における諸問題についてイメージしておきましょう。
	授業内容	1. 現代社会の変化について説明する。			
第 3 回 〔 講 義 〕	到達目標	現代の社会保障・社会福祉の動向について理解する。		テキスト P44 参考図書	現代社会の変化についてまとめておきましょう。
	授業予定	1. 社会保障・社会福祉の動向について説明する。			
第 4 回 〔 講 義 〕	到達目標	わが国の医療保障制度の特徴を理解する。		テキスト P54 参考図書	日本の医療保障制度について、知っていることをまとめておきましょう。
	授業予定	1. 医療保障制度の沿革について説明する。 2. 医療保障制度の構造と体系について説明する。			
第 5 回 〔 講 義 〕	到達目標	医療保険制度について理解する。		テキスト P62 参考図書	病院を受診した際の、自分や家族の負担金額を調べておきましょう。
	授業予定	1. 健康保険と国民健康保険の概要を説明する。 2. 高齢者医療保障制度の概要を説明する。			
第 6 回 〔 講 義 〕	到達目標	保険診療のしくみを理解する。		テキスト P74 参考図書	病院を受診した際の、診療費支払明細書が手元にある場合は記載されている内容を確認しておきましょう。
	授業予定	1. 保険診療のしくみについて説明する。 2. 公費負担医療の概要を説明する。 3. 国民医療費の概要を説明する。			
第 7 回 〔 講 義 〕	到達目標	介護保険制度が創設された背景について理解する。		テキスト P90 参考図書	住んでいる地域の介護保険料や、身近な人(家族など)の介護保険料について調べておきましょう。 医療保険制度と介
	授業予定	1. 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史について説明する。 2. 介護保険制度の概要を説明する。			

				介護保険制度の違いについて調べておきましょう。 地域・在宅看護論と関連があります。
第 8 回 〔講義〕	到達目標	介護保険制度の概要と課題を理解する。	テキスト P95 参考図書	介護保険の公費（国、都道府県、市町村）負担割合について調べておきましょう。 地域・在宅看護論と関連があります。
	授業予定	1. 介護保険制度の概要を説明する。 2. 介護保険制度の課題と展望について説明する。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	1. 所得保障の種類と受給対象者を理解する。 2. 年金保険制度の仕組みを理解する。	テキスト P120 参考図書	国民年金・基礎年金の受給開始年齢について調べておきましょう。
	授業予定	1. 所得補償制度のしくみについて説明する。 2. 年金保険制度の概要を説明する。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	1. 社会手当（児童手当、児童扶養手当、特別自動扶養手当、障害者手当）の受給対象者を理解する。 2. 労働保険制度の対象者を理解する。	テキスト P135 参考図書	住んでいる地域の、児童手当金の対象年齢や支給額について調べておきましょう。
	授業予定	1. 社会手当について説明する。 2. 労働保険制度の概要を説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	1. 生活保護の対象者と、種類・方法について理解する。 2. 事例をとおして、生活保護が実施されるまでの過程を理解する。	テキスト P146 参考図書	生活保護について調べておきましょう。
	授業予定	1. 貧困・低所得問題と公的扶助制度の概要を説明する。 2. 生活保護制度のしくみを説明する。 *生活保護の実施（事例）		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	生活保護を取り巻く近年の動向について理解する。	テキスト P161 参考図書	現代の生活保護をめぐる問題について、調べておきましょう。
	授業予定	1. 低所得者対策について説明する。 2. 生活保護を取り巻く近年の動向について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	現代における高齢者福祉の現状と具体的高齢者福祉の施策について理解する。	テキスト P168 参考図書	公衆衛生や基礎看護学概論の学習を想起し、世帯構造別にみた世帯数や、高齢者の健康状態について保健統計などをとおして調べておきましょう。
	授業予定	1. 高齢者福祉の概要を説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	障害者福祉の理念と、わが国の障害者福祉制度の変遷について理解する。	テキスト P175 参考図書	どのような人々を障害者として位置づけているのでしょうか、自分が考えたことをまとめておきましょう。
	授業予定	1. 障害者福祉の概要を説明する。		
第 15 回 〔講義〕	到達目標	1. 高齢者や障害者が自立した生活を送るための、生活面でのさまざまな支援の実際を理解する。 2. 高齢者福祉・障害者福祉の意義について理解する。	配布資料	社会福祉施設の見学を予定しています。日程は、後日お知らせします。
	授業予定	社会福祉施設 見学施設 ①大分県社会福祉 介護研修センター		
第 16 回	到達目標	同上	配布資料	同上

〔講義〕	授業予定	同上		
第 17 回 〔講義〕	到達目標	1. 高齢者や障害者が自立した生活を送るための、生活面でのさまざまな支援の実際を理解する。 2. 高齢者福祉・障害者福祉の意義について理解する。	配布資料	社会福祉施設の見学を予定しています。現地集合となります。現地までのルートや方法を調べておきましょう。日程は、後日お知らせします。
	授業予定	社会福祉施設を見学する。 ②社会福祉法人 太陽の家		
第 18 回 〔講義〕	到達目標	同上	配布資料	同上
	授業予定	同上		
第 19 回 〔講義〕	到達目標	1. 児童に関わる法律と施策を理解する。 2. 現代社会がもたらす、児童の健やかな成長・発達への影響と課題について理解する。	テキスト P204 参考図書	日本、またはあなたの暮らす地域は、子どもたちが健やかに育つ環境にありますか？理由とともにあなたの考えをまとめておきましょう。
	授業予定	1. 児童家庭福祉の概要を理解する。		
第 20 回 〔講義〕	到達目標	社会福祉における個人・集団への具体的な援助技術について理解する。	テキスト P224 参考図書	個別・集団への援助技術について、テキストを読んでおきましょう。
	授業予定	1. 社会福祉援助について説明する。 2. 個別援助（ケースワーク）の方法について説明する 3. 集団援助（グループワーク）の方法について説明する。		
第 21 回 〔講義〕	到達目標	1. 様々な職種間における連携について理解する。 2. 医療・看護・福祉の連携における看護師の役割について理解する。	テキスト P249 参考図書	テキストの事例を読んでおきましょう。 医療・看護・福祉の連携の具体的な方法について、再度イメージしておきましょう。 専門職連携と関連があります。
	授業予定	1. 連携の必要性について説明する。 2. 社会福祉実践と医療・看護との連携について説明する。 *事例：連携の場面とその方法		
第 22 回 〔講義〕	到達目標	歴史的背景をもとに生まれた、現代における社会福祉の考え方について理解する。	テキスト P268 参考図書	これまでに学んだことを振り返り、社会保障・社会福祉の考え方についてまとめておきましょう。
	授業予定	社会福祉の歴史について説明する。		
第 23 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3]社会保障・社会福祉（医学書院）		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		社会保障制度や社会福祉は、各看護学領域との密接な関係がある科目です。各科目と、関連づけ双方において予習・復習しながら学習をすすめましょう。		
履修上の留意点		身近な事例と照らし合わせながら講義に参加しましょう。また、テキストを読んで講義に参加しましょう。		

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床心理Ⅰ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	15 時間
担当教員	榊原 有紀	実務経験 関連資格	別府大学 文学部 人間関係学科 講師 臨床心理士 公認臨床心理士		
目 的	既習の人間関係論や基本看護技術におけるコミュニケーションの基礎知識をもとに、カウンセリング、コーチング、アサーティブコミュニケーションといった人間関係を構築するための理論と技法を理解する。				
目 標	1. カウンセリング・心理療法の看護への応用について理解する。 2. コーチングの理論を理解する。 3. アサーションの理論を理解し、アサーティブな対応について理解する。				DP への対応
					DP1・2・3・4・ 5・6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	人間関係を形成するための基本的な手段であるコミュニケーションのしくみについて理解する。		テキスト P82	人間関係論や基礎看護学で学んだ知識を想起しておくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. コミュニケーションが与える様々な影響について説明する。		配布資料	
第 2 回 〔講義〕	到達目標	カウンセリング・心理療法の種類とその概要について理解する。		テキスト P104	テキストを読んでおくこと。
	授業内容	カウンセリング・心理療法の理論の概略を説明する。 ・支持的精神療法・クライエント中心療法 ・精神力動的な精神療法・行動療法 ・認知療法・認知行動療法		配布資料	
第 3 回 〔講義〕	到達目標	カウンセリング・心理療法の具体的な実践方法について理解する。		テキスト P104	カウンセリング・心理療法の理論について復習しておくこと。
	授業予定	カウンセリング・心理療法の方法を説明する。 *事例演習		配布資料	
第 4 回 〔講義〕	到達目標	カウンセリング・心理療法の具体的な実践方法について理解する。		テキスト P104	カウンセリング・心理療法の理論について復習しておくこと。
	授業予定	事例をとおして、カウンセリング・心理療法のスキルにおける自己の課題を明確にする。 *事例演習		配布資料	
第 5 回 〔講義〕	到達目標	カウンセリング・心理療法の具体的な実践方法について理解する。		テキスト P104	カウンセリング・心理療法の理論について復習しておくこと。
	授業予定	事例をとおして、カウンセリング・心理療法のスキルにおける自己の課題を明確にする。 *事例演習		配布資料	
第 6 回 〔講義〕	到達目標	コーチングの基本的スキルの具体的な方法を理解する。		テキスト P126	テキストを読んでおくこと。
	授業予定	1. コーチングの理論と方法を説明する。 (演習) 「認める」「聴く」「質問する」 「フィードバックする」「励ます」		配布資料	
第 7 回 〔講義〕	到達目標	アサーションの理論を理解する。		テキスト P142	他者との関係で自分が困難に感じたことをイメージしておくこと。
	授業予定	1. アサーションの理論と方法を説明する。 *事例演習		配布資料	
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)			
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。			
使用教材	テキスト	系統看護学講座 基礎分野人間関係論 第 2 部			

	参 考 図 書	
	そ の 他	配布資料 パワーポイント
授 業 以 外 の 学 習 方 法	講義当日予定の学習内容については、事前にテキストを読んでおくこと。また、他者との関係で自分が困難に感じた場面を想起しておくこと。	
履 修 上 の 留 意 点	看護職にとって、人間関係を築くことは職務の前提であり、看護活動においてはその中心となるものです。コミュニケーションやカウンセリングのスキルは講義をとおして身につけるものではなく、実践をとおして身につけていくものです。本科目で学んだ理論とスキルを、日ごろの人間関係の中でも実践しながらスキルを身につけていきましょう。	

科目区分	専門基礎分野	科目名	臨床心理Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	1. 患者とその家族が置かれる様々な状況における看護師の役割について理解する。 2. 患者との相互作用を評価する方法「リフレクション」について学習する。				
目 標	1. 患者その家族が置かれる様々な状況と看護師のかかわり方を理解する。 2. 患者との相互作用を評価する方法を理解する。 3. 保健医療チームにおける人間関係を理解する。				DP への対応
					DP1・2・3・4・ 5・6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	患者とはどのような存在か理解する。		テキスト P184 PWP	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 患者になるということについて、身体的側面・心理的側面・社会的側面から説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	患者と医療者の関係のあり方について理解する。		テキスト P191 PWP	
	授業内容	1. 患者－看護師の関係と、関係から生まれる相互作用について説明する。 2. 看護理論からみた患者－看護師関係について説明する。 ・ペプロウ・トラベルビー			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	患者と医療者の関係のあり方について理解する。		テキスト P189 PWP	
	授業予定	1. 患者－看護師の関係と、関係から生まれる相互作用について説明する。 2. 看護理論をとおして患者－看護師関係について考える。 ・ペプロウ・トラベルビー			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト P191 テキスト P193 PWP	次回講義までに、身近にあった印象に残っている場面をノートに書き留めてくること。3つ以上の場면을挙げておくこと。場面は、よい場面、わるい場面、どちらでもない場面、何でもよい
	授業予定	1. リフレクションの目的と方法を説明する。 2. プロセスレコードの目的と方法を説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト P191 PWP	
	授業予定	1. リフレクションをとおして相手と自分の相互作用を分析する。 * 演習			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト P191 PWP	
	授業予定	1. リフレクションをとおして相手と自分の相互作用を分析する。 * 演習			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト P193 PWP	
	授業予定	1. プロセスレコードをとおして自己の課題に気づく。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	患者－看護師の相互作用を評価するための方法を理解する。		テキスト P193 PWP	
	授業予定	1. プロセスレコードをとおして自己の課題に気づく。			

第 9 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな状況にある患者と患者を支える看護師のかかわり方について理解する。	テキスト P196	
	授業予定	1. クリティカルな状況にある患者を支える人間関係について説明する。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな状況にある患者を支える看護師のかかわり方について理解する。	テキスト P202	
	授業予定	1. 慢性疾患を抱えて生きる患者を支える人間関係について説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな状況にある患者を支える看護師のかかわり方について理解する。	テキスト P210	
	授業予定	1. 死に向かう患者を支える人間関係について説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな状況にある患者を支える看護師のかかわり方について理解する。	テキスト P215	
	授業予定	1. 人間関係構築が難しい患者との関係構築について説明する。 * 疾患をかかえる子供との人間関係 * 精神疾患を抱える患者との人間関係		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	さまざまな場面における家族への看護について理解する。	テキスト P224	2 年次前期履修「家族看護」における理論を、復習しておきましょう。
	授業予定	1. さまざまな事例をととして、家族と看護師のかかわりについて説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	医療チームと人間関係について理解する。	テキスト P162	
	授業予定	1. チームにおける看護師の役割を説明する。 2. チームワークを阻害する要因と防止する方法について説明する。 3. チームにおけるコミュニケーションエラーとその予防方法を説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60% 未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 基礎分野人間関係論 第 2 部 (医学書院) 宮本正巳著『改訂版 看護場面の再構成』日本看護協会出版会		
	参考図書			
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		講義当日予定の学習内容については、事前にテキストを読んでおくこと。また、他者との関係で自分が困難に感じた場面を想起しておくこと。		
履修上の留意点		看護職にとって、人間関係を築くことは職務の前提であり、看護活動においてはその中心となるものです。コミュニケーションやカウンセリングのスキルは講義をととして身につけるものではなく、実践をととして身につけていくものです。本科目で学んだ理論とスキルを、日ごろの人間関係の中でも実践しながらスキルとして身につけていきましょう。 本科目における「リフレクション」には、日ごろから意識的にも無意識的にも感じている些細な違和感がとても大切になります。そして、リフレクションは、看護師として成長するために生涯にわたって必要な振り返りのプロセスです。		

科 目 区 分	専門基礎分野	科 目 名	関係法規	単 位	1 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①甲斐 慶子 ②清岡 佳子	実 務 経 験 関 連 資 格	①保健師 （元）別府市健康推進課 保健師 ②助産師 * 医療事故管理者養成研修 2 を受講（日本看護協会） * 医療事故対応及び支援（産婦の医療事故、療養上の世話の医療事故）		
目 的	我が国の保健医療に関する諸制度の概要を理解し、人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割と機能に関する基本的な法律について学ぶ。				
目 標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。 2. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。 3. 看護職の職業人としての任務に関する法規を理解する。			DP への対応 DP3,4	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 （ 甲 斐 ）	到達目標	ガイダンス 1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。		① P 2 ～12	① 医療を利用する者の視点で社会保障の施策について保障制度の活用が理解できるように学ぶ。
	授業予定	1. 法の概念①法の概念と分類 2. 衛生法。 3. 厚生行政の仕組みについて解説する。			
第 2 回 〔 講 義 〕 （ 甲 斐 ）	到達目標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。		① P52～159	②看護職については、看護制度の発展のために保助看法の改正が行われているので、諸改正に注意し、業務を理解できるように学ぶ 看護職の業務について法的根拠に基づいた実践と説明ができるように学習してください。欠格事由と障害をもつ看護職について考えてみる。
	授業内容	医事法：①医師法・医療法 ②医療関係資格報 ③保健医療福祉資格法 ④医療を支える法 ⑤人の死に関する法 ⑥緊急時の看護・医療に関する法について解説する。			
第 3 回 〔 講 義 〕 （ 甲 斐 ）	到達目標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。		① P120～159	
	授業予定	保健衛生法：①共通保険法 ②分別保健法 ③感染症に関する法 ④食品に関する法 ④食品に関する法について解説する。			
第 4 回 〔 講 義 〕 （ 甲 斐 ）	到達目標	1. 社会・生活基盤と健康に関する法規を理解する。		① P162～178	
	授業予定	薬務法：①薬事一般に関する法律 ②人などの組織を用いた医療関連法 ③薬害被害者の救済等 ④麻薬・毒物等			
第 5 回 〔 講 義 〕 （ 甲 斐 ）	到達目標	2. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。		① P182～187	
	授業予定	環境衛生：①営業 ②環境整備 社会保険法：①雇用保障 ②年金 ③手当			
第 6 回 〔 講 義 〕 （ 甲 斐 ）	到達目標	2. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。		① P191～232	
	授業予定	1 社会保険法 ①費用保障 ②年金 手当 2 福祉法：①福祉の基盤、②児童分野 ③高齢分野 ④障害分野			
第 7 回 〔 講 義 〕 （ 甲 斐 ）	到達目標	2. 人々の健康を守る医療従事者や機関に関する法規について理解する。		① P234～252 P255～267	
	授業予定	労働と社会基盤：①労働法 ②社会基盤整備 ②環境法：環境保全基本法 ②郊外防止法 ③自然保護法			
第 8 回 〔 講 義 〕 （ 清 岡 ）	到達目標	ガイダンス：①保助看法、人格法を学ぶ目的について説明できる②。保助看法、人格法の変遷について説明できる。③保助看法改正の経緯について理解できる。		① P30～49 看護六法、保助看法の60 年を振り	
	授業予定	看護業務について法的根拠に基づいて説明 看護業務の法的思考力を身につける学び方について解説する			

			返る（日本看護協会） 看護六法第三篇	
第 9 回 〔講義〕 （清岡）	到達目標	①看護師の法的な業務範囲及び保助看法の違反行為について説明できる。②看護師の医師と看護師の役割分担の国際比較：フランス	看護六法 P416 資料	保助看法総則から雑則まで通読しておく、科目目標に関するところは、付箋をしておく
	授業予定	看護職に必要な試験と資格制度、看護職の免許取得と業務等について、保助看法で解説する		
第 10 回 〔講義〕 （清岡）	到達目標	①看護師の注意義務と責任について保助看法から説明できる。②看護業務と守秘義務について説明できる。	保助看法第 10 条、第 42・43 条、 31 条	療養上の世話と診療の補助について日常の看護業務を関連付けてみる。
	授業予定	専門職業人として、法を守る意味について考えることの必要性について解説する。		
第 11 回 〔講義〕 （清岡）	到達目標	看護事故の法的責任について説明できる。①医療事故とは、②看護事故の法的責任とは、③民事上の責任、④刑事上の責任 ⑤行政上の責任、	医療法施行 規則第一章 医療の安全 確保、保助 看法	看護学生として実践できるリスクマネジメントについて考える。
	授業予定	①医療安全の確保と医療事故との関連について説明 ②看護事故の法的責任と医療事故後の看護師免許等について保助看法で解説する。		
第 12 回 〔講義〕 （清岡）	到達目標	医療法、医師法、臓器の移植、未受精卵凍結等に関する法律について説明できる。	看護六法、 医療法、他 資料	医療法で定義されている用語を、整理しておこう。
	授業予定	病院等の定義、医師の業務、法律からみた臓器移植などについて解説する。		
第 13 回 〔講義〕 （清岡）	到達目標	特定行為と法的看護業務との関係について説明できる。	看護六法	特定医行為の法的背景を学習し、今後どのように発展していくのか創造しておく。
	授業予定	特定医行為について解説する。		
第 14 回 〔講義〕 （清岡）	到達目標	看護師等の人材確保の促進に関する法律の目的、基本方針看護師等、ナースセンターについて説明できる。	看護六法	看護関係労働支援について考えてみる。
	授業予定	看護職の働き方と看護師の支援対策、ナースセンターの活用について解説する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)	講義で使用 したテキスト・配布資料	国家試験問題は完全制覇しておく。特に解説を理解しておくこと。その他、看護業務に直接関連する法規は重点学習しておく。
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①看護六法：新日本法規、令和 2 年版 ②看護関係法令：医学書院		
	参考図書	②看護師の注意義務と責任：編著：加藤済仁		
	その他	医療事故関連の事例		
授業以外の学習方法		①日本国憲法と国民の義務や権利について学習。履修にあたっては、法律として学ぶだけではなく、なぜこのような内容になっているのか、看護とどういう関係にあるのか、看護の専門領域で学んだことや、看護実習での経験、さらに書籍、インターネット・テレビ・新聞等で関連づけて理解する		
履修上の留意点		本授業は、看護職として重要な知識です。看護職として業務に従事する基準となるものです。臨地実習では、看護業務について法的根拠に基づいて説明できるよう学習してください。		

専門分野 授業計画

専門分野は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践、看護学領域別の臨地実習を基本の領域とし、それぞれに科目を設定しています。また、各領域と密接な関係をもつ7つの領域横断科目を設定しています。総計53科目（66単位）で構成しています。

基礎看護学は、総計9科目（11単位）で構成し、看護の基礎的理論や安全で安楽な看護を提供するための基本的看護技術、看護の展開方法を学びます。また、専門基礎分野の知識を活用して科学的根拠に基づいた看護実践を導くために、患者を想定したシミュレーション演習を多く取り入れながら、気づきを看護専門職の臨床判断につなげるための授業を展開していきます。

地域・在宅看護論は、総計5科目（5単位）で構成し、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で多職種と連携・協働しながら看護を実践するための能力を養うための基礎を学び、実習は地域に暮らす人々の様々な活動の場、生活の場で展開します。少子・高齢社会の進展とともに需給が増している看護師の役割が期待される分野です。

成人看護学5科目（5単位）、老年看護学3科目（3単位）、小児看護学3科目（3単位）は、発達段階別の看護に加え治療が必要な人々に対する看護を健康段階別に学ぶ領域です。講義をとおして成長発達を理解し、様々な発達段階・健康状態にある人々に対する看護の方法を学び、実習をとおして看護実践能力につなぎます。さらに、実習をとおしては、安心・安全を保障する援助の実践を積み重ねます。

母性看護学3科目（3単位）では、女性のライフサイクルの健康に対応する能力を養います。また、実習ではマタニティサイクル期にある母子とその家族を総合的に理解し人間の生命の誕生と尊厳について考え、人間をかけがえない存在として理解していくための過程をたどります。

精神看護学3科目（3単位）では、精神機能に対応する能力を養うための知識を深めます。実習をとおしては、対象との関係を丁寧振り返り、自分自身の行動が対象に与える影響について深く考え自分の傾向を見つめていきます。これらの過程をとおして援助的人間関係や治療的コミュニケーションについて学びを深めていきます。

看護の統合と実践は3科目（3単位）で構成し、医療安全をはじめチーム医療における看護マネジメントや多職種と連携・協働するための基礎的知識と実践力を身につけます。いよいよ看護師として活躍する直前の重要な科目です。

また、各看護学において共通する7科目（7単位）の領域横断科目を設定し、包括的、継続的な看護を展開するための知識を身につけます。領域横断科目は、看護師独自の専門性をもつ判断力や多職種と連携・協働する力を身につけるために欠かせない科目となります。

各看護学領域の臨地実習は総計12科目（23単位）で構成し、講義で学んだ知識・技術・態度を実践の場で活かし理論と実践を結びつけます。看護の対象を前に展開する実習は看護師としても、人としても成長できる貴重なものとなります。

実習をとおして理論と実践を統合した後に履修する地域・在宅看護論Ⅳでは、事例をとおして人々が住み慣れた地域で暮らすための多職種と連携・協働にある支援についてまとめます。同じく、看護実践演習では複雑な状況下での看護場面を想定した演習をとおして看護実践力に導き、3年間の学びをまとめ看護師国家試験に臨みます。

専門分野を構成する領域

基礎看護学
領域横断
地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学
看護の統合と実践
臨地実習

基礎看護学

科目区分	専門分野	科目名	看護学概論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	岡本 英子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 副学校長		
目 的	看護の本質、看護の対象となる人間の理解を深め、看護師としてのものの見かた考え方について学ぶ。				
目 標	1. 看護の歴史や看護活動の実際を通して、看護の機能や役割が理解できる。 2. 主な看護理論にある、人間、健康、環境、看護のとらえ方を理解する。 3. 看護について学ぶことにより看護に対する関心や意欲を高めることができる。 4. 看護を実践する上で、気づきが重要となることを理解できる。				DP への対応
					DP 4 DP 1、2 DP 6 DP 1、2、3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	看護とは何かに興味を抱き、考え続けていく必要性を理解する。	テキスト p10～38、配 布資料		どんな看護師になりたいかまとめる。
	授業予定	ガイダンス 看護の起源、看護の定義(保助看法をととして看護について考えるよう説明する。 看護を实践するうえで、気づきが重要となることを説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	看護の発展について思考できる。	テキスト p138～ 149、配布資 料		看護の歴史をまとめ る。
	授業内容	西洋における宗教的看護、看護の暗黒時代、ナイチンゲールの功績、日本の看護をととして説明する。 気づきを記載する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	看護活動について理解する。	テキスト p39～74、配 布資料、V T R		テキストの看護活動 を読んでおく。
	授業予定	看護活動の実際の V T R 視聴をととして説明する。 気づきを記載するよう説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	看護の対象を理解する。	テキスト p78～109、 配布資料		テキストの看護の対 象をよんでおく。
	授業予定	人間とは、環境とは、成長と発達、ライフサイクルと発達課題、心理と欲求、社会の中の生活者、統合体としての人間について説明し、気づきを記載するよう説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	「看護覚書」ナイチンゲールを理解する。	テキスト p25～26、配 布資料		「看護覚書」ナイチ ンゲールを読む。
	授業予定	GWでナイチンゲール「看護覚書」を熟読し、環境を整えることがどうして自然治癒力を引き出すことになるのか、看護は対象の生命力の消耗を最小にするように整えること、とはどういう意味か説明する。気づきの記載。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	「看護の基本となるもの」ヘンダーソンを理解する。	テキスト p27～30、配 布資料		「看護の基本となる もの」ヘンダーソン を読む。
	授業予定	GWでヘンダーソン「看護の基本となるもの」を熟読し、看護師の独自の機能および基本的欲求と看護をまとめる。 気づきの記載。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	看護理論を調べ、看護について理解する。	テキスト p31～45、配 布資料		担当になった理論に ついて熟読する。
	授業予定	GWでオレム「オレム看護論」、ペプロウ「人間関係の看護論」、トラベルビー「人間対人間の看護」、ワトソン「ワトソン看護論」、キング「キング看護理論」、ロイ「ロイ看護適応モデル」、ベナー「ベナー看護論」を調べる。(人間、環境、健康、看護) 気づきの記載。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	看護理論を調べ、看護について理解する。	〃		〃
	授業予定	GWでオレム「オレム看護論」、ペプロウ「人間関係の看護論」、トラベルビー「人間対人間の看護」、ワトソン「ワトソン			

		ン看護論」、キング「キング看護理論」、ロイ「ロイ看護適応モデル」、ベナー「ベナー看護論」を調べる。(人間、環境、健康、看護) 気づきの記載。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	調べた看護理論を発表することで、理論家の考える看護を理解する。	テキスト、 配布資料 GWでまとめた資料	担当になった理論について熟読する。
	授業予定	GWでオレム「オレム看護論」、ペプロウ「人間関係の看護論」、トラベルビー「人間対人間の看護」、ワトソン「ワトソン看護論」、キング「キング看護理論」、ベナー「ベナー看護論」を調べる。 気づきの記載。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	健康の概念について理解する。	テキスト p108～ 115、 配布資料 GWでまとめた資料	テキストを読んでおく。
	授業予定	WHO、看護理論家、健康モデル、ICFの概念、健康観の変化 wellbeing を理解する。 気づきの記載。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	国民の健康と健康増進、ヘルスプロモーションの概念について理解する。	テキスト p115～ 133、66 配布資料	国民衛生の動向のどこに記載されているか調べる。健康増進対策、ヘルスプロモーションについて語意を調べる。
	授業予定	個人ワークで、衛生指標(人口、出生、死亡、死因、健康行動)を調べる。レポート提出。 ヘルスプロモーションの概念を理解する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	健康障害の経過と経過別看護の考え方を理解する。	臨床看護総論 p58、 配布資料	テキストを読んでおく。
	授業予定	急性期、回復期、慢性期、リハビリテーション期、終末期における健康状態を理解する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	看護職の法的規定と看護教育制度を理解する。	テキスト p138～ 162、 配布資料	保健師助産師看護師法について調べる。
	授業予定	保健師助産師看護師法および看護教育制度の変遷について理解する。 気づきの記載。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	成りたい看護師像を描けるよう、看護師とキャリア開発について理解する。	テキスト p162～178、 配布資料	前回までの授業から看護師の役割についてまとめる。
	授業予定	専門看護師、認定看護師、特定看護師などの活躍のVTRを視聴する。成りたい看護師像を記述する。 気づきの看護の重要性を記述する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 ナイチンゲール「看護覚書」現代社 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 黒田裕子「優しく学ぶ看護理論」日総研		
	参考図書	国民衛生の動向 厚生統計協会		
	その他			
授業以外の学習方法		「看護とは」「看護師とは」を折に触れ考えるようにしましょう。		
履修上の留意点		授業に必要な事前学習にしっかり取り組むこと、また、グループワークでは自分の考えを述べ、記述できるようにしましょう。		

科目区分	専門分野	科目名	看護倫理	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	甲斐 有美子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	「徳の倫理」「原則の倫理」をとおして、ナースとして倫理的に物事を考える道筋を学ぶ。				
目 標	1. 看護実践における倫理の重要性を理解する。 2. 倫理に関する理論や倫理原則を理解する。 3. 倫理的意思決定のための思考方法を理解する。				DP への対応
					DP5
					DP5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	看護実践における倫理の重要性を理解する。		テキスト① P1～15 配布資料	道徳と倫理の言葉の 意味を調べる。
	授業予定	ガイダンス 看護倫理とは何か、看護倫理の必要性、看護師の最も重要な 倫理的責任、看護が大切にしている価値について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	看護倫理の歴史的推移を理解する。		テキスト① P16～22 配布資料	看護倫理に関する重 要な言葉「和」 「礼」「家」「面子」 「コンパッション」 「思いやりの心」「専 門職」「患者中心の 看護」「アドボカシ ー」「協力」「パター ナリズム」「個人の 権利」「インフォー ムド・コンセント」 「看護情報と守秘義 務」の言葉の意味を 調べる。
	授業内容	「徳の倫理」から「原則の倫理」に移行していった過程を理 解し、看護には「徳」と「原則」の両方の倫理が大切である ことを説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	「徳の倫理」および「原則の倫理」を理解する。		テキスト① P24～44 配布資料	「徳の倫理」「原則 の倫理」を学習す る。
	授業予定	専門職業人として、ある一定の状況において何をなすべき か、一個人としての善悪ではなく、ナースとしてその場でど うすることが良いことなのか判断できるよう説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	倫理的意思決定を導くための「4 ステップモデル」を理解す る。		テキスト① P119～128 配布資料	「意思決定」につい て調べる。
	授業予定	4 ステップモデルを使用して、事例を検討できるよう説明す る。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	生活の中にある倫理的課題に気づき、その課題に対して看護 学生としての認識を持って適切な態度・行動について理解す る。		テキスト① P129～166 配布資料	生活の中にある倫理 的課題を考える。
	授業予定	事例を使って検討できるよう説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	倫理綱領の各条文の意味を実践現場における具体的な場面と 関連させて理解する。		テキスト① P205～213 配布資料	日本看護協会「倫理 綱領」および I C N 「看護師の倫理綱 領」を調べる。
	授業予定	事例を使って検討できるように説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	「倫理」は看護の心であることを理解する。		テキスト① P45～65 配布資料	看護職に「倫理」が 重要となる理由をま とめる。
	授業予定	事例をとおして考えがまとまるように説明する。			
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)			
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。			

		方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。
使用教材	テキスト	①看護学テキスト 看護倫理 南江堂 小西恵美子②系統看護学講座 看護倫理 医学書院
	参考図書	
	その他	
授業以外の学習方法		「看護とは」「良い看護師とは」を折に触れ考えるようにしましょう。
履修上の留意点		看護の知識や技術だけでなく、看護を学ぶことで人間としても成長していきます。看護学を学ぶ中での「気づき」を大切に育てていきましょう。

科目区分	専門分野	科目名	基本看護技術Ⅰ	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	基本看護技術では、看護師が患者との良好な人間関係を構築するためのコミュニケーション、健康状態を把握するための観察とフィジカルアセスメント、看護の思考や行為を示すための記録といった、患者へ適切な看護を提供するための基盤となる看護技術を習得する。				
目 標	基本看護技術（コミュニケーション、観察、記録、報告、フィジカルアセスメント）について理解する。				DP への対応 DP1,2,3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	・看護を実践するために、看護技術を学ぶことの必要性を理解する。		テキスト P2～15 配布資料	・基礎科目の「感性の哲学」を復習する。 ・看護学概論で学んだ「看護の概念」について復習する。
	授業予定	・看護技術の目的 ・看護技術の4原則(安全・安楽・自立・個性) ・正確な方法の熟知 ・看護技術の根拠 ・対象者への適用意義と個性性の考慮 ・インフォームド・コンセント ・安全・安楽の確保 ・プライバシーの保護 ・気づきの重要性について説明する。			
第 2 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	看護実践において、コミュニケーションが重要となることを理解し、人間関係構築のコミュニケーションの基本について理解する。		テキスト P18～61 配布資料	・基礎科目の「人間関係論Ⅰ・Ⅱ」について復習する。 ・専門基礎科目「臨床心理」を復習する。
	授業内容	人間関係構築のコミュニケーションの基本となる接近的コミュニケーションや具体的な技法について説明する。			
第 3 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	コミュニケーション技法について理解する。		テキスト P18～61 配布資料	・人間関係論Ⅱで学習したアサーティブについて復習する。
	授業予定	効果的なコミュニケーション、情報を収集するためのコミュニケーション、説明のためのコミュニケーションについて説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	「看護は観察で始まり、観察で終わる」の所以を理解し、気づきの重要性を理解する。		テキスト P60 P241 配布資料	・「看護学概論」の看護の概念や本質について復習する。
	授業予定	観察における定量的観察と定性的観察を理解し、誰が行っても同じ結果になるような定量的観察の方法を身につけることによって定性的観察(直観)力も高まることを説明する。「気づき」を培うことは定性的観察力の質を高めることになり、対象者を全人的にとらえるためには重要であることを説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	1. 看護における記録の意義および報告の重要性について理解する。		テキスト P270～ 看護学概論 P61～ 配布資料	・基礎科目「論理学」の復習をおこない、論理的思考や記述方法について学習しておく。
	授業予定	・医療における記録(診療録・看護記録)、看護における記録の目的と機能、記録の管理、看護記録の構成要素、看護記録の実際について説明する。 ・報告の意義と目的、種類について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	・ヘルスアセスメントについて理解する。		テキスト① P64～P74	テキストの予習
	授業予定	1. ガイダンス 2. ヘルスアセスメントについて説明する。(身体、心理、社会的アセスメント)			

		3. 健康歴とセルフケア能力のアセスメントについて説明する。 4. フィジカルアセスメントについて説明する。		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	フィジカルアセスメントの概要と必要な技術について理解する。	テキスト① P 78～113	
	授業予定	1. フィジカルイグザミネーションについて説明する。 2. 対象者の全体を概観する方法について説明する。 3. バイタルサイン測定のための基本的な手技とアセスメントについて説明する。 4. 身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲の測定の方法を説明する。		
第 8 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	フィジカルアセスメントの概要と必要な技術について理解する。	テキスト① P 78～113	
	授業予定	1. フィジカルイグザミネーションの演習 2. バイタルサイン測定のための基本的な手技について演習 3. 身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲の測定の演習		
第 9 回 〔演習〕	到達目標	バイタルサイン測定に必要な技術について理解する。	テキスト① P 90～P 109	テキストの予習
	授業予定	バイタルサイン測定の演習を行う。		
第 10 回 〔演習〕	到達目標	バイタルサイン測定に必要な技術について理解する。	テキスト① P 90～P 109	
	授業予定	バイタルサイン測定の演習を行う。		
第 11 回 〔演習〕	到達目標	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際とアセスメントについて理解する。	テキスト① P 128～138	②テキストの予習 テキストを使用し、肺の機能について復習する。体表解剖で肺の位置を確認しておく。
	授業予定	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際について説明し、演習を行う。 2. 呼吸音の聴診とアセスメントの実際について説明し演習を行う。		
第 12 回 〔演習〕	到達目標	循環器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメントについて理解する。	テキスト① P 140～148	②テキストの予習 テキストを使用し、心臓の機能、血管について復習する。体表解剖図で心臓の位置を確認しておく。
	授業予定	1. 循環器系のフィジカルアセスメントの実際について説明し、演習を行う。 2. 心音の聴診とアセスメントの実際について説明し、演習を行う。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	1. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントについて理解する。 2. 腹部のフィジカルイグザミネーションについて理解、実施しアセスメントできる。	テキスト① P 150～164	②テキストの予習 テキストを使用し、乳房・リンパ系・消化器の機能について復習する。
	授業予定	1. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントについて説明する。 2. 腹部の聴診・触診とアセスメントの実際を説明し演習を行う。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	筋骨格系・神経系のフィジカルイグザミネーションについて理解する。		②テキストの予習 テキストを使用し、筋骨格系・中枢神経系の復習をする。
	授業予定	1. 筋骨格系のフィジカルアセスメントの実際を説明する。 2. 神経系のフィジカルアセスメントの実際を説明する。		
第 15 回 〔講義〕	到達目標	感覚系・外皮系のフィジカルイグザミネーションについて理解する。		②テキストの予習 テキストを使用し、感覚器、外皮（皮膚・爪）の復習をする。
	授業予定	1. 頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメントの実際を説明する。 2. 外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメントの実際を説明する。		
第 16 回		まとめ		

		終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法： ・終講試験は、100%の試験とし60%未満は再試験とする。 ・終講試験(100点満点)内訳は以下の通り - 第1回 技術とは(筆記試験10点) - 第2回3回 コミュニケーションとは(筆記試験10点) - 第4回 観察(筆記試験10点) - 第5回 記録報告(筆記試験10点) - 第6回～15回 フィジカルアセスメント(60点) →内訳は筆記試験30点、バイタルサイン測定の技術試験30点 ・筆記試験・技術試験は、別日程の実施とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 ②系統看護学講座 専門基礎 解剖生理		
	参考図書	フィジカルアセスメントが見える：メディックメディア		
	その他			
授業以外の学習方法		・呼吸や脈拍の測定、呼吸音の聴診など実際に家族や友人、学生同士など協力してもらい実施する。 ・演習時間内で不十分だった技術については放課後など時間を使って十分に練習すること。		
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	基本看護技術Ⅱ	単位	1単位
対象学年	1学年	学期	前期・後期	時間	30時間
担当教員	川野 明子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	医療現場や療養の場において、患者や自己の生命や健康状態を脅かす因子について理解するとともに、医療事故の発生を予防するための対策について理解する。 看護師がケアを必要とする対象者に対して的確に応えるには、看護的な視点で課題を見出して援助する必要がある。この科目では、健康課題を持つ対象者（患者）への看護の必要性とケアを提供する過程を根拠に基づいて考え、計画的に看護を実践する基礎的な方法を学ぶ。				
目標	1. 看護における安全の意義を理解し、安全を守るための技術を習得する。 2. 看護過程の概念と意義を理解する。 3. 看護過程の展開方法（アセスメント、診断、計画、実施、評価）を理解する。 4. 看護診断 5. 科学的根拠に基づいた問題解決方法を理解する。				DP への対応 DP3,5 DP3,6 DP3,5 DP3 DP3,6
授業回数 〔方法〕	内容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	医療における危険要因や療養生活に潜む事故について理解する。		テキスト P462～477 配布資料 K Y T	学校生活に潜む事故とその対策について考える。
	授業予定	事故防止の技術として、安全の意義、医療における危険要因（医療粗供養員、患者粗供養員、状況要因）、療養生活の安全確保（日常に潜む事故:転倒・転落、誤嚥など）、安全対策について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	感染予防の原則とスタンダードプリコーションについて理解する。		テキスト P423～458 配布資料	テキストを予習しておく。
	授業内容	感染の定義、感染予防の原則、スタンダードプリコーションについて説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	感染予防の種類と方法について理解する。		テキスト P423～458 配布資料	専門基礎科目の微生物の授業を復習しておく。
	授業予定	感染経路別予防策、消毒薬と滅菌法、消毒薬の種類、滅菌法の種類について説明する。			
第 4 回 〔演習〕	到達目標	衛生的な手洗いおよび個人防護用具（P P E）の着脱について理解する。		テキスト P427～435 配布資料 実習室にて 技術演習 （白衣着用）	衛生的な手洗い、個人防護用具の着脱について、テキストを熟読する。
	授業予定	衛生的な手洗い、個人防護用具（手袋、マスク、ガウン、ゴーグル、フェイスシールド）の着脱、感染性廃棄物の取り扱いについて説明する。			
第 5 回 〔演習〕	到達目標	無菌操作及び滅菌手袋、滅菌ガウンの装着方法を理解する。		テキスト p444～446 配布資料 実習室にて 技術演習 （白衣着用）	無菌操作、滅菌手袋、滅菌ガウンの着脱について、テキストを熟読する。
	授業予定	無菌操作および滅菌手袋、滅菌ガウンの着脱について理解し、技術演習をとおして、無菌操作（滅菌バックの開封、滅菌放送の開き方、清潔区域の作成、滅菌物の取り出し方、鉗子・鑷子の取り扱い）の技術および滅菌手袋、滅菌ガウンの着脱の技術を説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	看護過程を構成する 5 段階を理解する。		テキスト P218	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 看護過程の概要として、看護過程とはなにか、看護理論とのつながり（看護の視点）を説明する。			
第 7 回 〔演習〕		アセスメントの意義と方法を理解する。		テキスト P239	
		アセスメントの枠組み、問題を明らかにするための意図的・系統的な情報収集、情報の整理と分析について説明する。			

第 8 回 〔 演 習 〕	到達目標	アセスメントの意義と方法を理解する。	〃	
	授業予定	アセスメントの枠組み、問題を明らかにするための意図的・系統的な情報収集、情報の整理と分析について説明する。		
第 9 回 〔 演 習 〕	到達目標	関連図の書き方を理解する。	テキスト P250	
	授業予定	患者の健康状態や生活が変化した経緯（問題が生じた原因や誘因、成り行き）の記述について説明する。		
第 10 回 〔 演 習 〕	到達目標	健康問題を明確化する方法（看護診断名）を理解する。	テキスト P252	
	授業予定	アセスメントにより導き出された看護上の問題を表現する方法（看護診断）と優先順位について説明する。		
第 11 回 〔 演 習 〕	到達目標	健康問題を明確化する方法（看護診断名）を理解する。	〃	
	授業予定	アセスメントにより導き出された看護上の問題を表現する方法（看護診断）と優先順位について説明する。		
第 12 回 〔 演 習 〕	到達目標	看護計画の立案について理解する。	テキスト P261	
	授業予定	看護上の問題（看護診断）を解決するための目標と看護介入の方法を成分化する方法を説明する。		
第 13 回 〔 演 習 〕	到達目標	看護計画の立案について理解する。	〃	
	授業予定	看護上の問題（看護診断）を解決するための目標と看護介入の方法を成分化する方法を説明する。		
第 14 回 〔 演 習 〕	到達目標	看護行為の結果を評価する方法を理解する。	テキスト P235、266	
	授業予定	計画を基に実施した看護を記録する方法や、援助に対する患者の反応や自身を観察すること（リフレクション）を説明する。		
第 15 回 〔 演 習 〕	到達目標	看護計画の内容を見直して追記（追加・修正）する方法を理解する。	テキスト P268	
	授業予定	評価の視点を用いて看護過程の各サイクルを見直すことや、記載内容の追加・修正の方法、看護目標の到達度判定について説明する。		
第 16 回 〔 演 習 〕		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法： ・終講試験は、①感染予防と安全管理(10 時間) ②看護過程(20 時間)を合わせて 1 単位(30 時間)の 100 点/50 分の試験を行う。そのうち①感染予防と安全管理は 50% ②看護過程は 50%の配分とする。 ・看護技術(無菌操作)については、日常生活援助技術Ⅱの排泄の単元で導尿の技術試験を実施するなかで確認する。 ・評価が 60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		日常においても安全な生活を送るためにリスク感性をたかめ、授業で学んだことを活用し、安全面に対して「気づき」ができるように訓練する。		
履修上の留意点		「誤薬防止」「患者誤認防止」「チューブ類の予定外抜去防止」は診療時援助技術の「与薬」、転倒・転落防止は日常生活援助技術Ⅰの「環境調整技術」、薬剤・放射線暴露の防止は、診療時援助技術の「与薬」および「検査」の授業を復習すること。		

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	日常生活援助技術Ⅰ	単 位	1 単位
対 象 学 年	1 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①岡部 裕美 ②服平 敏枝	実 務 経 験 関 連 資 格	①病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員 ②病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	暮らしの場の多様化により看護師は様々な場で療養する人々に対して、日常生活を整えるための援助を、健康状態やニーズに応じて実施する必要がある。この科目では、療養環境を快適に保つための「環境調整」、生活の基本である「活動と休息」、安らげる生活環境を提供するための「安楽確保」について理解を深め、対象の多様性に応じた援助を行う力をつける。				
目 標	1. 快適な療養環境について理解できる。 2. 病室の環境のアセスメントと快適な環境調整の方法を学ぶ。 3. ベッドメイキングの方法を理解する。 4. 臥床患者のリネン交換の方法を理解する。			DP への対応	
				D P 3	
				D P 3	
				D P 3	
	5. 人が健康的な生活を送るために必要な活動と休息のメカニズムを理解する。 6. 活動の援助として体位変換の援助、車いすやストレッチャーなどの移乗や移送の実際の方法を学ぶ。 7. 人間にとって最も優れた休息の方法である睡眠の援助について学ぶ。	D P 3			
8. 安楽の援助技術について理解する。	D P 3				
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (岡 部)	到達目標	療養生活における環境とは何か理解する。		テキスト① P10～14	テキストを読んでおくこと。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 病室内にあるベッドなどの物品について理解できる。 3. 療養環境についてアセスメントする。			
第 2 回 〔 講 義 〕 (岡 部)	到達目標	基本的なベッドメイキングが実施できる。 療養環境を整えることができる。		テキスト① P14～25	テキストを読んでおくこと。E ナーストレーナの1-1 から1-4 まで視聴すること。
	授業内容	基本的なベッドメイキングを実施する。また、安全な療養環境を整えるための環境整備を実施する。			
第 3 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	第2回に同じ		〃	〃
	授業予定	第2回に同じ			
第 4 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	第2回に同じ		〃	〃
	授業予定	第2回に同じ			
第 5 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	第2回に同じ		〃	〃
	授業予定	第2回に同じ			
第 6 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	臥床患者のリネン交換が実施できる。		テキスト① P25～26	テキストを読んでおくこと。E ナーストレーナの1-5 から1-6 まで視聴すること。
	授業予定	基本的な臥床患者のリネン交換を実施し、患者の安全・安楽について考える。			
第 7 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	第6回に同じ		〃	
	授業予定	第6回に同じ			

第 8 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	基本的活動の基礎知識を理解する。	テキスト① P94～P97	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 良い姿勢・ボディメカニクスについて説明する。		
第 9 回 〔講義〕 〔演習〕 (服平)	到達目標	体位と体位変換の技術を学ぶ。	テキスト① P100～P97	
	授業予定	1. 体位の実際（立位、座位、臥位、膝胸位、骨盤高位、碎石位）を説明する。 2. 体位変換の実際を説明し演習を行う。（ボディメカニクスを使って） 仰臥位⇒側臥位 側臥位⇒仰臥位 仰臥位⇒長座位 長座位⇒端座位 端座位⇒仰臥位 端座位⇒立位 仰臥位⇒ファウラー位 上方移動 水平移動		
第 10 回 〔講義〕 〔演習〕 (服平)	到達目標	第9回に同じ	〃	
	授業予定	第9回に同じ		
第 11 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	移動、移乗、移送の技術を学ぶ。	テキスト① P100～P97	
	授業予定	1. 杖、歩行器を用いた歩行の援助方法を説明する。 2. 車いす、ストレッチャーへの安全な移乗と移送の方法を説明する。		
第 12 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	1. 廃用症候群とそれを予防する「活動」の方法について理解する。 2. 褥瘡好発部位とその予防の方法を理解する。	1.2.テキスト ①P96～97 3.テキスト ①P277～ P284	
	授業予定	1. 廃用症候群について説明する。 2. 関節可動域訓練、筋力強化訓練について説明する。 3. 褥瘡好発部位とその予防の方法を説明する。		
第 13 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	睡眠と休息の援助について理解する。	テキスト① P127～P134	
	授業予定	1. 睡眠の種類・メカニズム・アセスメントの方法について説明する。 2. 睡眠・休息の援助について説明する。		
第 14 回 〔講義〕 〔演習〕 (服平)	到達目標	安楽とは何か理解する。	テキスト① P138 P145～148	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 安楽の援助の種類と技術について説明する。(ポジショニング・リラクゼーション・タッチング・マッサージのデモンストレーション)		
第 15 回 〔講義〕 〔演習〕 (服平)		温電法・冷電法の技術を学ぶ。	テキスト① P142～145	
		1. 温電法の実際を説明し演習を行う。 2. 冷電法の実際を説明し演習を行う。		
第 16 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法： ・終講試験は、100%の試験とし60%未満は再試験とする。 ・終講試験(100点満点)内訳は以下の通り 第1回～7回 環境調整(50点)→内訳、筆記試験20点、技術試験(リネン交換)30点とする。 第8回～13回 活動と休息(筆記試験40点) 第14回、15回 安楽確保(筆記試験10点) ・筆記試験・技術試験は、別日程の実施とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座基礎看護技術Ⅱ：医学書院		
	参考図書	看護覚え書き 看護技術がみえる：メディックメディア		

	そ の 他	
授 業 以 外 の 学 習 方 法		初めての看護技術の習得は、時間をかけた練習が重要である。各自練習を積み重ねること。
履 修 上 の 留 意 点		実習室でのみだしなみや演習態度、課題に取り組む姿勢などは評価に含まれ、終講試験の結果から減点する。 終講試験で合格していた学生であっても、技術試験の結果が不十分と思われる学生は、再チェックを行う。

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	日常生活援助技術Ⅱ	単 位	2 単位
対 象 学 年	1 学年	学 期	前期・後期	時 間	60 時間
担 当 教 員	①岡部 裕美 ②服平 敏枝	実 務 経 験 関 連 資 格	①病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員 ②病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	暮らしの場の多様化により、看護師は様々な場で療養する人々に対して、日常生活を整えるための援助を健康状態やニーズに応じて実施する必要がある。この科目では、生命を維持し健康状態を良好に保つための「食事」、「排泄」、皮膚の生理機能を整え心地よさを感じるための「清潔と衣生活」について理解を深め、対象の多様性に応じた援助を行う力をつける。				
目 標	1. 清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 2. 対象にあった清潔援助方法について理解する。 3. 清潔援助に関する基礎技術を理解する。 4. 衣生活援助に関する基礎技術を理解する。 5. 食事の意義と食事のアセスメントの視点を理解する。 6. 食事摂取への影響要因を理解し、対象に応じた援助をかんがえることができる。 7. 非経口的栄養摂取の目的、方法を理解する。 8. 排泄の意義、メカニズム、アセスメントの視点について理解する。 9. 対象に応じた排泄の援助および器具について理解する。 10. 床上排泄の援助、排便、浣腸、導尿の援助方法を理解する。 11. 援助を受ける患者の心理に気づき、気づきを活用した配慮や姿勢について理解する。			DP への対応	
				D P 3	
				D P 2、3	
				D P 3	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (岡 部)	到達目標	1. 清潔援助に必要な基礎知識を理解する。		テキスト p170～ 177、配布プ リント	・皮膚の構造と機能を復習する。 ・自身の清潔習慣について記録しふりかえる。 ・テキストを読んでおく。
	授業予定	身体清潔の意義、皮膚の構造と機能、洗浄剤の作用、清潔行動のアセスメントについて説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕 (岡 部)	到達目標	1. 衣生活の意義を理解する。 2. 全身の清潔援助の方法について理解する。		テキスト p178～ 223、P224 ～232、配布 プリント	・自身の衣生活について意味や意義をふりかえり、まとめる。 ・テキストを読んでおく。
	授業内容	①衣生活の意義、衣服調整のアセスメント、清潔援助の方法(全身:入浴、シャワー浴、清拭、洗髪、整容、結髪、髭剃り、洗面、眼・耳・鼻)について理解する。 ②演習する看護技術の援助計画の立案をする。			
第 3 回 〔 講 義 〕 (岡 部)	到達目標	1. 全身清拭(熱布清拭)と寝衣交換の具体的な援助計画を立案し、安全安楽に実施できる。		テキスト P184～ 189、P227 ～232	・授業までに①予習として、全身清拭(熱布清拭)と寝衣交換の援助計画をグループで1つ作成し期限までに提出し、指導後修正しておく。 ※e ナーストレーナー全身清拭と寝衣交換を視聴する。
	授業予定	①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえて実施する。			
第 4 回 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	第3回に同じ		〃	〃
	授業予定	第3回に同じ			
第 5 回 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	1.全身清拭(熱布清拭)と寝衣交換(熱布清拭)の具体的な援助計画を立案し、安全安楽に実施できる。		テキスト P184～ 189、P227	授業までに前回の演習後の振り返りを基に援助計画を修正
	授業予定	①演習は、立案した援助計画を基に全体演習を行う。原理原			

		則を踏まえて実施する。タブレットで一連の流れの動画を撮影し、各自リフレクションする。	～232	て提出する。 ※eナーストレーナー全身清拭と寝衣交換を視聴する。
第 6 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	第5回に同じ	〃	〃
	授業予定	第5回に同じ		
第 7 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	1. 洗髪(ケリーパッド)の具体的な援助計画を立案し、安全安楽に実施できる。	〃	・授業までに①予習として、洗髪(臥床患者に対してケリーパッド使用)の援助計画をグループで1つ作成し期限までに提出し、指導後修正しておく。 ※eナーストレーナー洗髪を視聴する。
	授業予定	①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえて実施する。タブレットで一連の流れの動画を撮影し、各自リフレクションする。		
第 8 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	第7回目に同じ	〃	〃
	授業予定	第7回目に同じ		
第 9 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	手浴・足浴とフットケア(保湿剤塗布)の具体的な援助方法を立案し、安全安楽に実施できる。	テキストP 199～204	・授業までに①予習として、手浴(臥床患者)、足浴とフットケア(端座位の患者)の援助計画をグループで1つ作成し期限までに提出し、指導後修正しておく。 ※eナーストレーナー部分浴と整容(フットケア)を視聴する。
	授業予定	①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえて実施する。タブレットで一連の流れの動画を撮影し、各自リフレクションする。		
第 10 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	第10回に同じ	〃	〃
	授業予定	第10回に同じ		
第 11 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	1. 口腔ケアと義歯洗浄 2. 整容と洗面(目耳鼻、爪切り、髭剃り)	テキストP 207～223	・授業までに①予習として、臥床患者の口腔ケアと義歯洗浄、整容と洗面(目耳鼻、爪切り、髭剃り)の援助計画をグループで1つ作成し期限までに提出し、指導後修正しておく。 ※eナーストレーナー口腔ケア、整容を視聴する。
	授業予定	①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえて実施する。タブレットで一連の流れの動画を撮影し、各自リフレクションする。		
第 12 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	第11回に同じ	〃	〃
	授業予定	第11回に同じ		

第 13 回 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	陰部洗浄を具体的は援助計画を立案し、安全安楽に実施できる。	テキスト P 204～207	・授業までに①予習として、臥床患者の陰部洗浄の援助計画をグループで1つ作成し期限までに提出し、指導後修正しておく。 ・※e ナーストレーナー陰部洗浄を視聴する。
	授業予定	①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえて実施する。タブレットで一連の流れの動画を撮影し、各自リフレクションする。		
第 14 回 〔 演 習 〕 (岡 部)	到達目標	第 13 回に同じ	〃	〃
	授業予定	第 13 回に同じ		
第 15 回 〔 講 義 〕 (服 平)	到達目標	1. 食事の意義を理解し、対象の食行動についてのアセスメントについて学ぶ。 2. 食事の種類について理解する。	テキスト① P 27～35 テキスト② P66～74 テキスト③ P109～P115	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 栄養状態及び摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメントについて説明する。 3. 病院で提供される食事の種類と形態について、説明する。		
第 16 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 (服 平)	到達目標	食事援助の方法を理解する。	テキスト① P 35～39 テキスト③ P109～115	
	授業予定	1. 食事援助の方法について説明する。 2. 食事援助の実際について演習を行う。		
第 17 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 (服 平)	到達目標	第 16 回に同じ	〃	
	授業予定	第 16 回に同じ		
第 18 回 〔 講 義 〕 (服 平)	到達目標	摂食嚥下訓練について理解する。	テキスト① P40～47	
	授業予定	食欲、摂食能力（食行動、嚥下）、嚥下障害、摂食嚥下訓練について説明する。		
第 19 回 〔 講 義 〕 (服 平)	到達目標	非経口的栄養摂取の方法（経管栄養法・中心静脈栄養法・胃ろう）について理解する。	テキスト① P 47～55	
	授業予定	非経口的栄養法の種類と管理の方法について説明する。 （経管栄養法・中心静脈栄養法・瘻管法）		
第 20 回 〔 講 義 〕 (服 平)	到達目標	経管栄養法における安全安楽な栄養物の注入について理解する。	テキスト① P 47～54	
	授業予定	1. 安全安楽な経鼻胃チューブの挿入について説明する。 2. 経管栄養法における栄養物の注入の実際（患者の準備） 3. 栄養物の準備 栄養物の注入 胃管の管理と患者の観察		
第 21 回 〔 講 義 〕 〔 演 習 〕 (服 平)	到達目標	1. 自身の気づきを活用しながら、排泄の意義、メカニズム、観察、アセスメントを理解する。	テキスト P 6 4～7 1 配布資料 テキスト P59 ～85	・人体の消化器について、食べ物かどのよう通過していくのか口から、尿道・肛門までをイラストにする。人体のしくみと働きについて復習する。
	授業予定	排泄の意義、メカニズム、観察、アセスメントを理解し、自身の気づきを活用する。		
第 22 回	到達目標	1. 排泄に関する研究をとおして、援助を受ける患者の心理	必要と考え	・自身の排泄(尿・

〔講義〕 〔演習〕 (服平)		に気づき、気づきを活用した配慮や姿勢について理解する。	る文献、ネット検索可 (信憑性の高い出典元)参考・引用した場合、記録すること。	便)について、頻度や性状を記録することで排泄状態を知り、健康のパロメーターと言われるゆえんを考える。
	授業予定	グループワークにて、排泄に関する内容のテーマを決定し、「文献学習」「調査」「実験」などの手法を用いて調べる。		
第 23 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	1. 研究成果の発表と検討内容より、「気づき」をもとに排泄の援助をするための看護者の視点を理解する。	発表のための資料(パワーポイント使用可)	・日ごろ、排せつに関することで気になっていることや排泄のイメージなどを考える。
	授業予定	グループワークしたことを発表する。発表に用いる資料は各グループで選択し、わかりやすい発表をする。		
第 24 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	1. 排泄の援助方法について理解し、対象の安全・安楽・自立・個別性を考慮した援助を考えることができる。	テキスト P 71～94 配布資料	排泄の援助方法についてテキストを熟読する。
	授業予定	①自然排泄(トイレ排泄、ポータブルトイレ排泄、床上排泄:便器尿器使用、おむつ使用)の方法を理解し、安全・安楽・自立・個別性について考える。 ②演習する看護技術の援助計画を立案する。		
第 25 回 〔演習〕 (服平)	到達目標	1. 床上排泄(尿器・便器・おむつ)の援助が実施できる。 2. 浣腸および排便の援助が実施できる。	テキスト P 74～79、88～94 配布資料	・授業までに①予習として、床上排泄・浣腸と排便の援助計画をグループでそれぞれ1つ作成し期限までに提出し、指導後修正しておく。 ※eナーストレーナー自然排尿および自然排便の介助を視聴する。
	授業予定	①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえて実施する。タブレットで一連の流れの動画を撮影し、各自リフレクションする。全員経験すること。 実施後、「気づき」をまとめる。 使用した学校の患者用パジャマは、洗濯をすること。		
第 26 回 〔演習〕 (服平)	到達目標	第 25 回に同じ	〃	〃
	授業予定	第 25 回に同じ		
第 27 回 〔演習〕 (服平)	到達目標	1. 導尿(一時的)の援助が実施できる。	テキスト P 79～83 配布資料	・授業までに①予習として、導尿(一時的)の援助計画をグループで1つ作成し期限までに提出し、指導後修正しておく。 ※eナーストレーナー一時的導尿を視聴する。
	授業予定	①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえて実施する。タブレットで一連の流れの動画を撮影し、各自リフレクションする。		
第 28 回 〔講義〕 〔演習〕 (服平)	到達目標	1. 導尿(持続的)を実施し、管理が理解できる。	〃	〃
	授業予定	①予習は右参照 ②演習は、立案した援助計画を基に部分演習と全体演習を行う。原理原則を踏まえて実施する。タブレットで一連の流れの動画を撮影し、各自リフレクションする。		
第 29 回 〔講義〕 〔演習〕 (服平)	到達目標	第 28 回に同じ	テキスト P 83～87、配布資料	・授業までに①予習として、導尿(持続的)の援助計画をグループで1つ作成
	授業予定	第 28 回に同じ		

				し期限までに提出し、指導後修正しておく。 ※eナーストレーナー持続的導尿を視聴する。
第 30 回 〔演習〕 (服平)	到達目標	第 29 回に同じ	〃	〃
	授業予定	第 29 回に同じ		
第 31 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法： ・日常生活援助技術Ⅱは 2 単位（60 時間）であり、①清潔、衣生活（28 時間） ②食事（12 時間） ③排泄援助技術（20 時間）で構成される。 ・終講試験は、筆記試験 70%、技術試験 30%の配分で実施する。 ・筆記試験の配点は ①清潔・衣生活（50%） ②食事（20%） ③排泄（30%）とし、100 点 /50 分の試験を行う。 ・①清潔・衣生活（50%）の内訳は、筆記試験 35%、技術試験(全身清拭)15%とする。 ・③排泄(30%)の内訳は、筆記試験 15%、技術試験(導尿)15%とする。 ・筆記試験・技術試験は、別日程の実施とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 ②系統看護学講座 解剖生理学：医学書院		
	参考図書	③看護形態機能学第 4 版：日本看護協会出版会		
	その他			
授業以外の学習方法		皮膚の構造及び機能について知識を定着し、皮膚の清潔保持ができないと、どんな問題が起こるのか学習する。演習で撮影した技術動画を参照し、課題を明確にし、技術試験当日に向けて自己練習に励む。 消化器や尿路の形態および機能について知識を定着しておく必要がある。		
履修上の留意点		日本人にとっての清潔行為の意味を考慮し、満足感が得られる技術について考える。 実習室でのみだしなみや演習態度、課題に取り組む姿勢などは評価に含まれ、終講試験の結果から減点する。 技術演習は、正確な技術を安全に、患者の立場に立つて行うこと。この援助が行われないと患者はどんな状態になるのか、援助の必要性を考慮して実施してください。 終講試験で合格していた学生であっても、技術試験の結果が不十分と思われる学生は、再チェックを行う。		

科目区分	専門分野	科目名	診療時援助技術	単位	2単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	60 時間
担当教員	①小林 恭子 ②服平 敏枝 ③岡部 裕美	実務経験 関連資格	①病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員 ②病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員 ③病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	診療の場面では、医療の高度化・専門化により多様な検査が行われるようになり、なかには生体侵襲による苦痛や羞恥心を伴うものがあるため、より安全で安楽な看護技術の提供が求められる。この科目では診療に伴う援助として、呼吸・循環を整える技術（6回）、創傷管理（2回）、与薬（13回）、検査（6回）、採血（3回）についての基礎的な看護技術を演習を通して習得する。（全30回）				
目 標	診療・検査における看護の実際と看護師の役割について理解する。 1. 対象者の呼吸に伴う苦痛を科学的視点からアセスメント理解する。 2. 対象者が安全・安楽に呼吸を整えるために必要な援助技術を理解する。 3. 治療や処置に伴う苦痛やプライバシーに配慮した援助方法を理解する。 1. 創傷の治癒に必要な基礎知識を理解する。 2. 創傷処置と褥瘡予防の方法を理解する。 3. 包帯法の原則に則った基本的な固定を理解する。 1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 指示された薬物を安全に与薬する方法を理解する。 3. 経口与薬、直腸内与薬の援助方法を理解する。 4. 安全かつ正確に注射を実施する方法を理解する。 1. 静脈血採血の方法と注意事項を理解する。 2. 対象者が安全に採血を終えるために必要な技術を理解する。 3. 採血を必要とする対象者に応じた援助方法について理解する。				DP への対応 DP3 DP2、DP3 DP3、DP4 DP2、DP3 DP3、DP5 DP3 DP2、DP3 DP3、DP5 DP2、DP3 DP3、DP5 DP3 DP3 DP2、DP3、DP4
授業回数 〔方法〕	内 容		使用教材	授業に関する 準備学習	
第 1 回 〔講義〕 (岡部)	到達目標	呼吸困難を軽減する方法について理解する。	テキスト P214		
	授業予定	1. ガイダンス 2. 呼吸管理の方法（酸素吸入療法、吸引、排痰ケア）を説明する。			
第 2 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	呼吸を安楽にする援助方法について理解する。	テキスト P220		
	授業内容	酸素吸入療法、吸引（一時的、持続的）、排痰ケア（体位ドレナージ、ハフフィング、スクイーミング、ネブライザー、呼吸法）について説明する。			
第 3 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	酸素療法を必要とする患者への看護を理解する。	テキスト P216		
	授業予定	酸素供給システム（中央配管）や酸素ポンベの取り扱いの実際を説明する。			
第 4 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	安全な手技で口腔・鼻腔内の喀痰を吸引する方法を理解する。	テキスト P228		
	授業予定	吸引の種類と方法、吸引の適応、用途に合わせたカテーテルの選択、実施上の注意点について説明する。			
第 5 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	気管内挿管と吸引を必要とする患者への看護を理解する。	テキスト P228、427		
	授業予定	気管内挿管介助技術、気管内吸引、持続的吸引（胸腔ドレナージ）の実際を説明する。			
第 6 回 〔演習〕 (岡部)	到達目標	排痰を促す必要性と援助の方法を理解する。	テキスト P223		
	授業予定	体位ドレナージ、ネブライザー吸入療法の実際を説明する。			
第 7 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	創傷の治癒過程をふまえた創傷管理の実際について理解する。	テキスト P262		
	授業予定	1. ガイダンス 2. 創傷管理の基礎知識、創傷処置・褥瘡処置・ドレーン挿			

		入部の処置の実際を説明する。 ※皮膚排泄ケア認定看護師		
第 8 回 〔演習〕 (服平)	到達目標	包帯を用いた援助を理解する。	テキスト P272	
	授業予定	包帯法(巻軸帯・三角巾での固定、包帯の巻き方)の実際を説明する。		
第 9 回 〔講義〕 (小林)	到達目標	与薬を必要とする患者への看護を理解する。	テキスト P288、 463、470、 474	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 与薬の目的と看護師の役割、誤薬防止、患者誤認防止、 薬剤暴露予防について説明する。		
第 10 回 〔講義〕 (小林)	到達目標	薬物管理の方法と管理の重要性を理解する。	テキスト P286	
	授業予定	与薬の種類、薬物動態、薬剤の管理(毒薬・劇薬・麻薬・抗 悪性腫瘍剤・血液製剤)を説明する。		
第 11 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	内服薬、口腔内薬、外用薬を用いた安全な与薬の方法を理解 する。	テキスト P290	
	授業予定	経口与薬、直腸内与薬、経皮・外用薬の与薬を必要とする患 者への援助の実際を説明する。		
第 12 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	注射の方法と留意事項を理解する。	テキスト P301	
	授業予定	注射の種類と特徴、注射器・注射針の取り扱い、アンプル・ バイアルの取り扱いについて説明する。		
第 13 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	注射を必要とする対象に応じた援助方法を理解できる。	テキスト P320、 444、469	
	授業予定	注射の準備から実施(無菌操作)、片付けまでの一連の過程 のデモンストレーションを通して、対象にあった援助方法を 説明する。		
第 14 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	皮下注射の実際を理解する。	テキスト P310	
	授業予定	皮下注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を 説明する。		
第 15 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	皮下注射の実際を理解する。	テキスト P310	
	授業予定	皮下注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を 説明する。		
第 16 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	筋肉内注射の実際を理解する。	テキスト P316	
	授業予定	筋肉内注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を 説明する。		
第 17 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	筋肉内注射の実際を理解する。	テキスト P316	
	授業予定	筋肉内注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を 説明する。		
第 18 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	静脈内注射の実際を理解する。	テキスト P320	
	授業予定	静脈内注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施方法を 説明する。		
第 19 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	点滴静脈内注射の実際を理解する。	テキスト P323	
	授業予定	点滴静脈内注射の目的、方法、注射部位の選択の仕方、実施 方法を説明する。		
第 20 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	輸液速度の調整方法を理解する。	テキスト P328	
	授業予定	クレンメを用いた自然滴下、輸液ポンプ、シリンジポンプの 操作方法と安全管理について説明する。		
第 21 回 〔講義〕 (小林)	到達目標	輸血実施の手順と副作用について理解する。	テキスト P337	
	授業予定	輸血療法の目的、輸血用血液製剤の取り扱い、輸血の手順、 副作用の原因と対策について説明する。		
第 22 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	診療の補助における看護師の役割について理解する。	テキスト P374、404	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 診察時の患者の状況や病状の経過と、それらを看護活動 に繋げるための基礎知識について学習する。		

第 23 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	検査における看護師の役割について理解する。	テキスト	
	授業予定	検査の種類と看護師の役割、放射線被ばく防止策について説明する。	P387、 404、476	
第 24 回 〔服平〕	到達目標	検査の目的と方法について理解する。	テキスト	
	授業予定	生体検査、検体検査について説明する。	P375	
第 25 回 〔服平〕	到達目標	検査を介助する際の注意点を理解する。	テキスト	
	授業予定	胸腔穿刺、腹腔穿刺の事前準備、実施前・実施中・実施後の看護について説明する。	P413	
第 26 回 〔服平〕	到達目標	検査を介助する際の注意点を理解する。	テキスト	
	授業予定	腰椎穿刺、骨髄穿刺の事前準備、実施前・実施中・実施後の看護と、胃洗浄について説明する。	P414、367	
第 27 回 〔 〕 (服平)	到達目標	検査を必要とする患者の苦痛や羞恥心を最小にする配慮を理解する。	テキスト	
	授業予定	血糖測定、中間採尿、尿比重測定、心電図検査の手法や、患者の苦痛や羞恥心に対する配慮について説明する。	P381	
第 28 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	静脈血採血の目的と方法を理解する。	テキスト	
	授業予定	採血法の種類、器具の種類と選択、血管の選択方法、採血実施時の注意事項を説明する。	P375	
第 29 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	静脈血採血をモデル人形に対して安全に実施できる。	テキスト	
	授業予定	真空採血管を用いた採血方法、翼状針とシリンジを用いた採血方法、対象に応じた工夫（小児・高齢者）を説明する。	P376、456	
第 30 回 〔演習〕 (小林)	到達目標	静脈血採血が必要な患者への看護を理解する。	テキスト	
	授業予定	第2回同様、採血の実際をデモンストレーションを通して説明する。	P376	
第 31 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法： ・「診療時援助技術」は 2 単位（60 時間）あり、5 項目（①呼吸・循環を整える技術、②創傷管理、③与薬、④検査、⑤採血）で構成される。 ・終講試験は、100%の試験とし 60%未満は再試験とする。 ・終講試験(100 点満点)内訳は以下の通り - 第 1 回～6 回 呼吸循環を整える技術(筆記試験 15 点) - 第 7 回～8 回 創傷管理(筆記試験 5 点) - 第 9 回～21 回 与薬(筆記試験 45 点) - 第 22 回～27 回 検査(筆記試験 15 点) - 第 28 回～30 回 採血(20 点)→ 内訳、筆記試験 5 点、技術試験(真空管採血)15 点とする。 ・筆記試験・技術試験は、別日程の実施とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護学技術Ⅱ（医学書院）		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法				
履修上の留意点		創傷管理の第 1 回目は日本看護協会が認定する、皮膚・排泄ケア認定看護師（WOC ナース）による講義です。 皮膚・排泄ケアの実際や患者とのかかわりの事例など、詳しく知ることができます。 将来どんな看護師になりたいか、キャリアプランをイメージしつつ受講することを勧めます。		

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	臨床判断	単 位	1 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担 当 教 員	岡部 裕美	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	臨床判断とは、患者のニーズ、気がかり、健康問題について解釈し結論すること、また行為を起こすか起こさないかの判断、標準的な方法を行うか変更するかの判断、患者の反応から適切とその場で考え出して行う判断である（tanner, C）。その過程において、看護者の気づきが重要となる。この科目では、看護者としての気づく力を培い、科学的根拠に基づき看護者としてとるべき行動を導く思考過程を学ぶ。				
目 標	1. 対象に生じている状況から気づいたことを述べる。（気づき） 2. 気づいたことについて、既習の知識を活用し、その意味を理解する。 3. 対象に生じている状況を明確にするための情報収集（フィジカルイグザミネーション含む）を理解する。 4. 対象に生じている状況をフィジカルアセスメントから理解する。（分析・解釈） 5. 対象に生じている状況から、必要な看護行為を理解する。（行為） 6. 気づきから始まる一連の看護行為を省察することができる（省察）			DP への対応 DP 1, 2, 3 DP 1, 2, 3 DP 1, 3 DP 3 DP 1, 3 DP 1, 2, 3, 6	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕	到達目標	臨床判断能力の必要性について理解する。		資料	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 臨床判断とは何か、タナーの臨床判断モデルを活用して説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕	到達目標	対象の日常生活行動を観察し、意味ある情報を理解する。		DVD 視聴と 資料（事例1）	基本看護技術Ⅰフ ィジカルアセスメ ント
	授業内容	1. 〔事例1〕 DVD「清潔（または食事）の援助場面」を視聴し、観察点を言語化、分類し、さらに知りたい情報について説明する。 2. 得た情報をフィジカルアセスメント（解剖生理学、病理学、基礎看護学）の知識を活用し、その意味を考え、説明する。			
第 3 回 〔 講 義 〕	到達目標	対象の日常生活行動を観察し、意味ある情報を理解する。		資料	基本看護技術Ⅰフ ィジカルアセスメ ント
	授業予定	1. グループワークを通して、新たな視点で気づいたことを説明する。 2. 状況から必要な援助についてグループで考えたことを説明する。			
第 4 回 〔 講 義 〕	到達目標	対象の日常生活行動から、意味ある情報を理解する。		DVD 視聴と 資料（事例2）	基本看護技術Ⅰフ ィジカルアセスメ ント
	授業予定	1. 〔事例2〕 DVD「排泄の援助場面」を視聴し、観察点を言語化、分類し、さらに知りたい情報について説明する。 2. 得た情報をフィジカルアセスメント（解剖生理学、病理学、基礎看護学）の知識を活用し、その意味を考え、説明する。			
第 5 回 〔 講 義 〕	到達目標	対象の日常生活行動から、意味ある情報を理解する。		資料	基本看護技術Ⅰフ ィジカルアセスメ ント
	授業予定	1. グループワークを通して、新たな視点で気づいたことを説明する。 2. 状況から必要な援助についてグループで考えたことを説明する。			
第 6 回 〔 講 義 〕	到達目標	対象に必要なフィジカルアセスメントを理解する。		資料（事例3）	基本看護技術Ⅰフ ィジカルアセスメ ント
	授業予定	1. 事例3「発熱と呼吸困難感がある患者」のフィジカルアセスメントを説明できる。 2. 必要と考えられる援助について説明する。			
第 7 回	到達目標	対象に必要なフィジカルアセスメントをもとに、必要な援		シュミレーシ	基本看護技術Ⅰフ

〔講義〕		助行為が理解できる。	ヨン資料	イジカルアセスメント
	授業予定	1. 事例3「発熱と呼吸困難感がある患者」のシュミレーション演習の中でフィジカルアセスメントや援助した内容について説明する。		
第8回 〔講義〕	到達目標	対象に生じている状況から、最適な臨床判断を理解する。	資料	基本看護技術Ⅰフィジカルアセスメント
	授業予定	1. 事例3に対して実施したフィジカルアセスメントと援助を省察し、不足していた情報の抽出やアセスメント、援助について説明する。		
第9回 〔講義〕	到達目標	対象に必要なフィジカルアセスメントを理解する。	資料(事例4)	基本看護技術Ⅰフィジカルアセスメント
	授業予定	1. 事例4「CO2ナルコースや低血糖など(例)」のフィジカルアセスメントを説明できる。 2. 必要と考えられる援助について説明する。		
第10回 〔講義〕	到達目標	対象に生じている状況から、必要な行為を理解する。	シュミレーション資料	基本看護技術Ⅰフィジカルアセスメント
	授業予定	1. 事例4「CO2ナルコースや低血糖(例)患者」の趣味レーション演習の中で、フィジカルアセスメントや援助した内容について説明する。		
第11回 〔講義〕	到達目標	実施した臨床判断と行為について省察し、課題を理解する。	資料	基本看護技術Ⅰフィジカルアセスメント
	授業予定	1. 事例4に対して実施したフィジカルアセスメントと援助を省察し、不足していた情報の抽出やアセスメント、援助について説明する。		
第12回 〔講義〕	到達目標	対象に必要なフィジカルアセスメントを理解する。	資料(事例5)	基本看護技術Ⅰフィジカルアセスメント
	授業予定	1. 事例5「肝性脳症の発症を疑う患者(例)」のフィジカルアセスメントを説明する。 2. 必要と考えられる援助について説明する。		
第13回 〔講義〕	到達目標	対象に生じている状況から、必要な行為を理解する。	シュミレーション資料	基本看護技術Ⅰフィジカルアセスメント
	授業予定	事例5「肝性脳症の発症を疑う患者(例)」のシュミレーション演習の中で、フィジカルアセスメントや援助した内容について説明する。		
第14回 〔講義〕	到達目標	実施した臨床判断と行為について省察し、課題を理解する。	資料	基本看護技術Ⅰフィジカルアセスメント
	授業予定	1. 事例5に対して実施したフィジカルアセスメントと援助を省察し、不足していた情報の抽出やアセスメント、援助について説明する。		
第15回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：終講試験40点・レポート40点・態度20点、60点未満は再試験を行う。		
使用教材	テキスト	なし		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法				
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	看護研究	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	川野 明子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	自分の看護実践を振り返りながら看護研究（ケーススタディ）に取り組むことで、方法論の探求や看護に対する深い理解を得る。また、ケーススタディを論文としてまとめることで、文献検索の方法、実践した看護の評価、批判的思考力について学ぶ。				
目 標	1. 研究の意義と必要性を理解する。 2. 研究の種類、研究方法を理解する。 3. 文献の活用方法を理解する。 4. 研究的な視点で実践した看護を振り返る方法を理解する。			DP への対応	
				DP4、DP6 DP3 DP3 DP1、DP3、DP6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	看護研究の特徴、研究の意義を理解する。		テキスト	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 看護研究の概要を説明する。		P38	
第 2 回 〔講義〕	到達目標	リサーチクエスション（RQ）を理解する。		テキスト P8	
	授業内容	研究デザインの概要として、研究の種類と特徴や倫理的配慮について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	文献の検索方法を理解する。		テ キ ス ト	
	授業予定	文献の検索(W e b 検索)の方法、文献の読み方、整理の仕方を説明する。		P123	
第 4 回 〔講義〕	到達目標	文献を批判（クリティーク）的に読む方法を理解する。		テキスト	
	授業予定	文献査読（クリティーク）の実践を通して、批判的思考とは何か、批判的吟味の視点（妥当性・信頼性・適用性）を説明する。		P97	
第 5 回 〔講義〕	到達目標	研究計画書の書き方を理解する。		テキスト	
	授業予定	研究テーマの設定と研究計画書の構成、研究を行う際の倫理的配慮を説明する。		P56	
第 6 回 〔講義〕	到達目標	論文（ケーススタディ）のまとめ方を理解する。		テキスト	
	授業予定	実践を通して論文（ケーススタディ）の書き方と発表の仕方を説明する。		P115	
第 7 回 〔講義〕	到達目標	自分の看護実践を振り返り、探究的な学習姿勢を理解する。		テキスト	
	授業予定	研究活動と成果の発表を通して、看護の本質（看護で大切なこと）を考えることの意義を説明する。		P89	
第 8 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	論文（ケーススタディ）をまとめる。			
	授業予定	ケーススタディに取り組む			
第 9 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	論文（ケーススタディ）をまとめる。			
	授業予定	ケーススタディに取り組む			
第 10 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	論文（ケーススタディ）をまとめる。			
	授業予定	ケーススタディに取り組む			
第 11 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	論文（ケーススタディ）をまとめる。			
	授業予定	ケーススタディに取り組む			
第 12 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	論文（ケーススタディ）をまとめる。			
	授業予定	ケーススタディに取り組む			

第 13 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	論文（ケーススタディ）をまとめる。		
	授業予定	ケーススタディに取り組む		
第 14 回 〔講義〕 〔演習〕	到達目標	論文（ケーススタディ）をまとめる。		
	授業予定	ケーススタディに取り組む		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：研究計画書と研究論文（ケーススタディ）の内容 70%、文献検索 10%、授業に取り組む姿勢（個人ワーク、グループワーク）10%、発表中の態度 10%、合計 60%未満は再試験を行う。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座		
	参考図書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（大日本印刷株式会社）		
	その他	配布資料		
授業以外の学習方法				
履修上の留意点				

領域横断

科目区分	専門分野	科目名	家族看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	15 時間
担当教員	服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	家族全体を看護の対象と考え、家族の力を最大限に引き出し、家族全体の健康を目指し、未来の危機に備える力をつける支援について理解する。				
目 標	1.家族看護の特徴や理念、対象について理解する。 2.家族看護について理解する。 3.家族看護を支える理論と介入方法を理解する。 4.家族看護の展開を理解する。			DP への対応	
				DP1 DP2 DP3 DP4、5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	家族看護の特徴について理解する。		テキスト① 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス 家族看護について説明する。 家族看護の特徴と理念 家族看護の発展と変遷 家族看護の目指すところ 家族員が疾患や障害を持つ家族 ライフサイクルと家族 コミュニティと家族			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	家族看護の目的や対象について理解する。		テキスト① P24 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	家族看護の対象について説明する。 家族とは 家族構造 家族機能 現代家族とその課題			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	家族看護を支える理論と介入方法について理解する。		テキスト① P86 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	家族看護を支える理論と介入方法を説明する 家族を理解するための理論 家族の変化を理解するための理論 家族に変化をもたらすもの			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	家族看護の展開方法を理解する		テキスト① P118 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	家族看護展開の方法を説明する 家族看護過程とは 家族看護の実践			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	様々なアセスメントモデルについて理解する		テキスト① P172 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	家族アセスメントモデルを説明する さまざまな家族アセスメントモデル			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	事例に対する看護過程の展開、看護計画立案看護介入について理解する		配布資料 パワーポイント	
	授業予定	事例に基づく家族看護の展開 看護計画 看護の介入と評価について説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	事例に対する看護過程の展開、看護計画立案看護介入について理解する		配布資料 パワーポイント	
	授業予定	事例に基づく家族看護の展開 看護計画 看護の介入と評価について説明する			
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)			
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。			
使用教材	テ キ ス ト	①系統看護学講座 別巻 家族看護学 (医学書院)			
	参 考 図 書				
	そ の 他	配布資料、パワーポイント			
授業以外の学習方法		事例展開をして、グループワークや発表会を行なう			
履 修 上 の 留 意 点		事前課題や、予習・復習を行なう			

科目区分	専門分野	科目名	保健指導論	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	地域の健康課題や保健指導に必要な基礎理論を理解し、人々の健康増進を目指すアプローチの基本的な考え方を学び、看護師の役割を考える。				
目 標	1. 統計データを読み取り、地域の実情を学ぶ 2. 統計データを読み取り、発達段階別、健康段階別の健康課題について理解する 3. 健康課題に対する現行の法律や施策を理解する 4. 保健指導に必要な基礎理論と、保健指導の方法について学ぶ 5. 保健指導の意義を理解する 6. 健康問題に関わる看護師の役割を理解する			DP への対応	
				DP 3・5・6	
				DP2.3.5.6	
				DP3,6	
				DP1,2,3,5,6	
				DP2.3.4.5.6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	社会の変化と保健にかかわる意義について理解する		テキスト① P8～ P19～、 P67～ P95～ P267～	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 社会の変化(出生率・死亡率・有訴者率・有病率・健診受信率・医療費の推移など)を説明する 3. 健康と病気のとらえ方、ヘルスプロモーションの概念を説明する 4. 看護の役割を説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	ライフステージ各期の健康課題と、健康を守る法律・施策について理解する		テキスト① P105～	
	授業内容	1. ライフステージ各期の健康課題を説明する 2. 健康を守る法律・施策、ヘルスプロモーションの概念を説明する		テキスト② P2～	
第 3 回 〔講義〕	到達目標	教育・指導とは何かを理解する		テキスト⑦ P217	
	授業予定	1. 教育・指導とは何かを説明する 2. 健康教育のアプローチ方法を説明する 3. 個人と集団に対するアプローチ方法を説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	保健指導の基礎理論と方法について理解する		テキスト① P161～	臨床心理Ⅰ 第6回
	授業予定	1. セルフケア理論を説明する 2. 自己効力理論を説明する 3. コーチングを説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	女性のライフステージ各期の健康課題について理解する		テキスト③ P130～	
	授業予定	1. 女性の生涯における健康問題を説明する 2. 思春期のヘルスプロモーションを説明する 3. 成熟期のヘルスプロモーションを説明する 4. 更年期のヘルスプロモーションを説明する 5. 老年期女性のヘルスプロモーションを説明する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	乳幼児の発達課題と健康課題、母子保健施策について理解する		テキスト⑤ P30～	公衆衛生 第10回
	授業予定	1. 成長発達における環境の重要性を説明する 2. 家族機能を説明する 3. 母子保健施策を説明する		P68～ P175～	
第 7 回 〔講義〕	到達目標	学童期の健康課題と管理(学校保健)について理解する		テキスト⑤ P100～	小児看護方法論Ⅰ 第13回 公衆衛生 第13回
	授業予定	1. 子どものセルフケアを説明する 2. 子供の生活習慣と肥満を説明する 3. 健康生活におけるヘルスプロモーション(予防接種、 歯・口腔の健康、栄養・運動・休息、事故予防)を説明す		テキスト⑧ P167～	

		る		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	成人期の発達課題と健康課題について理解する	テキスト① P52～ テキスト⑦ P185～	成人看護学概論 第3回 公衆衛生 第11回
	授業予定	1. 成人前期の健康課題を説明する 2. 成人中期の健康課題を説明する 3. 向老期の健康課題を説明する 4. 健康課題とヘルスプロモーション(生活習慣病、悪性新生物、ストレス)を説明する		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	働く人の健康課題と管理(産業保健)について理解する	テキスト① P52～ テキスト⑦ P243～	公衆衛生 第14回
	授業予定	1. 職業に関連する健康問題(職業性疾病、過労死、VDT 障害)を説明する 2. ワークライフバランスを説明する		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の発達課題と健康課題について理解する	テキスト⑥ P57～ P77～ P144～ P202～	老年看護方法論 I 第12・13回 公衆衛生 第11回 社会福祉 第13回
	授業予定	1. 健康課題とヘルスプロモーション(介護予防、生活習慣病、服薬管理、エンドオブライフケア)を説明する 2. 高齢者の健康と生活を守る施策を説明する 3. 介護者支援のあり方を説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	感染予防と施策について理解する	テキスト⑦ P51～	公衆衛生 第8回
	授業予定	1. 感染症予防の基本を説明する 2. 感染症法を説明する 3. 院内感染とその予防方法を説明する 4. 結核、HIV、AIDS、新型インフルエンザの対策を説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	障害者・難病保険と施策について理解する	テキスト⑦ P205～	小児看護方法論 I 第14回講義 公衆衛生 第12回 社会福祉 第14回
	授業予定	1. 障害者(児)に関わる法と施策を説明する 2. 障害者基本計画と障害者プランを説明する 3. 難病対策のあり方を説明する 4. アドボガシーの意味と看護者の役割を説明する		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	別府市が抱える健康課題について理解する	配布資料	地域・在宅看護の方法 I 第11・12・13回 保健医療論 第6・7回
	授業予定	1. 別府市の地域福祉政策と健康課題を説明する 2. 別府市の保健福祉計画(市民の意識・行動変容に向けた取り組み)を説明する		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	生活習慣病重症化予防保健指導の実際を理解する	配布資料	疾病論 I 第13回
	授業予定	1. CKD 予防に関する保健指導の実際を説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講時筆記試験 60%、レポート 40%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学概論(医学書院) ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論(医学書院) ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論(医学書院) ④系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) ⑤系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) ⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学概論(医学書院) ⑦系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生(医学書院)		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他			
授業以外の学習方法		グループワークや発表会に向け、資料準備を行う		
履修上の留意点		指定されたテキストや既習学習内容を確認して臨む		

科目区分	専門分野	科目名	周術期と看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	川野 明子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	周術期にある対象を理解し、対象の状況のアセスメント・合併症予防・回復過程における援助・家族の反応に対する援助を実践できるための、基礎的知識を理解する				
目 標	1. 周術期における、本人・家族のニーズを理解する 2. 周術期においては、迅速な観察と適切な判断・対応が重要であることを理解する 3. 迅速な観察と適切な判断・対応のための、基礎的な知識・技術を理解する				DP への対応
					DP 1・2 DP 3・4・5 DP 3・4・6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	周術期の看護の概要と看護師の役割について理解する		テキスト① P14～ P47～ テキスト② P278～	成人看護方法論Ⅰ 第3・8回 成人看護方法論Ⅱ 第3回
	授業予定	1. ガイダンス 2. 急性期看護の特徴を説明する 3. 周術期看護の理念と専門性を説明する 4. 周術期にある患者と家族のニードを説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	麻酔の種類と、術前・術中・術後の管理について理解する		テキスト④ P61～	治療論 第2・3回
	授業内容	1. 麻酔方法による影響とその援助を説明する 2. 手術体位とその影響を説明する 3. 全身麻酔と局所麻酔の合併症を説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	手術侵襲と生体反応について理解する		テキスト① P32～ テキスト⑧ P54～	治療論 第1回
	授業予定	1. 手術方法による影響とその援助を説明する 2. 術後合併症のリスクアセスメントを説明する 3. 術後合併症の予防を説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	術前の患者と家族への看護について理解する		テキスト① P56～ P83～ テキスト④ P52～ P58～	
	授業予定	1. 手術の意思決定への援助方法を説明する 2. 術前指導の方法を説明する 3. 不安のアセスメントとその援助方法を説明する 4. 家族の心理とニーズを説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	術中の患者の看護について理解する		テキスト① P101～ テキスト④ P1～	
	授業予定	1. 環境管理の方法を説明する 2. 麻酔導入の援助方法を説明する 3. 手術体位の固定方法を説明する 4. 手術中の看護師の役割を説明する 5. 麻酔覚醒時の援助方法を説明する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	術後の患者の看護について理解する		テキスト① P38～ P42～ P129～ P151～ テキスト④ P71～	
	授業予定	1. 術直後のモニタリング方法を説明する 2. 術後の疼痛管理方法を説明する 3. 術後の機能障害や生活制限への看護を説明する 4. ボディイメージ変容への援助方法を説明する 5. 早期回復促進への援助方法を説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	低侵襲手術を受ける患者の看護について理解する		テキスト① P347～	
	授業予定	1. 腹腔鏡下手術を受ける患者の看護を説明する 2. 内視鏡下手術を受ける患者の看護を説明する			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	重症集中治療を受ける患者の看護について理解する		テキスト② P290～	
	授業予定	1. クリティカルケア看護におけるチーム医療の特徴と看護の役割を説明する 2. 関連する主な医療チームと、多職種との連携を説明する			

		3. 課題侵襲を受けた患者の生体反応を説明する クリティカルケア看護に必要な看護技術		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	周術期にある高齢者の看護について理解する	テキスト⑨ P153～	
	授業予定	1. 周術期にある高齢者の特徴を説明する 2. 周術期にある高齢者のニーズを説明する 3. 手術療法時の高齢者に対する看護を説明する		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	周術期にある子供とその家族の看護について理解する	テキスト⑦ P257～	小児看護方法論 I 第 11 回講義
	授業予定	1. 小児の手術の特徴を説明する 2. 手術を受ける子供と家族の反応を説明する 3. 手術を要する健康障害と手術の時期を説明する 4. 術前準備、プレパレーションを説明する 5. 小児の安全・安楽への看護と家族への援助を説明する 6. 手術後の身体状態のアセスメントと看護を説明する 7. 退院に向けての看護を説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	帝王切開を受ける産婦の看護について理解する	テキスト⑧ P432～	
	授業予定	1. 術前オリエンテーションと心身の準備を説明する 2. 術後合併症予防の準備を説明する 3. 術中の看護を説明する 4. 術後の身体的回復への援助を説明する 4. 母子接触を説明する 5. 出産体験の振り返りを説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	周術期に必要な技術を習得できる	テキスト③ P262～ P387～ P423～	基礎看護技術 II (感 染予防と安全管理) 第 4・5 回講義・演 習 診療時援助技術(創 傷管理) 第 1 回講 義 診療時援助技術(呼 吸・循環を整える技 術) 第 1・2・6 回講義・演習
	授業予定	1. 術前訓練の方法を説明する 2. 外科的手洗いとガウンテクニック・グローブテクニックの方法を説明する 3. 術後ベッド作成の方法を説明する 4. ドレーン管理の方法を説明する 5. 術後合併症の予防技術(スクイーピング、体位ドレナージ)の方法を説明する		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開を理解する①	テキスト② P318～ テキスト④ P154～	
	授業予定	周術期看護の、看護過程の方法を説明する		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開を理解する①	テキスト② P318～ テキスト④ P154～	
	授業予定	周術期看護の、看護過程の方法を説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講時筆記試験 60%、レポート 40%、計 60% 未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学概論 ②系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 (医学書院) ③系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II (医学書院) ④周手術期看護 1. 外来/病棟における術前看護 (医歯薬出版株式会社) ⑤周手術期看護 2. 術中/術後の生体反応と急性期看護 (医歯薬出版株式会社) ⑥系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 (医学書院) ⑦系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) ⑧系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学各論 (医学書院)		

		⑨老年看護学 概論と看護の実践（ヌーヴェルヒロカワ）
	参 考 図 書	
	そ の 他	
授 業 以 外 の 学 習 方 法		グループワークや発表会に向け、事例展開を行う
履 修 上 の 留 意 点		指定されたテキストや既習学習内容を確認して臨む

科目区分	専門分野	科目名	薬物療法と看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	薬物療法を必要とする対象を理解し、必要な援助を実践できるための基礎的知識を修得する				
目 標	1. 薬物療法における看護師の役割を理解する 2. 発達段階に応じた薬物療法の実際を理解する 3. 主な疾患に対する薬物療法の実際と、その看護について理解する 4. 薬物療法を適切に行っていくためには、多職種連携が必要であることを理解する			DP への対応	
				DP3,4,6	
				DP1,2,3,5,6	
				DP3,4,5	
				DP1,4,5,6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	薬物療法における看護師の役割について理解する		テキスト② p.286～	臨床薬理学 第1・2 回 診療時援助技術(与薬) 第1・2・3 回
	授業予定	1. ガイダンス 2. 与薬方法と薬物動態を説明する 3. 薬効・副作用の観察方法を説明する 4. 薬害と看護を説明する 5. 与薬における看護師の役割を説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の薬物療法の課題と看護について理解する		テキスト④ p.173～	
	授業内容	1. 加齢に伴う薬物動態の変化を説明する 2. 薬剤起因性の老年症候群を説明する 3. 服薬アドヒアランスの変化を説明する 4. 高齢者の薬物療法の看護を説明する 5. 服薬管理とリスクマネジメントの方法を説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	小児の薬物療法の課題と看護について理解する		テキスト③ p.415～	小児看護方法論Ⅰ 第13 回講義
	授業予定	1. 薬物療法を必要とする子供の特徴を説明する 2. 薬物療法が子供に与える影響を説明する 3. 年齢に見合ったセルフケア能力の育成方法を説明する 4. 心理・社会的健康の維持方法を説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	妊産婦の薬物療法の課題と看護について理解する		配布資料	
	授業予定	1. 妊婦の薬物動態の特徴を説明する 2. 薬物が胎児に与える影響を説明する 3. 妊婦への与薬で注意すべき薬物と禁忌薬物を説明する 4. 母乳を介した乳児への薬剤の影響を説明する 5. 授乳中に注意が必要な薬剤を説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	在宅における薬物療法の課題と看護について理解する		配布資料	
	授業予定	1. 服薬状況の把握方法を説明する 2. セルフマネジメント力を高める支援の方法を説明する 3. 医師及び薬剤師との連携方法を説明する 4. 外来通院中の在宅療養者に対するケア(麻薬投与・外来化学療法)を説明する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	ハイリスク患者と薬物療法(腎不全・肝不全)について理解する		配布資料	
	授業予定	1. がん薬物療法を受ける患者の看護を説明する 2. 麻薬を使用する患者の看護を説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	術後の輸液管理の実際について理解する		テキスト① p.248～	治療論 第4 回
	授業予定	1. 術中に失われる体液と維持輸液の基本を説明する 2. 術中の INTAKE と OUTPUT を説明する			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	成人白血病患者の外来化学療法の実際について理解する		テキスト① p.257～	治療論 第13・14 回 臨床薬理学 第4 回
	授業予定	1. 苦痛のスクリーニング方法を説明する 2. 医師との情報共有のあり方を説明する			

		3. 投与中の副作用の観察方法を説明する 4. 患者のセルフケア支援の方法を説明する		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	成人腎不全患者の服薬指導の実際について理解する	配布資料	成人看護方法論 I 第 13 回
	授業予定	1. 闘病意欲の維持方法を説明する 2. セルフケア行動の学習意欲促進方法を説明する 3. セルフケア能力拡大への援助方法を説明する		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	軽度認知症がある療養者の服薬指導の実際について理解する	配布資料	
	授業予定	1. 服薬アドヒアランス低下の要因を説明する 2. 服薬状況に対する観察と判断を説明する 3. 服薬管理の実際(コンコーダンス)を説明する 4. 多職種連携のあり方を説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	糖尿病の小児のインスリン療法の実際について理解する	配布資料	
	授業予定	1. インスリン療法を説明する 2. 血糖測定と低血糖の予防・対処法を説明する 3. シックデイ対策を説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	妊婦の服薬指導の実際について理解する	歯日狩猟	
	授業予定	1. 自己判断による中止・減薬のリスクを説明する 2. 薬剤変更の影響を説明する 3. 薬物による児への影響を説明する 4. セルフケアへの動機づけを説明する		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	授乳婦と新生児の薬物療法の実際について理解する	配布資料	
	授業予定	1. 授乳婦への薬物療法の基本的な考え方を説明する 2. 乳児への安全性と危険性を説明する 3. 母乳育児の利点と母乳中止による不利益を説明する 4. 服薬コンプライアンスの維持方法を説明する		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	統合失調症患者の薬物療法の実際について理解する	テキスト⑤ p.148 配布資料	精神看護方法論 I 第 1 回 臨床薬理学 第 8 回
	授業予定	1. 精神科薬物療法における看護師の役割を説明する 2. 向精神薬服用の意味を説明する 3. 服薬継続に向けた工夫を説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講時筆記試験 60%、レポート 40%、計 60%未滿は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 (医学書院) ②系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II (医学書院) ③系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) ④系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学概論 (医学書院) ⑤系統看護学講座 専門分野 II 精神看護の基礎・精神看護の展開 (医学書院)		
	参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学		
	その他			
授業以外の学習方法		グループワークや発表会に向け、資料準備を行う		
履修上の留意点		指定されたテキストや既習学習内容を確認して臨む		

科目区分	専門分野	科目名	終末期と看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	①貞清 瑞枝 ②佐藤 隼人	実務経験 関連資格	①病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員 ②九州大学病院別府病院 看護師・緩和ケア認定看護師		
目 的	終末期にある対象とその家族を理解し、必要な援助を実践できるための基礎的知識を理解する				
目 標	1. 終末期にある対象を理解する 2. 緩和ケアの実際を理解する 3. 死の受容について理解する 4. 看取りについて理解する 5. 死亡時の看護で大切なことについて理解する			DP への対応	
				DP 1・2 DP 3・4・5 DP 1・2・3・4 DP 4・5 DP 2・4・6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	終末期にある患者の看護について理解する		テキスト① p.150～ テキスト② p.116～ テキスト④ p.270～	成人看護方法論Ⅳ 第5・6・7回
	授業予定	1. ガイダンス 2. 全人的苦痛のアセスメントと苦痛軽減への援助方法を説明する 3. 死の受容過程を説明する 4. 症状マネジメントの方法を説明する 5. 家族ケアの方法を説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	終末期にある対象の理解 小児における終末期の特徴を理解する		テキスト⑥ p.270～	
	授業内容	1. 小児の死の概念を説明する 2. 死に対する小児の反応と援助方法を説明する 3. 終末期にある小児の心身の状態と緩和ケアの方法を説明する 4. 小児の死を看取る家族の反応と援助方法を説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	子供と家族の死のとりえ方について理解する		配布資料	
	授業予定	1. 小児における終末期の特徴を説明する(事例検討)			
第 4 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	終末期にある対象の理解 成人期における終末期の特徴を理解する		テキスト① p.150～	
	授業予定	1. 終末期の定義を説明する 2. 終末期にある対象の特徴と生活の変化を説明する 3. 終末期の身体機能低下によって生じるニーズを説明する 4. 症状緩和の援助方法を説明する			
第 5 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	成人期における死のとりえ方について理解する		配布資料	
	授業予定	1. 成人期における終末期の特徴を説明する(事例検討)			
第 6 回 〔講義〕 (佐藤)	到達目標	終末期にある対象の理解 老年期における終末期の特徴を理解する		テキスト⑦ p.163～	
	授業予定	1. 終末期のとりえ方を説明する 2. ACP、リビングウィル、人生会議を説明する 3. 家族の参加と家族支援を説明する 4. 終末期看護の実践方法を説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の死のとりえ方について理解する		配布資料	
	授業予定	1. 老年期における終末期の特徴を説明する(事例検討)			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	がん性疼痛の緩和ケアについて理解する		テキスト④ p.128～	
	授業予定	1. がん対策と緩和ケアの方法を説明する 2. 緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援の方法を説明する 3. 日常生活を整える支援の方法を説明する			

		4. 疼痛マネジメント方法を説明する		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	死亡時の看護について理解する	テキスト① p.150～ テキスト③ p.480～	
	授業予定	1. 死の兆候とケアを説明する 2. 死亡後のケアを説明する 3. 家族の心理を説明する 4. 臨死期の対応を説明する 5. 遺族への関わり(グリーフケア)を説明する		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	成人の看取りと臨終時のケアについて理解する	テキスト① p.150～ テキスト③ p.480～	
	授業予定	1. 身体徴候のアセスメントと看護を説明する 2. 苦痛の緩和と安楽への看護を説明する 3. 精神的苦痛や混乱に対する看護を説明する 4. 臨死期の評価と看護を説明する 5. 家族への援助方法を説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	在宅における看取りの援助について理解する	テキスト⑤ p.235～	地域・在宅看護の方法Ⅱ 第8回 地域・在宅看護の方法Ⅲ 第5回
	授業予定	1. 症状マネジメントの方法を説明する 2. 終末期緩和ケアの実際を説明する 3. 看取りの看護、家族へのグリーフケアを説明する 4. 自宅で死を迎えることの意味を説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開方法を理解する①	配布資料	
	授業予定	1. 終末期看護の看護過程展開方法を説明する(事例展開)		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開方法を理解する②	配布資料	
	授業予定	1. 終末期看護の看護過程展開方法を説明する(事例展開) 2. 苦痛緩和の技術を説明する		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開方法を理解する③	配布資料	
	授業予定	1. 終末期看護の看護過程展開方法を説明する(事例展開) 2. 倫理的配慮を説明する 3. ACP の在り方について説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講時筆記試験 60%、レポート 40%、計 60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学概論(医学書院) ②系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論(医学書院) ③系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) ④系統看護学講座 別巻 緩和ケア(医学書院) ⑤系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院) ⑥系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) ⑦系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学概論(医学書院)		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		グループワークや発表会に向け、事例展開を行う		
履修上の留意点		指定されたテキストや既習学習内容を確認して臨む		

科目区分	専門分野	科目名	専門職連携	単 位	1 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	江藤 たつみ	実務経験 関連資格	病院における看護師経験・企業における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	地域包括ケア・地域共生社会の実現のために、多様な場で暮らす様々なライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉における多職種連携・協働の観点から、保健医療専門職業人として知識および考え方・態度を習得することを目的とする。				
目 標	1. 多職種連携授業を通して、各専門職種の考え方や視点の違いを理解する。 2. 多職種連携授業の協働作業を通して、連携の必要性を理解する。 3. 各専門職の枠を超え、保健医療専門職業人として共通かつ必要な基本的知識・技術・態度を理解する。 4. 提示された事例について、多職種連携の視点で医療・福祉・地域の側面から分析し考察できる。			DP への対応	
				DP 5	
				DP 5	
				DP 5	
				DP 5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	地域包括ケアにおける多職種連携・協働の必要性、役割、機能について、看護の視点から理解する。			
	授業予定	1. ガイダンス 2. 多職種と協働の意義について説明する。 3. 多職種の連携の必要性、多職種の各専門的役割について説明する。 4. 地域包括ケアについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	保健師の活動の実際と看護の役割について理解する。			
	授業内容	1. 保健師の活動の実際について説明する。(1)			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	保健師の活動の実際と看護の役割について理解する。			
	授業予定	1. 保健師の活動の実際について説明する。(2)			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	消防署・警察署の活動の実際と看護の役割について理解する。			
	授業予定	1. 消防署・警察署の活動の実際と看護の役割について説明する。(1)			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	消防署・警察署の活動の実際と看護の役割について理解する。			
	授業予定	1. 消防署・警察署の活動の実際と看護の役割について説明する。(2)			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	地域連携室の活動および協働の実際を理解する。			
	授業予定	1. 地域連携室の活動および協働の実際を説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	理学療法士・作業療法士の活動および協働の実際を理解する。			
	授業予定	1. 理学療法士・作業療法士の活動および協働の実際を説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	周産期（助産師）の活動および協働の実際を理解する。			
	授業予定	1. 周産期（助産師）の活動および協働の実際を説明する。			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	精神保健福祉士の活動および協働の実際を理解する。			精神看護学方法Ⅰ 第 14 回講義
	授業予定	1. 精神保健福祉士の活動および協働の実際を説明する。			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	行政の活動および協働の実際を理解する。			
	授業予定	1. 行政の活動および協働の実際を説明する。			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	民生委員の活動および協働の実際を理解する。			
	授業予定	1. 民生委員の活動および協働の実際を説明する。			
第 12 回	到達目標	学校保健の活動および協働の実際を理解する。			

〔講義〕	授業予定	1. 学校保健の活動および協働の実際を説明する。		
第 13 回	到達目標	事例において多職種の活動および協働の実際を考える		
〔講義〕	授業予定	1. 事例における多職種連携について考える：GW		
第 14 回	到達目標	事例において多職種の活動および協働の実際を考える		
〔講義〕	授業予定	1. 事例における多職種連携について考える：GW、発表		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト			
	参考図書	①系統看護学講座 小児看護学概論 ②精神保健福祉		
	その他			
授業以外の学習方法		・警察署、消防署の見学 ・講義 3 回～12 回は、各専門職の立場からの実際を聴く。		
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	継続看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	15 時間
担当教員	服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	看護の対象は、入院患者だけではなく健康な時から一生を通じて生活者としてみていくことが大切である。2025 年には、わが国の高齢者人口がピークを迎えるため病院と地域をつなぐ継続看護が重要となる。ここでは、専門職業人として多職種と連携しながら退院支援の方向性や具体策について理解する。				
目 標	1. 多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する。 2. 健康課題をもつ子どもと家族への看護について理解する。 3. 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置付けと看護の役割について理解する。			DP への対応	
				DP 2 DP 3 DP 4 DP 5 DP 6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	継続看護の重要性について理解する		テキスト① P144	
	授業予定	ガイダンス 継続看護と退院支援の定義について説明する 退院支援における多職種連携について説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	老年看護における生活の場の移動と看護の継続について理解する		テキスト② P343	
	授業内容	入院時・入所時・サービス開始時の援助と退院支援 退所支援について説明する		テキスト③ P57	
第 3 回 〔講義〕	到達目標	老年看護における生活の場の移動と看護の継続について理解する		テキスト② P367	
	授業予定	看護職間の情報提供・目標の共有と評価について説明する 看護と介護の協働と連携について説明する		テキスト③ P104	
第 4 回 〔講義〕	到達目標	医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護を理解する		テキスト 配布資料	
	授業予定	入院生活から在宅への移行に向けた支援について説明する 多職種の連携と社会資源の活用について説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護を理解する		特別講演	
	授業予定	在宅療養中の子どもと家族の支援について説明する 子どものセルフケア行動の促進について説明する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	医療機関との入退院時の連携について理解する		テキスト①	
	授業予定	地域連携クリニカルパス・外来との連携・病棟との連携・退院支援部門との連携・診療所との連携について説明する		P311 テキスト⑥ P6	
第 7 回 〔講義〕	到達目標	施設との入退所時の連携について理解する		テキスト②	
	授業予定	介護保険施設等の公的施設との連携・サービス付き高齢者向け住宅等の民間施設との連携について説明する		P365	
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)			
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 8 0 % グループワークの参加状況 1 0 % 出席状況 1 0 % 計 6 0 % 未満は再試験とする			
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 成人看護学概論 ②系統看護学講座 老年看護学 ③系統看護学講座 在宅看護論 ④ 系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 (医学書院)			
	参考図書	⑥よくわかる退院支援 G a k k e n 配布資料、パワーポイント			
	その他				
授業以外の学習方法		事例展開をして、グループワークや発表会を行う			

履 修 上 の 留 意 点	教科書の予習・復習をして実習に臨むこと
---------------	---------------------

地域・在宅看護論

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護概論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	①木畑 孝子 ②古賀 和枝	実務経験 関連資格	①病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員 ②病院における看護師・訪問看護ステーションにおける看護師 (元) 大分県看護協会 会長		
目的	看護の対象となる様々な人々や看護活動の場を想起し、人々が住み慣れた地域で満足した生活を送るための地域・在宅看護の役割について理解する。				
目 標	1. 地域・在宅看護の対象と看護活動の場を理解する。 2. わが国の保健・医療・福祉の動向を知り、地域・在宅看護に期待されることを理解する。 3. 地域・在宅看護における看護師の役割を理解する。			DP への対応	
				DP2・3 DP2・3・4 3：DP1・2・4・5	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (木畑)	到達目標	地域における人々の暮らしをイメージする。		テキスト DVD	1 年次 地域・在宅看護論実習Ⅰにおけるまとめ資料を持参すること。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 日本各地に暮らす人々の生活について、思い描いたことを説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (木畑)	到達目標	保健・医療・福祉の動向と在宅看護の歴史について理解する。		テキスト 国民衛生の動向 PWP	基礎看護学で学んだ、人々の健康の概念について、学習内容を想起しておくこと。
	授業内容	1. 日本の人口構造と疾病構造の変化について説明する。 2. 日本における在宅看護の歴史と現状について説明する。			
第 3 回 〔講義〕 (木畑)	到達目標	地域・在宅看護の展望について理解する。		テキスト 国民衛生の動向 PWP	
	授業予定	1. 地域看護と在宅看護の定義を理解し、看護職の役割について説明する。 2. 地域包括ケアシステムが推進される理由やしくみについて説明する。			
第 4 回 〔講義〕 (古賀)	到達目標	地域で療養する対象者の特徴について理解する。		テキスト P26～ 国民衛生の動向 PWP	
	授業予定	1. 地域・在宅看護の対象とはどのような人々なのか、個人の観点から説明する。 ・対象者の特徴 ・対象者の生活			
第 5 回 〔講義〕 (古賀)	到達目標	地域で療養する対象者の家族や介護者の状況について理解する。		テキスト P39～ 国民衛生の動向 PWP	家族看護論
	授業予定	1. 地域・在宅看護の対象とはどのような人々なのか、家族・介護者の観点から説明する。 ・在宅で療養する対象者の家族や介護者の現状 ・家族システム・家族のアセスメント・家族への支援			
第 6 回 〔講義〕 (古賀)	到達目標	地域における在宅看護の提供の場とそれぞれの特徴を理解する。		テキスト P52～ 国民衛生の動向 PWP	継続看護 専門職連携
	授業予定	1. 地域・在宅における療養の場・看護の場について説明する。 ・在宅看護の提供方法 ・療養の場の移行 ・ 入院時・退院時の多職種連携			
第 7 回 〔講義〕 (木畑)	到達目標	1. 地域で療養する人々の権利保障について理解する。 2. 地域で療養する人々のリスクマネジメントについて理解する。		テキスト DVD	
	授業予定	1. 療養者の権利保障の概要を説明する。 2. 療養者のリスクマネジメントについて説明する。			
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)			

成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験100%、60%未満は再試験とする。
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）
	参考図書	国民衛生の動向
	その他	配布資料 パワーポイント
授業以外の学習方法		日常生活の中で、日ごろから学校周辺の地域の人々や、住んでいる地域の人々とたくさんのコミュニケーションをとみましょう。これらの活動を積極的に行うことや、地域・在宅看護概論の履修をとおして、2年次に学習する地域・在宅看護の方法Ⅰの履修に向けての課題を具体的にイメージすることができます。
履修上の留意点		本科目は、地域・在宅看護論の導入となる科目です。2年次における地域・在宅看護の方法Ⅰ、3年次における地域・在宅看護の方法Ⅱ・Ⅲ、そして看護学校最後の実習となる地域・在宅看護論実習Ⅱ（訪問看護）につながるものとなります。さらに、3年次後期に開講される地域・在宅看護の方法Ⅳでは、これらの知識を活用して事例を展開します。

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ	単位	1単位
対象学年	2学年	学期	前期	時間	30時間
担当教員	山本 幸子	実務経験 関連資格	地域包括支援センター 管理者 訪問看護認定看護師		
目的	療養者とその家族が住み慣れた地域で望む暮らしを実現するための、地域・在宅看護の展開に必要な知識を身につける。				
目標	1. 地域で暮らす人々と、人々の生活を支える周囲の人や関係機関を幅広く理解する。 2. 療養者とその家族が望む暮らしを実現するための法律・制度、社会資源について理解する。 3. 訪問看護サービスの概要を理解する。 4. 地域で暮らす人々を支えるための多職種連携について理解する。			DP への対応	
				DP1 DP2・3 DP4・5 DP4・5	
授業回数 〔方法〕	内容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	地域に暮らす様々な人々と、その暮らしを守る人々や関係機関についてイメージする。		テキスト 模造紙 マジック	地域・在宅看護論実習Ⅰの学びを想起する。
	授業予定	1. 地域・在宅看護の対象を幅広くとらえ説明する。 （演習）地域に暮らす人々と人々を支えている人・関係機関のつながりをマップに整理する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	地域に暮らす様々な人々と健康上の課題について理解する。		テキスト 発表用の模造紙 PWP	第12・13・14回は、グループワークを予定しています。課外時間を活用し、各グループで行動計画をたて、準備を進めておきましょう。
	授業内容	1. 地域・在宅看護論の対象とはどのような人々か説明する。 ・地域に暮らす様々な人々と健康状態 ・地域・在宅看護の対象としての家族 ・地域に暮らす人々を支えるもの			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	看護が提供される多様な場と役割について理解する。		テキスト まとめ用紙	協同学習を予定しています。事前に調べ学習をしておきましょう。
	授業予定	1.看護が提供される多様な場と役割について説明する。 （演習：協同学習）看護が提供される様々な場所とその機能・看護師の役割について調べまとめる。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	地域包括ケアシステムの概念と看護師の役割を理解する。		テキスト 配布資料 PWP	地域・在宅看護概論 継続看護 専門職連携
	授業予定	1. 地域包括ケアシステムについて説明する。 2. 人々の暮らしを支えるための自助・互助・共助・公助の意味を説明する。 3・家族を支える看護について説明する。 4. 多職種連携、協働の意義と方法について説明する。 5. 地域の社会資源との連携について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	療養者が住み慣れた地域で満足した生活を送るために活用できる資源について理解する。		テキスト 配布資料 PWP	既習の学習を整理しておきましょう。
	授業予定	1. 療養者が活用できる資源について説明する。 「自助」「互助」「共助」「公助」の観点から“別府市に暮らす事例の療養者とその家族、が、住み慣れた地域で暮らし続けるためのより良い方法について、学習した内容を活用して考える。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	地域・在宅看護に必要な法律・制度の概要を理解する。		テキスト P76 PWP	
	授業予定	1. 地域・在宅看護に関係する法・制度の概要を説明する。 ・介護保険制度・医療保険制度 ・障害者総合支援法・難病法・医療介護総合確保推進法			

		・医療法・その他おもな公費負担制度		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	介護保険の概要を理解する。	テキスト P94 PWP	
	授業予定	1. 介護保険制度の概要を説明する。 ・保険者・被保険者・受給権者・利用の手引き ・介護保険で給付対象となるサービス		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	地域・在宅における多職種との連携の必要性を理解する。	テキスト P104 PWP	継続看護 専門職連携
	授業予定	1. 地域における多職種連携について説明する。 ・在宅における連携の特徴 ・医師との連携・地域の社会資源との連携・ネットワークづくり 2. 地域包括支援センターの役割について説明する。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	訪問看護制度の概要を理解する。	テキスト P90 PWP	関係法規 社会福祉
	授業予定	1. 訪問看護の制度の概要を説明する。 ・訪問看護ステーションに関する規定 ・訪問看護の利用までの手順・訪問看護の費用 ・高額介護サービス費・公費負担医療制度 ほか		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	訪問看護サービスの概要を理解する。	テキスト P98 PWP	
	授業予定	1. 訪問看護サービス提供の概要を説明する。 ・訪問看護の提供とチームケア ・訪問看護ステーションと管理・運営 ・訪問看護サービスの質保証・訪問看護の記録		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	ケアマネジメントの過程を理解する。	テキスト P100 PWP	
	授業予定	1. ケアマネジメントと社会資源の活用について説明する。 ・ケアマネジメントの概念 ・ケアマネジメントの要素・機能・過程・社会資源の活用 ・介護保険制度におけるケアマネジメント		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	1. 別府市に暮らす様々な人々を理解する。 2. 別府市民の暮らしと健康を支える人々や、関係機関について理解する。	テキスト 模造紙 マジック	フィールドワーク で学校周辺地域を 探索します。事前 に、グループ毎 行 動計画書 を提出し てください。 ※科目外の自己学 習時間を活用する 予定です。 ※1 年次 地域・在 宅看護論実習 I の まとめ資料を持参 してください。
	授業予定	1. 別府市に暮らす様々な人々と、健康を支える人々や関係機関を調べ、地域包括ケアの観点から説明する。 (演習) フィールドワークと調べ学習 ①別府市に暮らす人々 ②別府市民の健康を支える人々や関係機関 ③別府市民の生活環境と健康への影響		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	1. 別府市に暮らす様々な人々を理解する。 2. 別府市民の暮らしと健康を支える人々や、関係機関について理解する。	テキスト 模造紙・マジック	フィールドワーク で学校周辺地域を 探索します。事前 に、グループ毎 行 動計画書 を提出し てください。第 13 回は、各グループ の発表になります。 次回までに発表 ができる準備を 整えておきましょ
	授業予定	1. 別府市に暮らす様々な人々と、健康を支える人々や関係機関を調べ、地域包括ケアの観点から説明する。 (演習) フィールドワークと調べ学習		

				う。
第 14 回 〔講義〕	到達目標	1. 別府市に暮らす様々な人々を理解する。 2. 別府市民の暮らしと健康を支える人々や、関係機関について理解する。	テキスト 模造紙・マジック	
	授業予定	1. 別府市に暮らす様々な人々と、健康を支える人々や関係機関を調べ、地域包括ケアの観点から説明する。 (演習) 学びのまとめ発表		
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		グループワーク、フィールドワークを予定しています。時間外を活用して、各グループの連絡・スケジュール調整・学習準備を整えましょう。		
履修上の留意点		1 年次の地域・在宅看護論実習 I、地域・在宅看護論概論の学習内容を復習して講義に臨みましょう。		

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	①木畑 孝子 ②岩尾 尚子	実務経験 関連資格	①病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員 ②別府市医師会訪問看護ステーション 看護師・看護師長		
目 的	基礎看護学や専門領域別実習で学んだ知識と、習得した原理原則に基づいた技術を基盤に、地域在宅で生活する療養者とその家族に提供するための工夫を凝らした看護技術を学ぶ。				
目 標	1. 在宅で生活する療養者と家族に提供する看護技術の特徴ついて理解する。 2. 在宅で生活する療養者と家族のための日常生活援助の応用と工夫について理解する。				DP への対応
					DP1 DP2・3
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	在宅で生活する療養者とその家族とのコミュニケーションの方法を理解する。		テキスト P174 PWP	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 在宅看護を支えるコミュニケーションの特徴を説明する。 3. 訪問看護の際の基本的姿勢（マナー）・心構えについて学ぶ。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	療養者の呼吸を楽にする援助について理解する。		テキスト P181 PWP	
	授業内容	1. 在宅における呼吸に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・呼吸管理・呼吸に関するアセスメント・呼吸への援助			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が望む食生活、満足できる食生活について理解する。		テキスト P188 PWP	
	授業予定	1. 在宅における食生活・嚥下に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・在宅における食生活の特徴 ・食生活・嚥下に関するアセスメントと援助			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が安心して受けられる排泄の援助について理解する。		テキスト P195 PWP	
	授業予定	1. 在宅における排泄に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・在宅での排泄の特徴とアセスメント ・尿失禁・便秘・便失禁の予防と工夫			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	在宅における家屋構造をイメージした移動・移乗の援助について理解する。		テキスト P200 PWP	
	授業予定	1. 在宅における移動・移乗に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・在宅における移動・移乗の特徴とアセスメント ・移動・移乗の援助			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	在宅における清潔援助の方法と物品について理解する。		テキスト P210 PWP	
	授業予定	1. 在宅における清潔に関する看護技術を習得する。 （講義・演習） ・在宅における清潔のアセスメントと援助の工夫			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	認知機能の低下がみられる療養者と家族の援助について理解する。		テキスト P216 PWP	
	授業予定	1. 認知機能の低下がみられる療養者の在宅における援助を説明する。 ・認知機能とアセスメント ・認知機能に障害がある療養者への在宅看護			
第 8 回	到達目標	在宅で迎える最期を支える看護について理解する。		テキスト	

〔講義〕	授業予定	1. 在宅で人生の最期を迎える療養者と家族の看護について説明する。 ・在宅における終末期看護の特徴と終末期看護の展開	P224 PWP	
第 9 回 〔講義〕 (岩尾)	到達目標	医療管理を必要とする療養者と家族の援助について理解する。〔1〕	テキスト P232 PWP	
	授業予定	1. 在宅において医療管理を要する療養者と家族の援助の特徴と方法を説明する。 ・褥瘡の予防とケア・尿道留置カテーテル ・ストーマ（人工肛門・人工膀胱）		
第 10 回 〔講義〕 (岩尾)	到達目標	医療管理を必要とする療養者と家族の援助について理解する。〔2〕	テキスト P254 PWP	
	授業予定	1. 在宅において医療管理を要する療養者と家族の援助の特徴と方法を説明する。 ・経管栄養法・在宅中心静脈栄養法（HPN）		
第 11 回 〔講義〕 (岩尾)	到達目標	医療管理を必要とする療養者と家族の援助について理解する。〔3〕	テキスト P271 PWP	
	授業予定	1. 在宅において医療管理を要する療養者と家族の援助の特徴と方法を説明する ・非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） ・在宅酸素療法（HOT） ・在宅人工呼吸療法（HMV）		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	療養者に気持ちのよい満足した援助を提供するための基本看護技術を応用した援助を理解する。〔1〕	テキスト 参考図書	
	授業予定	1. 事例を用いた看護技術の実践（演習）事例に対応した援助の工夫と準備・実施		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	療養者に気持ちのよい満足した援助を提供するための基本看護技術を応用した援助を理解する。〔2〕	テキスト 参考図書	第 14 回は 発表となります。各グループで当日までに準備を整えておきましょう。
	授業予定	1. 事例を用いた看護技術の実践（演習）事例に対応した援助の工夫と準備・実施		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	療養者に気持ちのよい満足した援助を提供するための基本看護技術を応用した援助を理解する。〔3〕	テキスト 参考図書	
	授業予定	1. 事例を用いた看護技術の実践（演習）事例に対応した援助の工夫と準備・実施（発表）		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）		
	参考図書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ＆Ⅱ（医学書院）		
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法		科目時間外を活用して、看護技術の練習をしましょう。		
履修上の留意点		1 年次に学習した基本看護技術の知識・技術は習得している前提で講義をすすめます。地域・在宅看護の看護技術は、基礎看護の応用になりますから、既習知識・技術の想起・復習をして講義に臨みましょう。講義の後半では、事例を用いた看護技術の演習をしていきます。科目時間外を活用して、十分な練習をしたうえで発表に臨みましょう。3 年次の実習は、在宅における援助提供の本番となります。		

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ	単 位	1 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	①松永 希世子 ②木畑 孝子	実務経験 関連資格	①中村病院訪問看護ステーション 看護師・訪問看護認定看護師 ②病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	在宅で生活する療養者と家族の望む暮らしを支えるための訪問看護の展開方法を理解する。				
目 標	1. 在宅看護の介入時期と継続した看護の実際を理解する。 2. 様々な事例の訪問看護の実際について理解する。 3. 在宅看護における看護過程の展開方法を理解する。				DP への対応
					DP1・2・3 DP1・2・3 DP1
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	療養者と家族のアセスメントの要点を理解する。		テキスト P117 参考図書 実習記録用紙 PWP	第 1 回目では、実習で活用する記録用紙と課題事例を配布します。第 11・12 回授業に向けて、各自課題に取り組みましょう。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 地域で生活する療養者と家族のアセスメントの枠組みを説明する。			
第 2 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	療養者と家族のアセスメントの要点を理解する。		テキスト P112 参考図書 PWP	
	授業内容	1. 地域で生活する療養者と家族のアセスメントについて説明する〔1〕 ・フィジカルアセスメント ・身体・心理的側面のアセスメント ・家族のアセスメント・生活のアセスメント ほか			
第 3 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	療養者と家族のアセスメントについて理解する。		テキスト P121 参考図書 PWP	
	授業予定	1. 地域で生活する療養者と家族のアセスメントについて説明する〔2〕 ・フィジカルアセスメント ・身体・心理的側面のアセスメント ・家族のアセスメント・生活のアセスメント ほか			
第 4 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	療養者の生活と継続した看護について理解する。		テキスト P306 参考図書 PWP	
	授業予定	1. 訪問看護の介入の時期と看護の継続について説明する〔1〕 ・治療の場から在宅への移行期 ・在宅療養の安定期・リハビリテーション期・急性増悪期			
第 5 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	療養者の生活と継続した看護について理解する。		テキスト P306 参考図書 PWP	
	授業予定	1. 訪問看護の介入の時期と看護の継続について説明する〔2〕 ・終末期・グリーフケア ・継続看護の意義と方法			
第 6 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	事例をととして訪問看護の実際を理解する。		テキスト P356 参考図書 PWP	
	授業予定	ALS の療養者と家族の看護について説明する。			
第 7 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	事例をととして訪問看護の実際を理解する。		テキスト P344 参考図書 PWP	
	授業予定	小児期にある療養者と家族の看護について説明する。			
第 8 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	事例をととして訪問看護の実際を理解する。		テキスト P400 参考図書	
	授業予定	統合失調症の療養者と家族の看護について説明する。			

			PWP	
第 9 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	事例をととして訪問看護の実際を理解する。	テキスト	
	授業予定	認知症のある療養者と家族の看護について説明する。	P334 参考図書 PWP	
第 10 回 〔講義〕 (松永)	到達目標	事例をととして訪問看護の実際を理解する。	テキスト	
	授業予定	終末期にある療養者と家族の看護について説明する。	P391 参考図書 PWP	
第 11 回 〔講義〕 (木畑)	到達目標	在宅における看護過程の展開を理解する。	テキスト	
	授業予定	課題事例看護の展開方法を説明する。	P112 参考図書 DVD PWP	
第 12 回 〔講義〕 (木畑)	到達目標	在宅における看護過程の展開を理解する。	テキスト	
	授業予定	課題事例の展開	P112 参考図書 DVD PWP	
第 13 回 〔講義〕 (木畑)	到達目標	在宅における看護過程の展開を理解する。	テキスト	
	授業予定	在宅看護過程の展開方法を説明する。	参考図書 DVD PWP	
第 14 回 〔講義〕 (木畑)	到達目標	在宅における看護過程の展開を理解する。	テキスト	
	授業予定	在宅看護過程の展開方法を説明する。	参考図書 DVD PWP	
第 15 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)		
	参考図書	国民衛生の動向 関連図で理解する在宅看護過程 (メヂカルフレンド社)		
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法				
履修上の留意点		3 年次に行われる地域・在宅看護論実習Ⅱ (訪問看護) では、実際の療養者のご自宅に訪問します。そこで行う看護は、基礎看護学で学んだ知識・技術・態度の応用と、各領域看護学・実習の統合です。既習の学習を想起しながら学習に臨み、地域・在宅看護論実習Ⅱをイメージしながら履修しましょう。		

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ	単 位	1 単位
対象学年	3 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	岡部 裕美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	事例を用いて訪問看護導入から実施までの具体的な看護を展開し、地域・在宅看護論における看護の可能性を創造する。				
目 標	1. 療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。 2. 地域・在宅における看護の可能性について創造する。			DP への対応	
				DP1・2・3・4・5 DP5・6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	在宅看護の展開の要点を理解する。		テキスト 参考図書 実習記録用紙	地域・在宅看護概 論、地域・在宅看 護の方法Ⅰ・Ⅱ・ Ⅲの知識、在宅看 護論実習の学びを 活用します。想 起・復習しておき ましょう。
	授業予定	1. ガイダンス 2. 在宅看護の展開方法を説明する。 ・地域・在宅看護過程の特徴・情報収集とアセスメント ・目標の設定と計画・実施と評価			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。		テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業内容	1. 事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。 (演習：協同学習)			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。		テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業予定	1. 事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。 (演習：協同学習)			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。		テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業予定	1. 事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。 (演習：協同学習)			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。		テキスト 参考図書 実習記録用紙	
	授業予定	1. 事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。 (演習：協同学習)			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。		テキスト 参考図書 実習記録用紙	第7回は、協同学 習の成果を発表と なります。科目時 間外を活用して、 発表できるよう整 えておきましょ う。
	授業予定	1. 事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。 (演習：協同学習)			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	療養者とその家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための方法を理解する。		テキスト 参考図書	

	授業予定	1. 事例の看護過程を創造と工夫をもって展開し説明する。 (演習：協同学習) 発表	実習記録用紙	
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法： ・協同学習によるグループの看護過程 50% 筆記試験 50% (合計 100%) (60%未満は再試験とする)		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)		
	参考図書			
	その他	配布資料 パワーポイント		
授業以外の学習方法				
履修上の留意点		地域・在宅看護の方法Ⅳは、協同学習で展開した看護過程の評価 (50%) と、筆記試験 (50%) で評価となります。グループで協力して頑張りましょう。		

成人看護学

科目区分	専門分野	科目名	成人看護学概論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	小林 恭子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	成人期は幅広く、人口層が厚く、社会の中でも重要な役割を担っている人々であることから、この時期の人々の健康問題を扱う成人看護学は重要な位置を占めている。本科目では、成人看護学の基本的な理解と、成人期の健康と看護援助について、看護モデルや看護理論を用いて理解する。				
目 標				DP への対応	
	1. ライフサイクルにおいて成人期にある対象を成長、成熟、発達から、成人各期の特性を理解する。 2. 成人期における健康問題と健康の維持増進のための保健活動について理解する。 3. 成人期における看護の役割と実際について理解する。			DP2 DP3 DP4 DP6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	1. 社会において生活を営む生活者としての成人を理解する。 2. 成人各期に心身ともに成長・成熟する過程について理解する。		テキスト P4 配布資料 パワーポイント DVD	皆さんは成人期を 生きています。ど んなことを考えな がら生活していま すか。どんな将来 を過ごしたいです か。未来予想図を 考えてきてくださ い。
	授業予定	1. 成人各期の発達段階の特徴について説明する。 2. 成人期の対象の生活について考える。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	1. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康について理解する。 2. 健康をまもりはぐくむシステムについて理解する。		テキスト P42 国民衛生の動向 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでお くこと。 ・講義内容や練習 問題 を復習してお くこと。
	授業内容	1. 成人を取り巻く環境と生活の状況について説明する。 2. 成人の健康の状況について説明する。 3. 成人の健康に関する保健・医療・福祉システムの概要と連携について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	成人への看護アプローチの基本を理解する。		テキスト P64 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 行動変容を促進するアプローチについて説明する。 2. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	成人への看護アプローチの基本を理解する。		テキスト P107 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 集団における調和や変化を促す看護アプローチについて説明する。 2. チームアプローチについて説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	成人の健康レベルに対応した看護を理解する。		テキスト P170 配布資料 パワーポイント	ヘルスプロモーションについては2 年後期の「保健指導論」にて看護の 詳細は学ぶ。
	授業予定	1. ヘルスプロモーションと看護について説明する。 2. 成人期の健康をおびやかす要因と看護を説明する。 3. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護を説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	成人の健康レベルに対応した看護を理解する。		テキスト P214 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	1. 急性期にある患者の看護を説明する。 2. 慢性病との共存を支える看護を説明する。 3. 障害がある人の生活とリハビリテーションについて説明する。 4. 人生の最期のときを支える看護について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	成人看護における倫理上の問題と解決課程について理解する。		テキスト P127	倫理的判断が求め られる事例を活用

	授業予定	1. 医療現場における倫理的課題について説明する。 2. 倫理的判断の基盤と倫理的課題へのアプローチについて説明する。 3. 意思決定支援と家族支援について説明する。	配布資料 パワーポイント	したグループワークを行う。
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 『成人看護学総論』(医学書院)		
	参考図書	国民衛生の動向		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	成人看護方法論Ⅰ	単 位	1 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①小野 直美 ②上本 真一 ③秋吉 美希 ④日野 博之	実 務 経 験 関 連 資 格	①国立病院機構西別府病院 看護師・慢性呼吸器疾患看護認定看護師 ②国立病院機構別府医療センター 看護師・看護師長 ③国立病院機構別府医療センター 看護師 ④清瀬病院 看護師・透析看護認定看護師		
目 的	呼吸器疾患、循環器疾患、腎・泌尿器疾患の様々な機能障害が、日常生活に及ぼす影響を理解し、各機能障害を持つ患者の看護を実践できる基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。				
目 標	1. 主な症状とその看護について理解する。 2. 主な検査と治療を受ける患者の看護について理解する。 3. 機能障害をもちながら生活する人の看護について理解する。			DP への対応 D P 2 D P 3 D P 4 D P 6	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (小 野)	到達目標	呼吸器疾患看護における看護師の役割を理解する。		テキスト① P13 P226 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでおくこと。 講義内容を必ず復習しておくこと。
	授業予定	ガイダンス 呼吸器疾患を持つ患者の経過と看護について説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕 (小 野)	到達目標	主な呼吸器症状における看護について理解する。		テキスト① P235 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	様々な症状に対する看護を説明する。 (咳嗽・喀痰 血痰・咯血 胸痛 呼吸困難)			
第 3 回 〔 講 義 〕 (小 野)	到達目標	呼吸器疾患における様々な検査や治療時の看護を理解する。		テキスト① P246 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	検査・治療を受ける患者の看護を説明する。 検査：内視鏡検査 肺組織の生検 治療：吸入療法 酸素療法 人工呼吸器装着 気管切開 胸腔ドレナージ 手術療法			
第 4 回 〔 講 義 〕 (小 野)	到達目標	主な呼吸器疾患の看護について理解する。		テキスト① P305 P308 P317 P338 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	呼吸器疾患を持つ患者の看護を説明する。 肺炎 結核 気管支喘息 C O P D 肺血栓塞栓症			
第 5 回 〔 講 義 〕 (小 野)	到達目標	主な呼吸器疾患の看護について理解する。		テキスト① P341 P343 P345 P354 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	呼吸器疾患を持つ患者の看護を説明する。 急性呼吸窮迫症候群 睡眠時無呼吸症候群 肺がん 自然気胸			
第 6 回 〔 講 義 〕 (上 本)	到達目標	循環器疾患看護における看護師の役割を理解する。		テキスト② P10 P238 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス 循環器疾患を持つ患者の経過と看護について説明する。			
第 7 回 〔 講 義 〕 (上 本)	到達目標	主な循環器症状における看護について理解する。		テキスト② P245 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	様々な症状に対する看護を説明する。 (胸痛 動悸 浮腫 呼吸困難 チアノーゼ 失神 四肢の疼痛)			
第 8 回 〔 講 義 〕 (上 本)	到達目標	さまざまな検査や治療時の看護を理解する。		テキスト② P263 配布資料	
	授業予定	検査・治療を受ける患者の看護 検査：心臓カテーテル法 心電図検査 運動負荷試験			

		血行動態モニタリング 動脈血ガス分析 画像診断 治療：薬物療法 カテーテル治療 手術療法 補助循環装置の装着	パワーポイント	
第 9 回 〔講義〕 (上本)	到達目標	主な循環器疾患の看護について理解する。	テキスト② P312 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	循環器疾患を持つ患者の看護について説明する。 (虚血性心疾患 心不全 血圧異常 不整脈 弁膜症)		
第 10 回 〔講義〕 (上本)	到達目標	主な循環器疾患の看護について理解する。	テキスト② P345 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	循環器疾患を持つ患者の看護について説明する。 (心筋症 先天性心疾患 動脈系疾患 静脈性疾 心臓リハビリテーション)		
第 11 回 〔講義〕 (秋好)	到達目標	腎・泌尿器疾患看護における看護師の役割を理解する。	テキスト③ P10 P194 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス 腎・泌尿器疾患を持つ患者の経過と看護について説明する。		
第 12 回 〔講義〕 (秋好)	到達目標	主な症状における看護について理解する。 検査を受ける患者の看護について理解する。	テキスト③ P205 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	主な症状について説明する。 (浮腫 高血圧 下部尿路症状 尿の性状異常 検査：尿検査 残尿測定検査 膀胱鏡検査 画像検査生検 尿流動態検査)		
第 13 回 〔講義〕 (日野)	到達目標	内科的治療を受ける患者の看護について理解する。	テキスト③ P235 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	内科的治療を受ける患者の看護について説明する。 (薬物療法 透析療法)		
第 14 回 〔講義〕 (日野)	到達目標	内科的治療を受ける患者の看護について理解する。 泌尿器科的治療を受ける患者の看護について理解する。	テキスト③ P265 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	腎疾患を持つ患者の看護について説明する。 (I g A 腎症 糖尿病性腎症 ネフローゼ症候群 腎硬化症 アミロイド腎症 炎症性疾患 多発性嚢胞 性腎不全 慢性腎不全) 泌尿器科的治療：処置(導尿 カテーテル留置) 手術 療法・薬物療法・放射線療法 腎移植 性・生殖機能障 害のある患者の看護について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 成人看護学 呼吸器(医学書院) ②系統看護学講座 成人看護学 循環器(医学書院) ③系統看護学講座 成人看護学 腎・泌尿器(医学書院)		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	成人看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①山田 里美 ②渡邊 真由美 ③川久保 宏美 ④山田 精一	実 務 経 験 関 連 資 格	①国立病院機構別府医療センター 看護師 ②九州大学病院別府病院 看護師 ③九州大学病院別府病院 看護師 ④九州大学病院別府病院 看護師		
目 的	消化器疾患、内分泌・代謝疾患、アレルギー膠原病疾患の様々な機能障害が、日常生活に及ぼす影響を理解し、各機能障害を持つ患者の看護を実践できる基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。				
目 標	1. 主な症状とその看護について理解する。 2. 主な検査と治療を受ける患者の看護について理解する。 3. 機能障害をもちながら生活する人の看護について理解する。			DP への対応 DP2 DP3 DP4 DP6	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (山 田)	到達目標	主な消化器疾患の看護について理解する		テキスト① P11 P268 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでおくこと。 講義内容を必ず復習しておくこと。
	授業予定	ガイダンス 呼吸器疾患を持つ患者の経過と看護について説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕 (山 田)	到達目標	主な消化器症状における看護について理解する。		テキスト① P276 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	様々な症状に対する看護を説明する 嚥下困難 おくび・胸やけ 吐き気・嘔吐 腹痛 吐血・下血 下痢 便秘 腹部膨満 食欲不振と体重減少 黄疸 肝性脳症			
第 3 回 〔 講 義 〕 (山 田)	到達目標	消化器疾患における様々な検査や治療時の看護を理解する。		テキスト① P304 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	検査・治療を受ける患者の看護を説明する 検査：腹部超音波検査 CT・MRI 肝生検 内視鏡検査 造影検査 治療：薬物療法 化学療法 栄養療法・食事療法 手術療法 胃瘻・空腸瘻 放射線療法			
第 4 回 〔 講 義 〕 (山 田)	到達目標	主な消化器疾患の看護について理解する		テキスト① P335 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	消化器疾患を持つ患者の看護を説明する 食道疾患 胃・十二指腸疾患 腸・腹膜疾患			
第 5 回 〔 講 義 〕 (山 田)	到達目標	主な消化器疾患の看護について理解する		テキスト① P390 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	肝臓・胆嚢疾患 膵臓疾患			
第 6 回 〔 講 義 〕 (渡 邊)	到達目標	主な内分泌・代謝疾患の看護について理解する		テキスト② P7 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス 内分泌・代謝疾患を持つ患者の経過と看護について説明する			
第 7 回 〔 講 義 〕 (渡 邊)	到達目標	内分泌疾患患者に看護について理解する。		テキスト② P190 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	内分泌疾患に対する検査を受ける患者の看護について説明する。 下垂体疾患患者の看護 甲状腺疾患患者の看護			
第 8 回 〔 講 義 〕 (渡 邊)	到達目標	内分泌疾患の看護について理解する。		テキスト② P210 配布資料	
	授業予定	内分泌疾患の看護について説明する。 副甲状腺疾患患者の看護 副腎疾患患者の看護			

			パワーポイント	
第 9 回 〔講義〕 (渡邊)	到達目標	代謝疾患患者に看護について理解する。	テキスト② P243 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	代謝疾患の看護について説明する。 糖尿病患者の看護 脂質異常症患者の看護 尿酸代謝異常患者の看護		
第 10 回 〔講義〕 (川久保)	到達目標	アレルギー・感染症疾患の看護について理解する。	テキスト③ P10 P48 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス アレルギー・感染症の看護について説明する。 ＜アレルギー＞ 疾患の経過と看護 症状に対する看護（呼吸器症状 消化器症状など） 治療を受ける患者の看護 疾患を持つ患者の看護（気管支喘息 アレルギー性鼻炎 アトピー性皮膚炎など） ＜感染症＞感染予防症状に対する看護（発熱 発疹 下痢） 検査・治療における看護 疾患を持つ患者の看護（HIV/AIDS 敗血症 日和見感染など）		
第 11 回 〔講義〕 (川久保)	到達目標	膠原病疾患の看護について理解する。	テキスト③ P90 P152 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	膠原病疾患の経過と看護について説明する。 症状に対する看護 （発熱 関節症状 皮膚・粘膜症状など） 検査・治療を受ける患者の看護		
第 12 回 〔講義〕 (川久保)	到達目標	膠原病疾患の看護について理解する。	テキスト③ P124 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	膠原病疾患の看護について説明する 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス 全身性強皮症 多発性筋炎 シューグレン症候群 ベーチェット病		
第 13 回 〔講義〕 (山田)	到達目標	血液・造血管疾患の看護について理解する	テキスト④ P6 P146 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス 血液・造血管疾患の経過と看護について説明する 症状に対する看護（貧血 出血傾向 易感染）		
第 14 回 〔講義〕 (山田)	到達目標	血液・造血管疾患の様々な検査を受ける患者の看護について理解する。	テキスト④ P166 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	様々な検査を受ける患者の看護について説明する。 治療方針決定と治療のプロセスにおける検査 造血管腫瘍患者の看護 （意思決定支援 がん薬物療法 放射線療法 造血幹細胞移植 輸血 白血病・悪性リンパ腫など）		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 成人看護学 消化器（医学書院） ②系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝（医学書院） ③系統看護学講座 成人看護学 アレルギー・膠原病・感染症（医学書院） ④系統看護学講座 成人看護学血液造血管（医学書院）		
	参考図書			
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	成人看護方法論Ⅲ	単 位	1 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①清藤 沙紀 ②塩月 美乃利 ③佐藤 志保 ④麻生 貴子	実 務 経 験 関 連 資 格	①国立病院機構別府医療センター 看護師 ②国立病院機構別府医療センター 看護師 ③国立病院機構別府医療センター 看護師 ④国立病院機構別府医療センター 看護師		
目 的	脳神経疾患、運動器疾患、女性生殖器疾患、皮膚疾患の様々な機能障害が、日常生活に及ぼす影響を理解し、各機能障害を持つ患者の看護を実践できる基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。				
目 標	1. 主な症状とその看護について理解する。 2. 主な検査と治療を受ける患者の看護について理解する。 3. 機能障害をもちながら生活する人の看護について理解する。			DP への対応 D P 2 D P 3 D P 4 D P 6	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (講師①)	到達目標	脳・神経疾患における看護について理解する。		テキスト① P9 テキスト① P238 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題 を復習しておくこと。
	授業予定	ガイダンス 脳・神経疾患の経過と看護について説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕 (講師①)	到達目標	脳・神経疾患の主な症状における看護について理解する。		テキスト① P245 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	脳・神経疾患の症状に対する看護について説明する (意識障害 言語障害 認知症 運動麻痺など)			
第 3 回 〔 講 義 〕 (講師①)	到達目標	脳・神経疾患のさまざまな治療や処置を受ける患者の看護について理解する。		テキスト① P303 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	脳・神経疾患のさまざまな治療や処置を受ける患者の看護について説明する。 開頭手術 薬物療法 化学療法・放射線療法			
第 4 回 〔 講 義 〕 (講師①)	到達目標	主な脳・神経疾患の看護について理解する。		テキスト① P324 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	主な脳・神経疾患の看護について説明する。 くも膜下出血 脳梗塞 脳腫瘍 下垂体腺腫 頭部外傷			
第 5 回 〔 講 義 〕 (講師①)	到達目標	主な脳・神経疾患の看護について理解する。		テキスト① P354 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	主な脳・神経疾患の看護について説明する。 筋ジストロフィー 重症筋無力症 多発性硬化症 パーキンソン病 筋委縮性側索硬化症 髄膜炎			
第 6 回 〔 講 義 〕 (講師②)	到達目標	運動器疾患の看護について理解する。		テキスト② P11 テキスト② P188 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス 運動器疾患を持つ患者の経過と看護について説明する			
第 7 回 〔 講 義 〕 (講師②)	到達目標	主な運動器疾患の症状における看護について理解する。		テキスト② P214 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	援助のためのおもな知識と技術について説明する。 身体機能評価 ADL の評価 基本肢位・良肢位と廃用症候群の予防など 症状に対する看護について説明する。 疼痛 循環・神経障害 出血性ショック 感染管理			
第 8 回	到達目標	運動器疾患のさまざまな検査・治療を受ける患者の看護を		テキスト②	

〔講義〕 (講師②)		理解する。	P232	
	授業予定	検査・診断（画像検査）・治療（保存療法 手術療法）を受ける患者の看護について説明する。	配布資料 パワーポイント	
第 9 回 〔講義〕 (講師②)	到達目標	主な疾患の看護について説明することができる	テキスト②	
	授業予定	大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折 腰痛 脊髄損傷 骨腫瘍 関節リウマチ	P274 配布資料 パワーポイント	
第 10 回 〔講義〕 (講師③)	到達目標	女性生殖器の看護における看護師について理解する。主要症状に対する看護を説明できる	テキスト③ P13	
	授業予定	ガイダンス 女性生殖器疾患を持つ患者の経過と看護について説明する 症状に対する看護 (ショック状態 性器出血 帯下・痒痒感 疼痛など)	テキスト③ P208 配布資料 パワーポイント	
第 11 回 〔講義〕 (講師③)	到達目標	主な女性生殖器疾患の看護について理解する。	テキスト③	
	授業予定	女性生殖器疾患の看護について説明する。 外陰部疾患 膣疾患 子宮疾患 卵管疾患 卵巣疾患 骨盤腔内疾患 乳房疾患	P245 配布資料 パワーポイント	
第 12 回 〔講義〕 (講師③)	到達目標	主な女性生殖器疾患の看護について理解する。	テキスト③	
	授業予定	女性生殖器疾患の看護について説明する。 月経異常・月経随伴症状 不妊症 不育症 高齢女性におこりやすい女性生殖器疾患	P259 配布資料 パワーポイント	
第 13 回 〔講義〕 (講師④)	到達目標	皮膚疾患の看護について理解する。	テキスト④	
	授業予定	ガイダンス 皮膚科疾患を持つ患者の経過と看護について説明する。 症状に対する看護（痒痒 疼痛 鱗屑・落屑など） 検査・治療・処置を受ける患者の看護 手術を受ける患者の看護	P8 テキスト④ P162 配布資料 パワーポイント	
第 14 回 〔講義〕 (講師④)	到達目標	皮膚科疾患の看護について理解する。	テキスト④	
	授業予定	検査・治療・処置を受ける患者の看護について説明する。 疾患を持つ患者の看護（アトピー性皮膚炎 尋常性乾癬 難治性潰瘍など）	P190 配布資料 パワーポイント	
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 成人看護学 脳・神経（医学書院） ②系統看護学講座 成人看護学 運動器（医学書院） ③系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器（医学書院） ④系統看護学講座 成人看護学 皮膚（医学書院）		
	参考図書	メディックメディア 病気が見える 婦人科・乳腺外科		
	その他	配布資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	成人看護方法論Ⅳ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	①竹村 陽子 ②土居 由紀 ③川野 明子	実務経験 関連資格	①大分日赤病院 看護師・がん看護専門看護師 ②国立病院機構別府医療センター 看護師 ③病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	眼耳鼻疾患、歯科口腔疾患、がん疾患における様々な機能障害が、日常生活に及ぼす影響を理解し、各機能障害を持つ患者の看護を実践できる基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。 成人の自立・自律性を活かし、多様な健康状態・障害に対するアセスメント力、看護展開の基礎的能力を学習する。				
目 標	1. 主な症状とその看護について理解する。 2. 主な検査と治療を受ける患者の看護について理解する。 3. 機能障害をもちながら生活する人の看護について理解する。			DP への対応	
				DP2	
				DP3	
				DP4	
				DP6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕 (土居)	到達目標	眼科疾患の看護について理解する。 眼科疾患患者の看護について説明できる		テキスト① P7 P124 配布資料 パワーポイント	教科書の指定部分 を 事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	ガイダンス 眼科疾患を持つ患者の経過と看護について説明する。 症状に対する看護（視力障害 視野障害 充血 流涙など）			
第 2 回 〔講義〕 (土居)	到達目標	眼科疾患患者の看護について理解する。		テキスト① P138 配布資料 パワーポイント	
	授業内容	診察・検査・治療・処置を受ける患者の看護について説明する。手術を受ける患者の看護 疾患を持つ患者の看護（白内障 緑内障 網膜剥離など）			
第 3 回 〔講義〕 (土居)	到達目標	耳鼻科疾患の看護について理解する。		テキスト② P8 P174 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス 耳鼻科疾患を持つ患者の経過と看護を説明する 症状に対する看護（耳痛・耳漏 耳鳴 めまいなど）			
第 4 回 〔講義〕 (土居)	到達目標	耳鼻科疾患の看護について理解する。		テキスト② P186 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	検査・治療・処置を受ける患者の看護について説明する 手術を受ける患者の看護 疾患を持つ患者の看護（難聴 慢性中耳炎 メニエール病など）			
第 5 回 〔講義〕 (土居)	到達目標	口腔・咽喉疾患の看護について理解する。		テキスト③ P8 P174 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	ガイダンス 口腔疾患の看護について説明する。 （口腔症状 顎口腔機能障害） 治療・処置を受ける患者の看護（診療の準備・介助 保存療法 補綴治療 矯正歯科治療 小児・高齢者の看護） 疾患を持つ患者の看護（口腔がん 顎変形症 唇顎口蓋裂 顎嚢胞）			
第 6 回 〔講義〕 (竹村)	到達目標	がんを取り巻く状況・がん看護について理解する。		テキスト④ P12 P44 配布資料 パワーポイント	
	授業予定	がん医療の現在と看護について説明する がんの病態と臨床経過について説明する			
第 7 回 〔講義〕 (竹村)	到達目標	がん患者の看護について理解する。		テキスト④ P202 配布資料	
	授業予定	がん看護、取り巻くサポートについて説明する。 がん患者の苦痛に対するマネジメント 心理的サポート			

		がんの予防と早期発見 臨床試験を受ける患者のケア	パワーポイント	
第 8 回 〔講義〕 (竹村)	到達目標	さまざまな治療や療養場所で行われるがん看護について理解する	テキスト④ P280	
	授業予定	がん治療に対する看護について説明する。 看護の重要性 手術療法における看護 薬物療法における看護 放射線療法における看護 造血幹細胞 移植と看護 外来がん看護 がん患者の療養支援	配布資料 パワーポイント	
第 9 回 〔講義〕 (川野)	到達目標	事例において 看護過程の展開を理解する。	配布資料	
	授業予定	事例展開について説明する (情報収集・アセスメントの視点)	パワーポイント	
第 10 回 〔講義〕 (川野)	到達目標	事例において 看護過程の展開を理解する。	配布資料	
	授業予定	事例展開について説明する (アセスメントの実際)	パワーポイント	
第 11 回 〔講義〕 (川野)	到達目標	事例において 看護過程の展開を理解する。	配布資料	
	授業予定	事例展開について説明する (アセスメントの実際)	パワーポイント	
第 12 回 〔講義〕 (川野)	到達目標	事例において 看護過程の展開を理解する。	配布資料	
	授業予定	事例展開について説明する (関連図)	パワーポイント	
第 13 回 〔講義〕 (川野)	到達目標	事例において 看護過程の展開を理解する。	配布資料	
	授業予定	事例展開について説明する (看護計画立案)	パワーポイント	
第 14 回 〔講義〕 (川野)	到達目標	事例において 看護過程の展開を理解する。	配布資料	
	授業予定	事例展開について説明する (看護計画実施・評価)	パワーポイント	
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 成人看護学 眼 (医学書院) ②系統看護学講座 成人看護学 耳鼻咽喉 (医学書院) ③系統看護学講座 成人看護学 歯・口腔 (医学書院) ④系統看護学講座 成人看護学 がん看護 (医学書院)		
	参考図書	「周術期と看護」に準ずる		
	その他	皮膚資料、パワーポイント		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

老年看護学

科目区分	専門分野	科目名	老年看護学概論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	岡部 裕美	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	超高齢社会を迎え、2025 年には地域包括ケアシステムの導入を控えており、保健医療福祉のあり方や看護を提供する場には、様々な課題が生じている。それらの課題を解決するうえで、看護師の果たす役割は大きい。そこで、その人の生活史を知り、その人らしさを失わないケアを提供するために必要な高齢者の理解と、社会資源についての基本的な知識を学ぶ。				
目 標					DP への対応
	1. 高齢者の発達課題と役割の変化、および加齢への適応の過程について理解する。 2. 高齢者の疾病と加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を考慮したうえで、高齢者の健康について理解する。 3. 高齢者の機能評価や制度を知ることで、その人らしい生活について理解する。 4. 老年看護の役割について理解する。 5. 高齢者の権利擁護と倫理的課題について理解する。 6. 高齢者のこれまでの生活史（ライフヒストリー）を理解する。				DP1,2,3 DP3 DP5 DP3, DP1,2,4,5 DP1,6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	老年期の発達課題と役割機能の変化、および加齢への適応の過程について理解する。		テキスト① P 2	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 老年期にある人のライフサイクルにおける発達課題から役割機能の変化を説明する。 3. 加齢と老化による影響として喪失体験、サクセスフルエイジング、ノーマライゼーションについて説明する。 4. 高齢者の自立支援や多様な価値観について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の健康と疾病、および加齢に伴う身体機能、心理的・社会的変化について理解する。		テキスト① P86	
	授業内容	1. 加齢と老化の影響と特徴的な疾患・症状の関連について説明する。 2. 高齢者の疾患の特徴、高齢者の生じやすい生活上の問題を説明する。		テキスト② P18	
第 3 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の健康と疾病、および加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化についての学びをとおして、高齢者の健康について理解する。		テキスト① P86	
	授業予定	1. 高齢者疾患の特徴と生じやすい生活上の問題について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の生活を知るための機能と評価、および高齢者の生活に関する保健医療福祉制度を知り、その人らしい生活について理解する。		テキスト① P36	関係法規 領域横断科目 専門職連携第 6 回目
	授業予定	1. 高齢者の機能評価（ICF）を説明する。 2. 高齢者の保健医療福祉制度と変遷（医療保険制度、介護保険制度など）を説明する。 3. 高齢者の生活習慣や生活様式を説明する。 4. その人らしい生活を送るために多職種との連携協働について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	老年看護の役割について理解する。		テキスト① P70	領域横断科目 家族看護
	授業予定	1. 高齢者の生活史と家族構成とニーズの変化を説明する。 2. 老年看護の概念（エンパワメント、ストレングスモデル、ライフレビュー、コンフォート理論）を説明する。			

		3. 老年看護学教育の発展について説明する。		
第 6 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の権利擁護と倫理的課題について理解する。	テキスト① P54	基礎看護学 看護と倫理 領域横断科目 終末期と看護 第 6, 7 回目
	授業予定	1. 高齢者差別や高齢者虐待の防止と権利擁護（アドボカシー）を説明する。 2. 高齢者の意思決定（ACP）への支援を説明する。 3. 終末期における生き方や死の迎え方の意向を説明する。 4. 看護者の倫理的責任を説明する。		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	高齢者のライフヒストリー（生活史）を調査し、高齢者の人生を理解する。	資料	
	授業予定	1. 高齢者が生きてきた人生を年表にし、生きてきた時代やこれまで構築してきた価値観、生きがいや役割意識などについて調べ、グループワークと発表を通して説明する。		
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 70%、グループワーク 30%（60%未満は再試験とする）		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾病論 医学書院		
	参考図書			
	その他	配付資料		
授業以外の学習方法		第 7 回講義までに、高齢者のライフヒストリーのグループワークをするので、各自まとめておきましょう。 高齢者との関わりを意図的に持つことが重要な学びに繋がります。高齢者が自らの生活史を語る機会を設けましょう。		
履修上の留意点				

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	老年看護方法論Ⅰ	単 位	1 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	貞清 瑞枝	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	高齢者は健康な時もあれば病気を患い、治療が必要な時もある。健康であっても、加齢に伴う身体機能の低下が生じることもあり、高齢者は、何らかの障害を抱えながら生活していることも多い。このことから、加齢変化や疾病、傷害を併せ持つ高齢者の生活を整えるために必要な基本的知識・技術を学ぶ。				
目 標	1. 高齢者に特徴的な疾患・症状・障害に応じた看護について理解する。 2. 高齢者疑似体験をとおして、加齢変化による不自由さ困難さを理解する。 3. 高齢者の生活機能を整えるために必要な基本的援助技術を理解する。 4. 様々な健康状態や受療状態にある高齢者の看護を理解する。 5. 高齢者の自立支援、介護予防について理解する。 6. 高齢者のリスクマネジメントについて理解する。				DP への対応
					DP3 DP1,2,6 DP1,3 DP3,4 DP3,5,6 DP3.5
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。		テキスト② P159, P230	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 高齢者の特徴的な疾患（骨折、骨粗鬆症、廃用症候群）の特徴と看護について説明する。			
第 2 回 〔 演 習 〕	到達目標	高齢者の生活を支える「移動」の基本的援助技術を理解する。		テキスト① P122	基本看護技術Ⅰ 活動と休息
	授業内容	1. 高齢者モデルを装着し、高齢者疑似体験を通して活動の不自由さや困難さについて説明する。 2. 事例の症候をアセスメントし、高齢者の特徴を踏まえた歩行、移動、姿勢保持の看護の方法について説明する。 3. 褥瘡のある高齢者への看護について説明する。			
第 3 回 〔 講 義 〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。		テキスト① P234, P238	
	授業予定	1. 脱水・皮膚の障害（老人性掻痒症、白癬）の特徴と看護について説明する。 2. 摂食嚥下障害のある高齢者の看護について説明する。		テキスト② P57, P82, P243	
第 4 回 〔 演 習 〕	到達目標	高齢者の生活を支える「清潔・衣生活」の基本的援助技術を理解する。		テキスト① P172	基本看護技術Ⅱ 清潔と衣生活 第3, 4 回目
	授業予定	1. 事例の症候をアセスメントし、高齢者の特徴を踏まえた清潔（フットケア）、身だしなみ、衣生活の看護について説明する。 2. 掻痒感（老人性掻痒症）のある高齢者の看護について説明する。			
第 5 回 〔 講 義 〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。		テキスト① P146	
	授業予定	1. 高齢者の障害（低栄養、誤嚥性肺炎、尿失禁、便秘、下痢）の特徴と看護について説明する。		テキスト② P77, P176	
第 6 回 〔 演 習 〕	到達目標	高齢者の生活を支える「食事・排泄」の基本的援助技術を理解する。		テキスト① P146, P161	基本看護技術Ⅱ 排泄, 食事援助
	授業予定	1. 高齢者モデルを装着し、高齢者疑似体験を通して食事・排泄行動の困難さについて説明する。 2. 事例の症候をアセスメントし、食生活（自助具の活用・嚥下食の摂取）や排泄（おむつ交換）の看護について説明			

		する。		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。	テキスト① P296	
	授業予定	1. 認知症やせん妄のある高齢者の特徴と看護について説明する。 2. 視聴覚障害のある高齢者の特徴と看護について説明する。	テキスト② P27, P135	
第 8 回 〔演習〕	到達目標	高齢者の生活を支える「コミュニケーション」の基本的援助技術について説明する。	テキスト① P198	基本看護技術Ⅰ コミュニケーション
	授業予定	1. 高齢者モデルを装着し、高齢者疑似体験を通して視聴覚機能低下によるコミュニケーションの困難さを説明する。 2. 事例の症候をアセスメントし、高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーションについて説明する。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	認知症高齢者のコミュニケーションについて理解する。	テキスト① P296	基本看護技術Ⅰ コミュニケーション
	授業予定	1. 認知症の症状に応じたコミュニケーション（パーソンセンタードケア、ユマニチュード）について説明する。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	高齢者に特有な症候・疾患・障害と必要な看護について理解する。	テキスト② 164	
	授業予定	1. 高齢者の特徴的な疾患（心不全、パーキンソン症候群、睡眠障害）の特徴と看護について説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の生活を支える「活動と休息・社会参加」の基本的援助技術を理解する。	テキスト① P213	基本看護技術Ⅰ 活動と休息
	授業予定	1. 高齢者の社会参加、性（セクシュアリティ）、生活リズムの調整、アクティビティケアについて説明する。 2. 事例を基に、高齢者の特徴を踏まえた活動と休息、性、社会参加への看護について説明する。 3. 睡眠障害がある高齢者への看護について説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	急性期・回復期・慢性期にある高齢者の受療状態に応じた看護を理解する。	テキスト① P86, P318	領域横断科目 終末期と看護 第 6, 7 回目
	授業予定	1. 高齢者のヘルスアセスメントについて説明する。 2. 高齢者の強みを活かした、意思決定支援(ACP)について説明する。 3. 外来を受診する高齢者、検査を受ける高齢者への看護について説明する。 4. 高齢者の生活機能の維持向上とリハビリテーションについて説明する。		領域横断科目 周術期と看護 第 9 回目 領域横断科目 薬物療法と看護 第 2 回目
第 13 回 〔講義〕	到達目標	高齢者の自立支援・介護予防について理解する。	テキスト① P142	領域横断科目 保健指導論 第 10 回目
	授業予定	1. 老年症候群を理解し、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの状態について説明する。 2. 高齢者の廃用症候群予防と介護予防について説明する。	テキスト② P48, P87	
第 14 回 〔講義〕	到達目標	高齢者のリスクマネジメントについて理解する。	テキスト① P388	基本看護技術Ⅱ 安全予防と感染管理
	授業予定	1. 高齢者の生活上のリスク（転倒、誤嚥や窒息、熱中症、被災）を理解し、状況に応じた看護について説明する。 2. 高齢者のリスクマネジメントについて説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 80%、演習 20%（60%未満は再試験とする）		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾病論 医学書院		
	参考図書	病院・在宅・訪問で使える高齢者のフィジカルアセスメント 角濱春海 メディカ出版		
	その他	配布資料、高齢者モデル「おいたろう」		

授 業 以 外 の 学 習 方 法	
履 修 上 の 留 意 点	基礎看護学で学習した看護技術を基本に高齢者への援助を実施します。復習をしておきましょう。

科目区分	専門分野	科目名	老年看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	貞清 瑞枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	2025 年の地域包括ケアシステム導入に向けて、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するために看護師の役割は重要である。そこで、高齢者の生活の場を理解し、途切れることなくケアを継続するために必要な基本的知識を理解する必要がある。これまでに学習してきた高齢者の特徴を踏まえ、看護過程の展開や意思決定支援について学ぶ。				
目 標	1. 多様な生活の場で展開する高齢者の暮らしと看護について理解する。 2. 別府市内で生活する高齢者の生活を調査し、その生活について理解する。(老人福祉施設等) 3. 高齢者の生活機能から見た老年看護過程の展開について理解する。(目標志向型) 4. 高齢者が地域で生活するために必要な意思決定支援 (ACP)について理解する。				DP への対応
					DP2, 3, 5 DP2, 3, 5, 6 DP3, 4 DP1, 2, 3, 5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	医療施設に入院する高齢者の暮らしと看護について理解する。		テキスト① P365	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 医療施設の種類と特徴を知り、入院する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割について説明する。 3. 長期入院高齢者の看護について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	介護保険施設などに入所する高齢者の暮らしと看護について理解する。		テキスト① P365	社会福祉 第 8, 1 3 回目
	授業内容	1. 介護保険施設等の種類と特徴を説明する。 2. 入所者の暮らしの特徴と看護の役割を説明する。 3. 長期入所高齢者の看護・福祉用具、介護用品の活用について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	地域密着サービス・居宅サービスを利用する高齢者の暮らしと看護について理解する。		テキスト① P369	社会福祉 第 8, 1 3 回目
	授業予定	1. 地域密着サービス、居宅サービスの種類と特徴を説明する。 2. サービスを利用する高齢者の暮らしの特徴と看護の役割について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	別府市に暮らす高齢者の生活（老人福祉施設他）の調査を通して理解する。		テキスト① P360 資料	社会福祉 第 8, 1 3 回目
	授業予定	1. 別府市の高齢化率を調査し、高齢者の入所施設の状況と特徴、諸サービスの活用状況について説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	別府市に暮らす高齢者の生活（老人福祉施設他）の調査を通して理解する。		資料	社会福祉 第 8, 1 3 回目
	授業予定	1. 別府市の高齢化率を調査し、高齢者の入所施設の状況と特徴、諸サービスの活用状況について説明する。 2. 調査結果をグループ内で共有するために説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	別府市に暮らす高齢者の生活（老人福祉施設他）の調査を通して理解する。		資料	社会福祉 第 8, 1 3 回目
	授業予定	1. 別府市の高齢化率を調査し、高齢者の入所施設の状況と特徴、諸サービスの活用状況について説明する。 2. 調査結果をクラス内で共有するために説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	看護過程(目標志向型)の考え方を理解する。		参考図書①	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 生活機能から見た老年看護過程を説明する。 2. 生活機能から見た看護過程の構成要素を説明する。			

		3. 目標志向型の看護過程の特徴を説明する。		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開（アセスメント）を理解する。	参考図書①	基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 生活機能を重視したアセスメントの方法を説明する。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開（関連図）を理解する。		基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 病態、生活機能関連図の作成を説明する。		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開（問題の明確化）を理解する。		基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 病態、生活機能関連図の作成により、看護の焦点の明確化について説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	看護過程の展開（計画立案・評価）を理解する。		基本看護技術Ⅱ 看護過程
	授業予定	1. 具体策を考え、特徴を踏まえた計画の工夫・留意点、または評価方法について説明する。		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	高齢者が地域で生活するために必要な意思決定支援（ACP）を理解する。		領域横断科目 専門職連携 第 6 回目 領域横断科目 継続看護 第 2, 3 回目
	授業予定	1. 加齢による疾患や障害を持ちながらも、地域でどのように生活をしたのか、希望と現実を確認しながら退院に向けての意思決定をする過程を説明する。 2. ACP における多職種との協働について説明する。		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	高齢者が地域で生活するために必要な意思決定支援（ACP）を理解する。		領域横断科目 専門職連携 第 6 回目 領域横断科目 継続看護 第 2, 3 回目
	授業予定	1. 加齢による疾患や障害を持ちながらも、地域でどのように生活をしたのか、希望と現実を確認しながら退院に向けての意思決定をする過程を説明する。 2. ACP における多職種との協働について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	高齢者が地域で生活するために必要な意思決定支援（ACP）を理解する。		
	授業予定	1. グループで考えた ACP について説明する。 2. グループで考えた多職種との連携について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 40%、看護過程 30%、グループワーク 30%（合計点が 60%未満の場合は再試験）		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾病論 医学書院		
	参考図書	①第 4 版 生活機能から見た老年看護過程 山田律子 医学書院 ②患者家族の寄り添うアドバンスケアプランニング 角田ますみ メジカルフレンド社		
	その他			
授業以外の学習方法		第 4 講義までに実習施設をはじめとして、別府市内の介護老人福祉施設に協力いただき、高齢者の生活について調査し、第 6 講義までにまとめて発表をする。		
履修上の留意点				

小児看護学

科目区分	専門分野	科目名	小児看護学概論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	甲斐 有美子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	小児看護の対象である子どもについて理解を深めるための成長・発達の特徴を学ぶことは欠かせない。さらに、少子高齢社会となった今、子どもを取り巻く環境は変化をしている。現代の家族の状況や保健・医療・福祉の動向や、子どもの最善の利益を守るための看護を学ぶことを目的とする。				
目 標					DP への対応
	1. 小児と小児看護について基本的な考え方を理解する。 2. 子どもの成長・発達を理解し、小児各期の特徴に適した生活と養護を理解する。 3. 小児を取り巻く家族の状況と保健・医療・福祉の動向を理解する。 4. 小児が尊重される存在であり最善の利益を守るための考え方を理解できる。				DP 1 DP 1 DP 3 DP 5 DP 4
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	小児看護の特徴と理念について理解する		テキスト① P 4～18	母性看護学概論 第 5 回目授業
	授業予定	1. ガイダンス 2. 小児医療・小児看護の変遷と課題について説明する。 3. 小児と家族の諸統計について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	子どもの成長・発達について理解する（1）		テキスト① P 30～51	
	授業内容	1. 子どもの成長・発達の原理と影響因子について説明する。 2. 機能的発達と心理社会的発達について説明する。 3. 子どもの成長・発達のアセスメントと評価について説明する。 4. 小児看護における理論について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	子どもの成長・発達について理解する（2）		テキスト① P 54～90	母性看護の方法Ⅰ 第 7・8 回目授業 領域横断 保健指導論 第 6 回目授業
	授業予定	1. 小児期における成長・発達の特徴と養育・看護について説明する。（新生児・乳児）			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	子どもの成長・発達について理解する（3）		"テキスト① P 92～143"	領域横断 保健指導論 第 7 回目授業
	授業予定	1. 小児期における成長・発達の特徴と養育・看護について説明する。（幼児・学童期・思春期）			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	遊びの機能と発達について理解する		第 4 回までの 授業資料	
	授業予定	1. 担当年齢の遊びの展開をすることで成長・発達について説明する。 2. 遊びの展開を行う中で、子どもの安全と事故防止について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	子どもと家族を取り巻く社会を理解する		テキスト① P 163～191	領域横断 家族看護 第 1～3 回目授業 母性看護学概論 第 5 回目授業
	授業予定	1. 家族の特徴とアセスメントについて説明する。 2. 保健・医療・福祉に関する法律と制度について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	小児看護における倫理について理解する			
	授業予定	1. 医療を受ける小児の権利擁護について説明する。 2. 小児の権利を守り安全・安楽となるよう配慮したうえで必要な看護行為を行う考え方を説明する。			
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)			
成績評価の基準と方法		基準： 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法： 終講筆記試験 100% 60%未満は再試験とする。			
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 小児看護学概論 小児看護学総論 第 13 版（医学書院）			

	参 考 図 書	国民衛生の動向 2021/2022 ②ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 第6版 (メディカ出版)
	そ の 他	
授 業 以 外 の 学 習 方 法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。
履 修 上 の 留 意 点		授業出席時間3分の2以下は、終講試験を受ける資格がありません。欠席する場合は、出席時間数の計算をしておいてください。

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	小児看護方法論Ⅰ	単 位	1 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①古賀 寛史 ②今井 一秀 ③植村 篤実 ④有馬 明子 ⑤阿部 奈津樹 ⑥大門 健二	実 務 経 験 関 連 資 格	①医師 ②医師 ③医師 ④医師 ⑤国立病院機構別府医療センター 看護師 ⑥別府発達医療センター 看護師・看護師長		
目 的	小児期に出現しやすい健康問題及び診断・治療に関する基礎的知識を学ぶことは看護をするうえで重要である。小児は健康障害を持ちながらも成長発達し続ける。さらに急速に変化しやすい症状をとらえ適切に看護につなげる力が求められる。本科目では、小児期に特徴的な健康障害の病態・症状・検査・治療について理解することおよび事故に対する医学的知識を身につける。引き続いて様々な状況にある子どもと家族に対しての看護を学ぶことを目的とする。				
目 標	1. 小児期に特徴的な健康障害の病態・症状・検査・治療について理解する。 2. 小児の死亡原因を理解し、不慮の事故や外傷に対する治療や処置を理解する。 3. 様々な状況にある子どもと家族への看護について理解する。 4. 小児期における主な疾患の看護について理解する。				DP への対応 DP 3 DP 3 DP 3 DP 3
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (古賀)	到達目標	(1) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常について理解する (2) 新生児の異常について理解する		テキスト P2～69	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 染色体異常（常染色体、性染色体）について説明する。 3. 胎芽病と胎児病について説明する。 4. 新生児の疾患と低出生体重児について説明する。 5. 先天代謝異常症について説明する。			
第 2 回 〔 講 義 〕 (古賀)	到達目標	(1) 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患について理解する (2) 感染症について理解する (3) 呼吸器疾患について理解する		テキスト P106～189	
	授業内容	1. アレルギーの分類を知り小児期に特徴的な疾患を説明する。(食物アレルギー、気管支喘息、原発性免疫不全症、リウマチ性疾患) 2. 小児期の感染に関する基礎知識をふまえ主な疾患を説明する。(ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症) 3. 主な呼吸器疾患を説明する。(上気道の疾患、気管支・肺・胸膜疾患)			
第 3 回 〔 講 義 〕 (古賀)	到達目標	(1) 循環器疾患について理解する (2) 消化器疾患について理解する		テキスト P190～279	
	授業予定	1. 先天性・後天性心疾患について説明する。 2. 乳幼児突然死症候群について説明する。 3. 口腔・消化器疾患について説明する。(唇裂・口蓋裂、食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、胆道閉鎖症、腸重積、ヘルニア) 4. 急性乳幼児下痢症・胃腸炎について説明する。(ロタ・ノロウイルス感染症)			
第 4 回 〔 講 義 〕 (古賀)	到達目標	(1) 血液・造血器疾患・悪性新生物について理解する (2) 運動器疾患について理解する (3) 事故と外傷について理解する		テキスト P282～334 P416～433	

	授業予定	1. 貧血と出血性疾患について説明する。(血友病、ビタミンK欠乏症、特発性血小板減少性紫斑病) 2. 悪性新生物について説明する。(白血病、脳腫瘍、神経芽腫、ウィルムス腫瘍) 3. 運動器疾患について説明する。(先天性疾患、脊柱側弯症、骨折、脱臼) 4. 事故と外傷について説明する。(頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症)	P 520～53	
第 5 回 〔講義〕 (今井)	到達目標	(1) 代謝性疾患について理解する (2) 内分泌疾患について理解する	テキスト P 69～103	
	授業予定	1. 代謝性疾患について説明する。(糖尿病、低血糖症) 2. 内分泌疾患について説明する。(下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺の異常)		
第 6 回 〔講義〕 (植村)	到達目標	腎・泌尿器および生殖器疾患について理解する	テキスト P 338～377	
	授業予定	1. 先天性腎尿路異常、腎・泌尿器疾患について説明する。(急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、尿崩症、慢性腎臓病) 2. 生殖器・外生殖器の疾患について説明する。(停留睾丸)		
第 7 回 〔講義〕 (植村)	到達目標	神経疾患について理解する	テキスト P 380～413	
	授業予定	1. 神経系の先天異常について説明する。(二分脊椎、水頭症、キアリ奇形) 2. 痙攣性疾患および神経・筋疾患について説明する。(てんかん、熱性けいれん、脳性麻痺、筋ジストロフィ)		
第 8 回 〔講義〕 (有馬)	到達目標	精神疾患について理解する	テキスト P 486～517	
	授業予定	1. 発達障害について説明する。 2. 神経症圏の疾患について説明する。 3. 行動上の障害について説明する。(不登校、反社会的行動、いじめ)		
第 9 回 〔講義〕 (阿部)	到達目標	染色体異常・先天性疾患のある小児の看護を理解する		領域横断 周手術期と看護
	授業予定	1. 染色体・先天異常のある子どもの看護を説明する。(ダウン症、先天奇形、心疾患、内分泌・代謝性疾患、消化器疾患)		
第 10 回 〔講義〕 (阿部)	到達目標	急性期にある子どもと家族への看護について理解する (1)		
	授業予定	1. 急性症状(発熱、痛み、脱水、下痢、嘔吐、呼吸困難、けいれん等)のある子どもの看護について説明する。 2. 救急救命処置(誤飲・誤嚥・溺水・熱傷・蘇生法等)が必要な子どもと家族への看護について説明する。		
第 11 回 〔講義〕 (阿部)	到達目標	急性期にある子どもと家族への看護について理解する (2)		
	授業予定	1. 主な急性疾患(川崎病、ウィルス性疾患、腸重積、急性糸球体腎炎感染症等)について説明する。		
第 12 回 〔講義〕 (阿部)	到達目標	慢性的な疾患がある子どもと家族への看護について理解する		
	授業予定	1. 慢性疾患(I型糖尿病、ネフローゼ症候群、てんかん、腎臓病、喘息等)について説明する。 2. 運動器疾患について説明する。		
第 13 回 〔講義〕 (阿部)	到達目標	特別な状況にある子どもと家族への看護について理解する		
	授業予定	1. 虐待を受けている子どもと家族および災害を受けた子どもと家族への看護		
第 14 回 〔講義〕 (大門)	到達目標	心身障害のある子どもと家族の看護について理解できる		
	授業予定	重症心身障害児の看護		
第 15 回		まとめ		

		終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100% 60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学概論 小児看護学総論 第13版(医学書院)		
	参考図書	国民衛生の動向 2021/2022 ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 第6版 (メディカ出版)		
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉科疾患については疾病論Vで学習する。		

科目区分	専門分野	科目名	小児看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	人間のライフサイクルの中で、小児期は最も成長発達の著しい時期であり、健康障害や苦痛を最小限にすることは、健やかな成長発達への支援として重要である。また、健康障害を持ちながら成長発達する小児を理解し、養育環境をより安定したものとなるための知識を深めることが看護師の役割として求められる。本科目では、様々な状況にある子供とその家族、発達段階に応じた看護をするために必要な看護技術と対象を理解し看護を展開する考え方について修得する。				
目 標	1. 様々な状況にある子どもと家族への看護について理解する。 2. 小児看護に必要な看護技術について理解する。 3. 健康障害をもつ子どもの事例展開の方法を理解する。			DP への対応	
				D P 3 DP 3 DP 3	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と外来における子どもと家族への看護について理解する。		テキスト① P212～	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 病院環境（外来・病室）と安全管理について説明する。 3. 入院中の子どもとその家族の特徴について説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	活動制限が必要な子どもと家族及び感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護について理解する。			
	授業内容	1. 安静が必要な子どもの看護について説明する。 2. 点滴をしている児へ看護について説明する。 3. ギプス固定、牽引が必要な児への看護について説明する。 4. 隔離が必要な児への看護について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	バイタルサイン測定、身体計測について理解する。		テキスト① P287～302	小児看護学概論 第2回目授業 第3回目授業
	授業予定	1. バイタルサイン測定、身体計測について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	2. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護について理解する。		テキスト① P416～419	臨床薬理学 第2 回授業
	授業予定	1. 子どもにとっての検査・処置体験について説明する。 2. 看護の実際について説明する。 3. 薬物動態と薬液量の決定について説明する。 4. プレパレーションについて説明する。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	子どもへの与薬・注射について理解する。		テキスト① P420～431	
	授業予定	1. 経口与薬について説明する。 2. 点耳、点眼、点鼻、座薬について説明する。 3. 筋肉注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射について説明する。			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	子どもの輸液管理について理解する。		テキスト① P432～439	
	授業予定	1. 輸液量と輸液速度について説明する。 2. 輸液速度と医療機器について説明する。 3. 点滴静脈内注射について説明する。			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	検体採取の看護について理解する。		テキスト① P441～456	
	授業予定	1. 採尿、採便、骨髄穿刺、腰椎穿刺について説明する。			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	経管栄養、吸引、吸入について理解する。		テキスト① P458～471	
	授業予定	1. 経管栄養、吸引、吸入について説明する。			
第 9 回 〔演習〕	到達目標	小児看護技術について理解する。		演習	
	授業予定	演習：			

		バイタルサイン測定、身体計測、与薬方法、点滴固定、採尿方法、採血時の固定、経管栄養、吸入、吸引		
第 10 回 〔 演 習 〕	到達目標	小児看護技術について理解する。	演習	
	授業予定	演習： バイタルサイン測定、身体計測、与薬方法、点滴固定、採尿方法、採血時の固定、経管栄養、吸入、吸引		
第 11 回 〔 講 義 〕	到達目標	事例において 看護過程の展開ができる。(情報収集・アセスメントの視点がわかる)	配布資料	小児看護学概論 第2回目授業 小児看護方法 I 第12回授業
	授業予定	事例展開 気管支喘息		
第 12 回 〔 講 義 〕	到達目標	事例において 看護過程の展開ができる。 (アセスメントの実際)	配布資料	
	授業予定	事例展開 気管支喘息		
第 13 回 〔 講 義 〕	到達目標	事例において 看護過程の展開ができる。 (情報収集・アセスメントの視点がわかる)	配布資料	
	授業予定	事例展開 気管支喘息		
第 14 回 〔 講 義 〕	到達目標	事例において 看護過程の展開ができる。 (情報収集・アセスメントの視点がわかる)	配布資料	
	授業予定	事例展開 気管支喘息		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 50% 看護過程レポート 30% 技術の課題 20% 60%未満は再試験を行う。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 小児看護学概論 小児看護学総論 第13版5印(医学書院)		
	参考図書	②ナース・グラフィカ 小児の発達と看護 第6版 (メディカ出版)		
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		本単元では小児看護における看護技術を学ぶにあたって基礎看護技術における知識は熟知しておく必要がある。 また、看護過程の展開では子どもの発達段階および特徴を理解し、疾患の理解と看護について理解しているとして授業を進めるため復習をしておくこと。		

母性看護学

科目区分	専門分野	科目名	母性看護学概論	単 位	1 単位
対象学年	1 学年	学 期	後期	時 間	15 時間
担当教員	清岡 佳子	実務経験 関連資格	臨床看護経験：①産婦人科 ②一般内科 ③精神科 臨床助産師経験 教育経験： ①助産師養成所：助産論、実習 ②看護師養成所：看護学概論、母性看護学概論、母性看護学方法論、実習 ③大学・大学院：母性看護学概論、助産管理、助産論、実習		
目的	母性看護の役割拡大を踏まえ、母性看護の基盤となる概念を理解し、実践活動に活用できる。また、女性・母性の健康の保持増進を目指した次世代の育成について理解し、個別性の高い看護実践ができるよう、統合体の母児や親となる家族を対象に、母性看護の支援について学ぶ。				
目標	1. 人間の生殖医療と生命に関する倫理的諸問題について理解する。 2. 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状の理解をする。 3. 女性のライフサイクルを通して、リプロダクティブヘルツ/ライツに関する健康の保持増進、健康問題の理解をする。 4. 母性看護の基盤となるマタニティサイクルにおける健康保持増進、健康障害や予防・疾病・治療など幅広い支援の必要性について理解する。			DP への対応	
				DP1,4 DP2.3 DP3 DP5,6	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	1. 母性とはなにかについて、母性の身体的・心理的、社会的特徴から理解できる 2. 人間の性を示すセクシャリティについて理解し、多様な価値観や人生観を有している人々を尊重できる。		母性看護概論 P2～	日本の性制度 母性の諸定義 統合体としての人間（生物学的・精神的・社会的） 性的マイノリティ 日本女性の馬語、自身の母性観
	授業予定	1) 家族の歴史の変遷について考える 2) 母性とは何かについて定義から説明できる 3) 性について生物学的性と社会文化的な性を説明できる。 3) ライフサイクルをととした性の発達について説明できる 4) 性的マイノリティについて説明できる。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	1. 母性看護の対象について理解する。女性のライフサイクルについて理解する		母性看護概論 P97～	母性保護論争：与謝野晶子&平塚らいてうについて事前学習
	授業内容	1) 女性生殖器の形態と機能について説明できる 2) 女性のライフサイクルについて説明できる 3) 家族の機能と母性、父性、親性について説明できる			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	リプロダクティブヘルツ/ライツについて理解する		母性看護学顔論 P250	リプロダクティブヘルツ/ライツの定義 課題レポート 1「リプロダクティブヘルス/ライツの現状と世界的動向」
	授業予定	1) リブリダクティブ/ライツの定義を説明できる 2) リプロダクティブヘルツ/ライツの世界的動向について説明できる 3) リプロダクティブライツの課題について考えることができる			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	女性のライフサイクルと健康問題について理解する。		母性看護概論 P283～ 女性のライフスタイルと健康問題 PC	女性のライフステージとホルモンの変化
	授業予定	1) 女性のライフサイクルから見た女性の健康について考えることができる。 2) 女性のライフサイクル各期の健康問題を概観できる。			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	保健医療福祉制度及び政策の歴史から母性看護の現状と動向を理解する		看護概論 P54～	①看護の歴史を復習しておく 国民

	授業予定	1) 母性看護の起源とその後の変遷について説明できる 2) 戦後の復興と母子保健基盤整備について説明できる 3) 母子保健統計から健康や課題について説明できる 4) 母子の健康問題に関して国や自治体の取り決めにして説明できる	国民衛生の動向	衛生の動向から母子保健に関する部分を調べておく 課題レポート ②「自分の母子健康手帳の記載内容を見ておく、自分の誕生について両親・家族から聞いておく」
第 6 回 〔講義〕	到達目標	母性看護における生命倫理と看護倫理について理解できる	母性看護概論 P45～	看護師の日常のケアで感じている倫理上の問題について調べておく（教科書参照）最新の生殖医療について調べておく
	授業予定	1) 女性の意思決定について考えることができる 2) 倫理上の問題に関する看護者の行動について考えることができる 3) 生殖医療と生命倫理について考えることができる		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	母子保健の国際化について理解できる	母性看護概論 P308～	現在の国際化と母子保健問題や在日外国人の母子保健に関する動向を調べておく
	授業予定	1) 国際化の現状と問題点について説明できる 2) 国際的視点を持つことに意義について理解できる 3) 外国人、在日韓国人へのケアが分かる		
第 8 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：筆記試験（80 点） 課題レポート・学習態度（20 点）を総合して評価する。		
使用教材	テキスト	①母性看護学概論（医学書院） ②病気がみえる（メディックメディア） ③周産期ケアマニュアル（サイオ出版） ④国民衛生の動向		
	参考図書	①女性生殖器（医学書院） ②国民衛生の動向 ③母性看護学（メディカ出版） ④母性看護技術		
	その他			
授業以外の学習方法		全体で 45 時間であることから、講義 15 時間、予習・復習 30 時間となる。		
履修上の留意点		履修認定は 1 単位である。1 単位は、全体で予習・復習、講義を含めて 45 時間とする。課題レポートの提出は期限内に提出できなかった場合は、評価しないこととする。		

科目区分	専門分野	科目名	母性看護方法論Ⅰ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担 当 教 員	①三重野 真美 ②高野 かおり ③甲斐 洋子 ④深井 昌子	実 務 経 験 関 連 資 格	①病院における助産師経験・看護師経験・看護学校における教員経験資格：三重野 ②あおい産婦人科 助産師・看護師長 ③大分県立病院 助産師・看護師長 ④大分県立病院 助産師・新生児集中ケア認定看護師		
目 的	女性の生涯を通しての性と生殖に関する健康を守り、次世代の健全育成の看護を学ぶ				
目 標	1. 女性のライフサイクルにおける性と生殖機能の顕著な妊娠・分娩期・産褥期 および新生児期とその家族の看護について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦の心理的变化と家族を含めた対象の心理・社会的特性、新生児の生理的特徴を習得する。			DP への対応	
				DP1,2,3,4,5,6	
授 業 回 数 〔 方 法 〕	内 容			使 用 教 材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔 講 義 〕 (三重野)	到達目標	1. 子どもを産み育てる意味を理解し、母親になることに 対する支援について理解する。		テキスト① P2～	①「日本で子どもを 産み、育てるという ことはどういうこと か？」考える。 ②胎児の生存権につ いて考えてみる。
	授業予定	方法論Ⅰの授業ガイダンス ①子どもを産み育てることの意味 ②母親になることとそれに対する看護 ③子どもを産み育てることへの看護を系統的に学習する準備			
第 2 回 〔 講 義 〕 (三重野)	到達目標	1. 出生前からのリプロダクティブヘルスケアについての必 要性を理解する。 2. 子どもを産み育てるにあたり、生じる遺伝・不妊の問題 や自己決定支援について理解する。		テキスト① P14～	遺伝性疾患の危険因 子について復習して おく。
	授業内容	①リプロダクティブヘルスの必要性 ②遺伝 ③不妊治療と看護			
第 3 回 〔 講 義 〕 (三重野)	到達目標	<妊娠期の看護> 1. 妊娠期の身体的特性について説明できる。 2. 妊娠期の心理的・社会的特性について説明できる。		テキスト① P62～	女性生殖器の解剖 と生理機能の学習
	授業予定	①妊娠の生理、胎児発育、母体の生理的变化 ②妊娠期の身体的・心理的・社会的変化			
第 4 回 〔 講 義 〕 (三重野)	到達目標	<分娩期の看護> 1. 分娩の要素と分娩経過について説明できる。 2. 産婦の身体的・心理的・社会的変化について説明できる。 3. 胎児に及ぼす影響について説明できる。		テキスト① P184～	疼痛の種類と看護 胎児心拍数低下の 原因
	授業予定	分娩の要素、分娩進行、産婦の身体・心理・社会的変化、胎 児への影響			
第 5 回 〔 講 義 〕 (三重野)	到達目標	<新生児の看護> 1. 新生児の生理について説明できる。 2. 新生児の機能について説明できる。		テキスト① P262～	胎児循環から 新生児循環の比較
	授業予定	新生児の生理、新生児の機能			
第 6 回 〔 講 義 〕 (三重野)	到達目標	<産褥期の看護>産褥の経過 1. 産婦の身体的変化について説明できる。 2. 産褥期の心理的・社会的変化について説明できる。		テキスト① P322～	退行性変化、進行性 変化は、実習で重要 な観察項目です。確 実な知識を修得する こと。
	授業予定	褥婦の産褥期の進行性変化、退行性変化、全身状態変化、褥 婦家族の心理的变化、ソーシャルサポート			
第 7 回 〔 講 義 〕 (高野)	到達目標	<妊婦の看護> 妊婦と家族の看護 (126) ①妊婦の母子保健サービスについて説明できる。 ②妊婦の保健相談の実際について説明できる。 ③親になるための準備教育について説明できる。		テキスト① P133～	妊娠～出産後の母子 保健に関する法律を まとめ、保健指導で きるように準備して おく。
	授業予定	①妊娠届け出、健康手帳、健康診査、保健指導			

		②妊娠中の生活③分娩準備教育、育児準備教育、家族調整		
第 8 回 〔講義〕 (高野)	到達目標	＜産婦の看護＞ 1. 産婦と家族の看護について説明できる。 2. 分娩期の看護の実際について説明できる。	テキスト① P345～	分娩期の不安、恐怖心に関するケアについてまとめておく。
	授業予定	①安全安楽な看護、肯定的な出産、基本的ニード ②分娩1期から4期の看護		
第 9 回 〔講義〕 (高野)	到達目標	＜新生児期の看護＞ 新生児の看護について説明できる。	テキスト① P305～	初乳・移行入・成乳の知識、母乳栄養の特徴、
	授業予定	①出生直後の看護 ②出生直後から退院までの看護 ③生後1か月までの看護		
第 10 回 〔講義〕 (高野)	到達目標	＜産褥期の看護＞ 1. 褥婦と家族の看護について説明できる。 2. 退院後の看護について説明できる。	テキスト① P345～	産褥期の入院管理についてまとめておく。
	授業予定	①身体機能の回復、進行性変化、児との関係確立、育児、家族関係の構築 ②育児不安と育児支援、職場復帰		
第 11 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	＜妊娠期・分娩期の異常の看護＞ 1. 妊娠の異常と看護について説明できる。 2. 分娩の異常と看護について説明できる。	テキスト① P380～	妊娠・分娩の異常の兆候、検査、処置等についての学習
	授業予定	①ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、妊娠持続期間の異常、異所妊娠、多胎妊娠他 ②産道異常、娩出力異常、附属物異常、胎児機能不全、出血等他		
第 12 回 〔講義〕 (甲斐)	到達目標	＜産褥期の異常の看護＞ 1. 産褥期の異常と看護について説明できる。 2. 精神障害合併妊婦と家族科の二つについて説明できる。	テキスト① P484～	産褥期の子宮収縮の役割、静脈血栓塞栓症の血栓のメカニズム、治療の学習
	授業予定	①子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、精神障害 ②精神障害が妊娠に及ぼす影響と看護		
第 13 回 〔講義〕 (深井)	到達目標	＜新生児の異常と看護＞ 新生児の異常と看護について説明できる。	テキスト① P489～	新生児に起こりやすい病態について学習
	授業予定	新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児、高ビリルビン血症、ビタミンK欠乏症		
第 14 回 〔講義〕 (深井)	到達目標	＜新生児の異常と看護＞ リスクのある出生児の看護について説明できる	P489 資料	呼吸器系の障害について学習
	授業予定	帝王切開で生まれた児、吸引分娩で生まれた児、奇形で生まれた児、未熟児で生まれた児、その他リスクのある児		
第 15 回	到達目標	母性看護方法論1の授業を終えて、生命の尊厳,女性のライフサイクル,マタニティサイクルについて理解を深めることができる.母性看護方法論1の授業を終えて、生命の尊厳,女性のライフサイクル,マタニティサイクルについて理解を深めることができる.		授業のまとめ、 認定試験
	授業予定	まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法 : 筆記試験 (80%)、沐浴実施試験 (20%)、60%未満は再試験を行う。		
使用教材	テキスト	母性看護学各論 母性看護学②、医学書院、②病児が見える 産科、		
	参考図書	ナーシンググラフィカ 母性看護学 母性看護技術 メディカ出版、		
	その他			
授業以外の学習方法		継続看護、社会資源の活用について調査		
履修上の留意点		履修規程の必用条件について理解しておくこと。母性看護は、リプロダクティブヘルス/ライツに関することを特徴としています。生命の誕生から看護に携わることから専門職業人として、倫理的態度を求められます。その観点から授業態度は、適切な態度であるか評価します。		

科目区分	専門分野	科目名	母性看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期・後期	時 間	30 時間
担当教員	①宮原 有佳子 ②清岡 佳子	実務経験 関連資格	①国立病院機構別府医療センター 助産師 ②助産師・臨床看護・臨地実習指導・母性看護学教員の経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	妊婦・産婦・褥婦、新生児の観察と援助に必要な看護技術を習得する。 母性看護におけるウェルネスの視点で看護過程展開について学ぶ。				
目 標	1. 妊婦・産婦・褥婦、新生児の観察をとおしてアセスメントできる。 2. 妊娠・産婦・褥婦・新生児の観察と援助に必要な看護技術を習得する。 3. 母性看護のウェルネスの視点の看護過程の展開について理解する。 4. 演習をとおして、生命の尊厳や女性のマタニティサイクルの健康課題や育児支援について自己の考えを深めることができる。				DP への対応 DP1,2,3,4 DP3,4 DP3 DP6
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準備学習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	<妊娠期の看護> 妊婦と胎児のアセスメントについて説明できる。 1. 妊娠の診断の方法、妊娠経過のアセスメントができる。 2. 胎児の確定診断や発育状態のアセスメントができる。		テキスト① P92～	・概論、方法論1の 復習。 ・母性看護で必要な 倫理観の再構築。 ・妊娠経過・胎児の 成長の事前学習。
	授業予定	①妊婦の問診、妊娠の診断、妊娠期に行う検査、妊婦の卦校 状態 ②胎児の確認と健康状態、妊娠経過。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	<分娩期の看護> 産婦・胎児・家族のアセスメントについて説明できる。 1. 産婦と胎児の健康状態のアセスメントができる。 2. 産婦と家族の心理・社会的アセスメントができる。		テキスト① P211～	産婦の身体的変化、 胎児の成長の事前学 習。
	授業内容	①産婦と胎児の健康状態のアセスメント ②産婦と家族の心理的・社会的側面のアセスメント			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	<新生児期の看護> 新生児のアセスメントについて説明できる。 1. 新生児の診断に関するアセスメント（評価）ができる。 2. 子宮外適応のアセスメントができる。		テキスト① P293～	新生児の解剖・生理 の事前学習。
	授業予定	①アセスメントの基礎情報収集 ②新生児の健康状態のアセスメント			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	<産褥期の看護> 褥婦のアセスメントについて説明できる。 1. 産褥経過のアセスメントができる。 2. 褥婦の健康状態についてアセスメントができる。		テキスト① P334～	産褥の生理的变化の 事前学習
	授業予定	①退行性変化、進行性変化 ②褥婦の基礎情報、健康状態、生活アターン・セルフケア、 不快症状、心理的变化、関係性・親、サポート態勢			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	<妊産婦の援助技術演習> 1. 妊婦・産婦・褥婦の援助技術の必要性和知識について述 べることができる。 2. 安全安楽な技術、倫理的態度をもって援助ができる。 3. 技術提供時は、倫理的配慮やプライバシーの保護に留意 した気づきができる。		テキスト② 妊娠 ：P46～ 分娩 ：P228～ 産褥 ：P366～	演習時は、白衣に着 替える。 妊娠・分 娩経過を復習。技術 提供の視点、安全、 倫理、安楽について 学習し、演習に臨 む。モデル人形は一 人の妊婦さん、一人 の新生児として、尊 重して対応します。
	授業予定	1. 妊産褥婦の問診、観察・診察・検査・処置・治療、看護 2. 保健指導（個人・集団）3. 母児同室・環境			

第 6 回 〔講義〕	到達目標	<新生児の援助技術演習> 1. 新生児の観察、診察、検査、処置、治療の必要性和知識について述べるができる。 2. 安全安楽な技術、倫理的態度をもって援助ができる。	テキスト② 新生児 ：P398～ モデル人形 演習室の準備と片付け	新生児の解剖・生理の復習。安全は、技術のみならず、環境の安全について学習。
	授業予定	1. 新生児の観察、診察、検査、処置、治療、2. 新生児室の環境		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	<妊産婦・新生児の技術演習>グループ演習 1. 沐浴が時間内に全員できる。 2. 沐浴以外の援助技術を選択しておく。	資料は、個人で準備 演習室の準備と片付け	沐浴時の観察を復習。母親が母親らしくなっていく過程に気づきましょう。母子相互作用を学習。安全のチェック項目と方法を学習。ヒヤリハットの報告を学習。
	授業予定	1. 沐浴の時間配分を決めて、順番に実施。 2. 2人組で、1人が実施、1人が評価者。		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	<沐浴実技試験> 評価 1. 20人評価 2. 20人技術演習	○個人で準備 ○演習室の準備	全員白衣。合格を目指して、事前に練習しておく。
	授業予定	1. 評価表を用いる。60点以下は不合格 2. 技術演習は、沐浴以外の技術演習に散り組む		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	<沐浴実技試験> 評価 1. 20人評価 2. 20人技術演習	○個人で準備 ○演習室の準備	全員白衣。合格を目指して、事前に練習しておく。
	授業予定	1. 評価表を用いる。60点以下は不合格 2. 技術演習は、沐浴以外の技術演習に散り組む		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	看護過程展開のグループワーク 事例（paper patient）を用いて、看護過程を展開することができる。	資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。・講義内容や練習問題を復習しておくこと。
	授業予定	事例を用いた看護過程の展開③		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	看護過程展開のグループワーク 事例（paper patient）を用いて、看護過程を展開することができる。	資料	グループで計画的にすすめていきます。司会、進行、発表者を決めます。事例をしっかり読み込みます。
	授業予定	事例を用いた看護過程の展開④		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	看護過程展開の発表をし、意見交換ができる。	グループ作成資料	グループでまとめて資料作成し発表します。発表の順番も決めてください。
	授業予定	グループで行った看護過程を発表		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	産科の救急処置及び対応について理解できる。	資料	妊産婦の異常について復習しておく。
	授業予定	緊急時の帝王切開、分娩時の出血多量時の処置、胎児仮死時の救急処置、		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	産科の医療事故事例から安全確保について理解できる。	資料	事例をよく読み、何がおきたのか、何故おきたのか、対処方法・判断等について考える
	授業予定	事故事例の分析、産婦の死亡、胎児・新生児の死亡等		
第 15 回	到達目標	<まとめ><母性看護学Ⅱの筆記試験> 母性看護学の学びをとおして、専門職としての母性看護の役割についてレポートにまとめる。	自分で用意 図書室利用可	レポート作成し、提出
	授業予定	まとめ 終講試験(50分) ①まとめのレポート提出 ②筆記試験は、2人の講師の配分		

		をきめて問題作成する。60 点以上を合格とする。		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：沐浴の実施試験：20% 終講筆記試験 80% レポート 10%、全体 100%の内、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	適宜提示		
	参考図書	適宜提示 小林康江、中込さと子：ナースング・グラフィカ母性看護学		
	その他	資料、パワーポイント、参考図書の提示		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。演習時間内では、技術の修得は困難です。 自己学習時間を利用して実習に備えて下さい。		
履修上の留意点		母性看護の援助技術の中でも安全、科学的根拠に基づいた技術は、練習（トレーニング）を通じてしか向上しません。講義内で出される課題、技術練習に意欲的に取り組んでください。また、実践は科学的根拠に基づいた技術を修得するように知識を活用しながらトレーニングしてください。		

精神看護学

科目区分	専門分野	科目名	精神看護学概論	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	15 時間
担当教員	影山 隆之	実務経験 関連資格	大分県立科学大学 精神看護学研究室 教授		
目 的	精神の健康とは何か、精神が健康であるためにはどのような力が必要かについて学び、精神の障害とはなにか、その定義や捉え方を理解する。また、ストレスや精神の健康における危機とは何かを理解し、精神障害につながる危機の予防に必要な力や支援について学ぶ必要がある。そして、人格の発達に関する代表的な理論を学び、人間の心の構造と発達、対象との関係の中で自己が形成される過程を理解する。また、現代社会における精神保健・看護ニーズの高まりの背景を知り、精神の健康の概念と精神看護を実践するものとしての視点や態度を学ぶ。				
目 標	1. 精神保健の基本と保持・増進に向けた基本的な看護について理解する。 2. 精神看護の対象理解と支援のための基本的な概念について理解する。				DP への対応 Dp2、Dp3、Dp4、D p 5 Dp2、Dp3、Dp 4、 Dp 5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	精神の健康の概念、心の機能と発達を理解する		テキスト① P26 P41 P78 P127 テキスト② P43 テキスト③ P66 テキスト④ P268	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 精神の健康の定義、精神障害の一次予防、二次予防、三次予防、精神と情緒の発達、自我の機能、防衛機制、精神力動、転移感情について説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	精神の健康に関する普及啓発、危機（クライシス）を理解する		テキスト① P9 P131 P41 P42 P301 テキスト ②P93 P263 テキスト⑤ P180 テキスト③ P56	
	授業内容	偏見、差別、スティグマ、精神保健医療福祉の改革ビジョン、危機（クライシス）の概念、予防、危機介入、ストレスと対処、適応理論について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	身体と心は密接なつながりを持つ事、精神科看護においても身体のケアに関する高度な知識や技術が必要である事を理解する。		テキスト① P108 テキスト② P316 テキスト③ P141 テ キスト⑨ P23 テキスト ⑫P39	
	授業予定	心身相関と健康、身体・精神疾患がある者の精神の健康、患者と家族の精神の健康、保健医療福祉に従事する者の精神の健康、ホリスティックケアについて説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	災害による人的被害を最小限にする方策と、危機に直面した人々への心理ケアについて理解する。		テキスト① P334 テキスト② P184 P334 テキスト③ P98 テキスト⑧	
	授業予定	災害時の精神保健医療活動、災害時の精神保健に関する初期対応と治療の継続について説明する。			

第 5 回 〔講義〕	到達目標	精神科以外で精神保健看護の知識や技術を生かして活躍するリエゾン精神看護専門看護師の役割について理解する。	P157 テキスト① P122 P127, P269 テキスト② P190,344,369 P216 テキスト③ P158 P296	
	授業予定	リエゾン精神看護、患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進について説明する。		
第 6 回 〔講義〕	到達目標	1. オレムのセルフケア不足看護理論の考え方を理解する。 2. セルフケアへの実際の援助や、生きる力と強さに着目した援助の考え方を理解する。	テキスト② P55 P105,218,231 P196 テキスト③ P158 P208	
	授業予定	食物・水分の摂取、呼吸、排泄、清潔と身だしなみ、活動と休息、対人関係、安全、レジリエンス、リカバリ（回復）ストレングス（強み、力）エンパワメントについて説明する。		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	ケアの関係の中心が感情である事、その感情を手掛かりにして自分を知り、相手を理解する事がケアの人間関係のもとになる事を理解する。また、関係をアセスメントする事の意味と方法、プロセスレコードの書き方と読み方を理解する。	テキスト② P2 P8 P29 テキスト③ P158 P163 P169 テキスト ⑪P193	
	授業予定	感情を通して自分を知り相手を知る事、ケアの原則、ケアの方法、なぜ関係のアセスメントが必要なのかについて考え、患者－看護師関係における感情体験、対処の難しい場面、医療の場のダイナミクスについて説明する。		
第 8 回		まとめ 終講試験(50分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座精神看護学[1]（精神看護の基礎） ②系統看護学講座精神看護学[2]精神看護の展開		
	参考図書	③精神保健福祉 ④公衆衛生 ⑤社会保険 社会福祉 ⑥成人看護学 ⑦心理学 ⑧看護の統合と実践 ⑨家族看護学 ⑩臨床薬理学 ⑪人間関係論		
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	精神看護方法論Ⅰ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	影山 隆之	実務経験 関連資格	大分県立看護科学大学 精神看護学研究室 教授		
目 的	日本の精神科医療を取り巻く状況は急速に変化している。急性期治療中心の方向に舵を切り、入院期間は短縮し、精神障害者支援法の法制度も更新されてきたが、現実には長期入院患者の数は多く、高齢化による身体合併症や認知症の増加と言う新たな問題も出現している。それに伴い精神科医療の果たすべき役割は量的にも質的にも極めて大きい。ここでは、正常範囲の心理・精神的反応から、明らかに病的状態までの幅広い精神状態に対して適切な精神看護を実践するための知識を学ぶ。				
目 標	1. 精神疾患障害のある者の生物・心理・社会的側面に注目した、多角的アセスメントに基づく看護について理解する。 2. 精神疾患障害のある者の人権を守り、回復を支援する看護について理解する。 3. 精神障害がどの様に受け止められ、精神障害者がいかなる扱いをされてきたのか、精神医学・医療の歴史から理解し、精神障害を持つ人を守る法・制度について理解する。				DP への対応 Dp3 Dp2、Dp3、Dp4、 Dp5 Dp3、Dp5
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	精神科における薬物治療について学び、正確で安全な薬について理解する。		テキスト① P174 P239 P204 テキスト② P237 テキスト③ P142 テキスト⑥ P18 テキスト⑩ P73 P259	
	授業予定	1. ガイダンス 2. 脳の部位と精神機能、神経伝達物質と精神機能・薬理作用、ストレス脆弱性仮説、脳と免疫機能、睡眠障害と概日リズムについて説明する。			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	精神療法とはどのようなものか。精神科ではどのような治療が行われているか理解する。また、患者にとっての回復とは何か。また、人にとっての集団の役割と意味を知り、集団のダイナミクスについても理解する。		テキスト① P236	
	授業内容	個人精神療法、集団精神療法、集団療法、心理教育的アプローチ、認知行動療法、生活機能技能訓練、電気けいれん療法について説明する。			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	精神障害を持つ人々の回復を支える様々な治療的アプローチを理解する。		テキスト① P36 P108 テキスト② P72 P263 P282 テキスト③ P75 P102 P158 P132 テキスト④ P293 テキスト⑫ P34 P400	
	授業予定	リハビリテーションの概念、国際生活機能分類、長期入院患者の退院支援、精神科デイケア、精神科ナイトケア、精神科訪問看護、訪問看護について説明する。			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	患者が、社会生活機能の回復を目的に外来治療の一環として、様々なプログラムに従って治療を受けられる様に考える事が出来る。		テキスト② P298 テキスト③ P244	
	授業予定	困難事例に関する行政（保健所、市町村、精神保健福祉センター）との連携について事例検討			

第 5 回 〔講義〕	到達目標	家族は単なる患者の背景ではなく、ケアが必要なクライアントである事を理解し、家族をケアする際に気をつけなければならない事を理解する。	テキスト① P108 テキスト③	
	授業予定	家族のストレスと健康状態のアセスメント、家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント、家族システムのアセスメントについて説明する。	P141 テキスト⑨ P236 テキスト⑫ P39	
第 6 回 〔講義〕	到達目標	地域で生活をする統合失調症の患者を支える家族の支援について、考える事が出来る	テキスト① P108 テキスト③ P141 テキスト⑨ P236 テキスト⑫ P40	
	授業予定	家族への教育的介入と支援、患者－家族関係について事例検討		
第 7 回 〔講義〕	到達目標	精神障害者が地域で生活し、包括的かつ継続的なサービスの提供を可能にする為の社会資源やサービスについて理解する。	テキスト① P131 テキスト② P269 テキスト③ P232 テキスト④ P270 テキスト⑤ P258 テキスト⑪ P258 テキスト⑬ P227	
	授業予定	精神疾患・障害者ケアマネジメントの基本的考え方、社会資源の活用とソーシャルサポート、セルフヘルプグループ、自立支援医療、居宅介護、同行援護及び行動援護、重度訪問介護、生活介護について説明する。		
第 8 回 〔講義〕	到達目標	精神障害者が地域で生活し、包括的かつ継続的なサービスの提供を可能にする為の社会資源やサービスについて理解する。	テキスト② P28 テキスト③ P47 テキスト④ P272 テキスト⑤ P189 テキスト⑬ PP40	
	授業予定	短期入所、共同生活介護、生活訓練、就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型、共同生活援助、地域生活支援事業、精神障害者保健福祉手帳について説明する。		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	精神障害者が地域で生活する為にどのような調整が必要なのかを考え、社会資源やサービスの提供考える事が出来る。	テキスト① P275 テキスト② P134 テキスト③ P73 テキスト⑤ P2 テキスト⑬ P100	
	授業予定	社会資源の活用とケアマネジメントについて事例検討		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	人権と治療とのバランスの上に立つ「安全」について、基本的な考え方を知り、患者の安全を守る為のリスクマネジメント	テキスト② P102	

		トについて理解できる。自殺や自殺企図、自傷行為などの緊急事態にどう対処すべきか、また、その予防について理解する。	テキスト③ P93 テキスト⑧ P15	
	授業予定	安全管理（病棟環境の整備と行動制限、自殺企図、自傷行為、攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム、災害時の精神科病棟の安全の確保）について説明する。		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	自由や権利を制限せざるを得ない状況にある精神科治療において、精神障害や精神疾患を抱えた人の尊厳をいかにして守るかについて理解する。	テキスト② P8 テキスト③ P19 テキスト③ P129	
	授業予定	患者の権利擁護（当事者の自己決定の尊重、入院患者の基本的な処遇、精神医療審査会、安全確保の為の隔離、身体拘束、行動制限）について説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	保護室に入所し身体拘束の必要な患者の、自律性の尊重やプライバシーについて考える事が出来る。	テキスト② P8 テキスト③ P19 テキスト③ P130	
	授業予定	患者の権利擁護について事例検討		
第 13 回 〔講義〕	到達目標	精神医療と看護の歴史の変遷を知り、その歴史の中で精神医療や看護を発展させた人物を学ぶ。また、精神疾患・障害と地域・文化との結びつきを知り、その多様性と普遍性を理解し、精神科看護師として知っておくべき法制度について理解する。	テキスト① P282 テキスト③ P34	
	授業予定	諸外国における精神医療の変遷（フィリップ・ビネ、ウィリアム・テューク、クリフォード・W・ピアース、エミール・クレペリン、ジークムント・フロイト、ユゴ・チェルツァイ、エカス・モリス）、日本における精神医療の変遷（相馬誠胤、呉秀三）、精神保健医療福祉における看護師の役割について説明する。		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	個人としての精神障害者の権利を保障する法律について理解する。	テキスト① P319 テキスト③ P40 テキスト③ P127	
	授業予定	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の基本的な考え方、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による入院の形態、精神保健指定医について説明する。		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座精神看護学[1]（精神看護の基礎） ②系統看護学講座精神看護学[2]精神看護の展開		
	参考図書	③精神保健福祉 ④公衆衛生 ⑤社会保険 社会福祉 ⑥成人看護学 ⑧看護の統合と実践 ⑨家族看護学 ⑩人間関係論 ⑫在宅看護論 ⑬看護関係法令		
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

科目区分	専門分野	科目名	精神看護方法論Ⅱ	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	岩本 祐一	実務経験 関連資格	大分大学医学部看護学科 基礎看護学講座精神看護学 講師		
目 的	当事者にとって「精神を病む」体験とはどのようなものかを知り、精神看護における「症状のとりえ方」の理解につなげる。また、精神機能（思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など）の障害である様々な精神症状を学び、精神障害の診断と分類、それに基づく様々な精神障害についても理解する。そして、精神科ではどのような治療が行われているのか学び、精神科における薬物治療については正確で安全な薬の知識を学び、精神療法や環境療法、社会療法の実際についても理解する。				
目 標	①「病い」の経験と医学モデルによる「疾患」という2つの側面から精神障害を理解し、精神看護における「症状のとりえ方」を理解する。 ②主な精神疾患・障害の特徴と看護について基本的な知識を理解する。 ③事例を用いて看護過程の展開の方法を学ぶ。				DP への対応
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	「精神を病む」とはどういうものなのか、その経験を当事者の「生きる」と言う文脈の中で考え、様々な精神症状を知る事で「症状のとりえ方」を理解する		テキスト① P209	
	授業予定	様々な病気の説明の仕方をさぐる、精神症状論と状態像、症状とは何か、様々な精神症状について説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	様々な精神症状を知る事で「症状のとりえ方」を理解する		テキスト① P220 テキスト⑩ P259	
	授業内容	症状とは何か、様々な精神症状について説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	統合失調症、統合失調症障害および妄想性障害の疾患と看護について理解する		テキスト① P165 テキスト⑩ P259	
	授業予定	統合失調症の症状、病型とその分類、疫学、成因、治療、発病と回復のプロセスについて説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	統合失調症、統合失調症障害および妄想性障害の疾患と看護について理解する		テキスト① P165 テキスト⑩ P259	
	授業予定	統合失調症の症状、病型とその分類、疫学、成因、治療、発病と回復のプロセスについて説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	気分（感情）障害、双極性障害の症状と看護について理解する		テキスト① P183 テキスト⑩ P196 P269	
	授業予定	気分（感情）障害の歴史、病の体験、主要症状、経過と予後、疫学、成因、治療について説明する			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害の症状と疾患について理解する		テキスト① P193	
	授業予定	恐怖症性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応及び適応障害、解離性障害、身体表現性障害、その他の神経症性障害について説明する			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群について理解する		テキスト① P203	
	授業予定	摂食障害、睡眠障害（精神的要因によるもの）、性機能不全、性同一障害などについて説明する			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	パーソナリティ障害、習慣および衝動の障害、知的障害（精神遅滞）、心理的発達の障害についての看護を理解する		テキスト① P208	
	授業予定	パーソナリティ障害の分類、アルコール症とは、認知症、て			

		んかん、知的能力障害について説明する		
第 9 回 〔講義〕	到達目標	精神科ではどのような治療が行われているかを学ぶ。精神科における薬物治療について学び、正確で安全な薬について理解する	テキスト① P236 テキスト⑩ P259	
	授業予定	精神科における治療、薬物療法・電気けいれん療法について説明する		
第 10 回 〔講義〕	到達目標	精神科ではどのような治療が行われているかを学ぶ。精神科における薬物治療について学び、正確で安全な薬について理解する	テキスト① P255 テキスト② P210	
	授業予定	精神科における治療、薬物療法・電気けいれん療法について説明する		
第 11 回 〔講義〕	到達目標	精神科治療の薬物療法と並ぶ柱である精神療法とはどのようなものか、実際にどのように用いられているのか理解する	テキスト① P236	
	授業予定	個人療法、集団精神療法、家族療法、環境療法・社会療法について説明する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害について理解する	テキスト① P227	
	授業予定	自閉症スペクトラム障害、コミュニケーション障害群、注意欠如・多動性障害、限局的学習障害、運動障害群について説明する	テキスト④ P486	
第 13 回 〔講義〕	到達目標	オレムのセルフケア不足看護理論（看護過程）を理解する	テキスト② P105	
	授業予定	事例検討（統合失調症－成人期・急性期、双極性障害－慢性期）		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	オレムのセルフケア不足看護理論（看護過程）を理解する	テキスト② P105	
	授業予定	事例発表（統合失調症－成人期・急性期、双極性障害－慢性期）		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座精神看護学[1]（精神看護の基礎 ②系統看護学講座精神看護学[2]精神看護の展開 ⑩臨床薬理学 ⑭小児看護学		
	参考図書			
	その他			
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点				

看護の統合と実践

科目区分	専門分野	科目名	看護マネジメント	単 位	1 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	①眞弓 恵美子 ②濱砂 勇矢	実務経験 関連資格	①九州大学病院別府病院 総看護師長 ②新別府病院 看護師		
目 的	看護の機能を十分に発揮できるようにチーム医療及び多職種との協働の中で、看護におけるマネジメント及び看護師としてのメンバーシップやリーダーシップの基礎を理解する。また、災害看護を学び、看護の場に応じた基礎的能力を養う。				
目 標	1. 看護をしぐみととらえ、よりよい看護の提供を追求するために人的・物的・財的資源の有効利用を考え、それを維持・活用するためのしぐみを理解する。 2. 看護職に求められるグローバルな視点を理解する 3. 災害医療の概要と、災害看護に関する知識・技術を理解する				DP への対応 DP1・3・4・5・6 DP2,3,4,6 DP1,2,3,4,5,6、
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (眞弓)	到達目標	看護におけるマネジメントを理解する		テキスト① P2～14 配布資料	教科書の指定部分を事前に読んでおくこと
	授業予定	1. ガイダンス 2. 看護マネジメントの概念について説明する 3. 看護のマネジメントが行われる場について説明する 4. 看護におけるマネジメントの考え方について説明する			
第 2 回 〔講義〕 (眞弓)	到達目標	看護ケアにおけるマネジメントを理解する		テキスト① P16～62 配布資料	医療安全と看護
	授業内容	1. 患者の権利の尊重、意思決定の支援について説明する 2. 安全管理、医療事故対策、院内感染対策について説明する 3. 災害予防と対応、チーム医療について説明する			
第 3 回 〔講義〕 (眞弓)	到達目標	看護職のキャリアマネジメントを理解する		テキスト① P64～76 配布資料	看護学概論 第14 回目
	授業予定	1. 看護職のキャリア形成について説明する 2. タイムマネジメントについて説明する 3. ストレスマネジメントについて説明する			
第 4 回 〔講義〕 (眞弓)	到達目標	看護サービスにおけるマネジメントを理解する		テキスト① P78～136 配布資料	
	授業予定	1. 組織としての看護サービスマネジメントについて説明する 2. 看護サービス提供のしぐみ（人材・施設設備・物品・情報）について説明する 3. 組織におけるリスクマネジメントについて説明する 4. サービス評価について説明する			
第 5 回 〔講義〕 (眞弓)	到達目標	マネジメントに必要な知識と技術を理解する		テキスト① P138～163 配布資料	
	授業予定	1. 組織とマネジメントについて説明する 2. リーダーシップとマネジメントについて説明する 3. 組織の調整について説明する			
第 6 回 〔講義〕 (眞弓)	到達目標	看護を取り巻く諸制度を理解する		テキスト① P166～193 配布資料	看護学概論 第13 回目・14 回目
	授業予定	1. 看護職の専門性について説明する 2. 医療制度について説明する 3. 看護政策と制度について説明する			
第 7 回 〔講義〕 (眞弓)	到達目標	看護マネジメントにおける一看護師としての役割と責任を理解する		配布資料	KJ法を用いて、グループで課題に取り組むため、教材を集めておくこと
	授業予定	1. 看護者の専門性と責任について説明する 2. グループでの考えをまとめ、プレゼンテーションを行う（演習）			
第 8 回 〔講義〕 (濱砂)	到達目標	災害医療における基礎知識を理解する		テキスト② P16～61 配布資料	テキスト②P2～16 は講義開始前に必ず読むこと
	授業予定	1. 災害の種類と健康障害について説明する 2. 災害医療の特徴について説明する			

		3. 災害と情報について説明する 4. DMAT について説明する		
第 9 回 〔講義〕 (演 砂)	到達目標	災害看護における基礎知識を理解する	テキスト② P 61～126 配布資料	第 2 回目講義
	授業予定	1. 災害看護の特徴と看護活動について説明する 2. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護について説明する		
第 10 回 〔講義〕 (演 砂)	到達目標	災害看護の展開を理解する	テキスト② P 95～102、 P 169～208 付録 P 313～323 DVD 学習 トリアージ タッグ	演習は体操服で参加のこと
	授業予定	1. トリアージについて説明し、体験する 2. 応急処置について説明し、体験する		
第 11 回 〔講義〕 (演 砂)	到達目標	災害看護の展開を理解する	テキスト② P 95～102、 P 169～208 付録 P 313～323 DVD 学習 トリアージ タッグ	演習は体操服で参加のこと
	授業予定	1. トリアージについて説明し、体験する 2. 応急処置について説明し、体験する		
第 12 回 〔講義〕 (演 砂)	到達目標	被災者特性に応じた災害看護を理解する	テキスト② P 126～149 配布資料	
	授業予定	1. 対象に対する災害看護について説明する (子ども・妊産婦・高齢者・障害者・精神障害者・慢性疾患患者・在日外国人)		
第 13 回 〔講義〕 (演 砂)	到達目標	災害とこころのケアについて理解する	テキスト② P 149～166 配布資料	
	授業予定	1. 被災者のこころのケアについて説明する 2. 遺族のこころのケアについて説明する 3. 被災救援者、救援者のこころのケアについて説明する		
第 14 回 〔講義〕 (演 砂)	到達目標	国際看護の概要を理解する 看護とグローバル化した社会について考え、理解する	テキスト② P 210～311 配布資料	
	授業予定	1. 看護職に求められるグローバルな視点、グローバルヘルスについて説明する 2. 文化を考慮した看護について説明する 3. 国際協力のしくみ、国際救援と看護、災害被害の国際化について説明する		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	①系統看護学講座 統合 看護管理 (医学書院) ②系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 (医学書院)		
	参考図書			
	その他	配布資料、DVD(災害看護)、トリアージタッグ		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		講義内での演習や課題に主体的に取り組んでください。		

科目区分	専門分野	科目名	医療安全と看護	単 位	1 単位
対象学年	2 学年	学 期	前期	時 間	30 時間
担当教員	①服平 敏枝 ②蒲地 志穂	実務経験 関連資格	①病院における看護師経験・別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員 ②国立病院機構別府医療センター 看護師・医療安全管理係長		
目的	医療安全の基礎的知識を理解し、その知識を基に安全に医療看護を提供できる基礎的能力を養う				
目 標	医療安全に関する最新の知識を学び、主体的に安全を守る技術を理解する			DP への対応	
				DP3、4	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授 業 に 関 す る 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	医療安全と看護の理念を理解する		テキスト① P12～28 配布資料	教科書の指定部分を 事前に読んでおくこ と
	授業予定	1. ガイダンス 2. 医療安全の意味とその重要性について説明する 3. 看護職の法的規定と医療安全について説明する			
第 2 回 〔講義〕 (蒲地)	到達目標	医療安全への取り組みと医療の質の評価を理解する		テキスト① P30～59 配布資料	
	授業内容	1. 国の医療安全への取り組みについて説明する 2. 看護職能団体の取り組みについて説明する 3. 医療事故の定義と分類について説明する 4. 医療事故の報告制度、医療の質の評価について説明する			
第 3 回 〔講義〕 (蒲地)	到達目標	事故発生のメカニズムを理解する		テキスト① P62～72 配布資料	
	授業予定	1. 事故発生のメカニズムについて説明する 2. ヒューマンエラーについて説明する 3. 人間特性について説明する			
第 4 回 〔講義〕 (蒲地)	到達目標	事故発生のメカニズムに関わるリスクマネジメントを理解する		テキスト① P72～98 配布資料	
	授業予定	事故分析と事故対策について説明する			
第 5 回 〔講義〕 (蒲地)	到達目標	患者・家族との協同の必要性和安全文化の醸成を考え、理解する		テキスト① P100～119 配布資料	
	授業予定	1. 安全文化について説明する 2. 5S活動について説明する			
第 6 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	患者・家族との協同の必要性和安全文化の醸成を考え、理解する		配布資料	演習においてグルー プと協力し、自分の 意見が述べられるよ うしておくこと
	授業予定	チームステップスについて説明し、体験する			
第 7 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	看護における医療事故と安全対策を考え、理解する		テキスト① P122～146 配布資料 DVD学習	
	授業予定	1. 看護業務と事故発生要因について説明する 2. 医療事故の種類について説明する 1) 誤薬 2) 患者取り違い 3) 針刺し 4) 転倒転落			
第 8 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	看護における医療事故と安全対策を考え、理解する		テキスト① P147～163 配布資料 DVD学習	
	授業予定	医療事故の種類について説明する 5) 誤嚥 6) 異物遺残 7) 皮膚障害 8) 医療機器トラブル 9) チューブトラブル 10) 情報			
第 9 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	在宅看護における医療事故と安全対策を理解する		テキスト① P166～180	地域・在宅看護論
	授業予定	1. 在宅看護における医療事故とその対応について説明する 2. 在宅看護におけるリスク管理の現状と課題について説明する			
第 10 回 〔講義〕 (蒲地)	到達目標	医療従事者の安全を脅かすリスクとそれぞれの対策を考え、理解する		テキスト① P182～190	基礎看護技術 第1 回目
	授業予定	1. 感染の危険を伴う病原体への曝露について説明する 2. 感染に対する標準予防策と感染経路別予防策について説明する			

		3. 医療機器の使用に関するものについて説明する		
第 11 回 〔講義〕 (蒲地)	到達目標	医療従事者の安全を脅かすリスクとそれぞれの対策を考え、理解する	テキスト① P 190～200	基礎看護技術
	授業予定	1. 医療品への曝露について説明する 2. 労働形態、作業に伴うものについて説明する 3. 第三者による暴力について説明する		
第 12 回 〔講義〕 (蒲地)	到達目標	医療事故後の対応を理解する	テキスト① P 202～216 配布資料	
	授業予定	1. 医療事故発生時の初期対応の考え方と方法について説明する 2. 紛争化の防止対策について説明する 3. 専門職としての備えについて説明する		
第 13 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	看護学生の実習と安全について理解する	テキスト① P 218～239 配布資料 実習要項 (共通)	実習要項 (共通)
	授業予定	1. 実習における事故の法的責任と補償について説明する 2. 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応について説明する 3. 習得すべき看護技術のリスクと安全について説明する		
第 14 回 〔講義〕 (服平)	到達目標	看護学生の実習と安全について理解する	テキスト① P 221～224 配布資料	演習においてグループと協力し、自分の意見が述べられるようにしておくこと
	授業予定	KYT について説明し、体験する (演習)		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)		
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 終講筆記試験 100%、60%未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 (医学書院)		
	参考図書			
	その他	配布資料、DVD (医療安全)		
授業以外の学習方法		指定した教科書を事前に読んでおくこと。		
履修上の留意点		講義内での演習や課題に主体的に取り組んでください。		

科目区分	専門分野	科目名	看護実践演習	単 位	1 単位
対象学年	3 学年	学 期	後期	時 間	30 時間
担当教員	服平 敏枝	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	人々を理解する力、人々中心のケアを実践する力、看護の質を改善する力という看護実践能力を身につけ、複雑な状況下での看護場面を想定し、適切な看護判断ができる能力を養う。				
目 標	1. 基本的な看護技術を活用し、対象にあった援助を考え安全安楽に実施することを理解する 2. 既習学習や臨地実習で得た知識や技術を統合し、看護援助を提供することを理解する 3. 臨床現場に即した状況での看護実践を行い、自己の看護技術を振り返り課題を見出すことを理解する 4. クリティカルケア看護の基本的概要を理解する			DP への対応	
				D P 1・2・3・4・6 D P 1,2,3,4,5,6 D P 1,2,3,4,6 D P 3,4	
授業回数 〔方法〕	内 容			使用教材	授業に関する 準 備 学 習
第 1 回 〔講義〕	到達目標	臨床看護実践能力を理解する		①配布資料 ②課題プリント A	・既習学習の“臨床判断”の講義資料を準備し、復習しておく
	授業予定	1. ガイダンス 2. 臨床看護実践能力について説明する 3. 「対象の全体像をとらえる 1」について説明する			
第 2 回 〔講義〕	到達目標	対象の全体像をとらえることについて理解する		①②	・課題プリント A についての調べ学習をしておく ・グループ学習
	授業内容	1. 「対象の全体像をとらえる 2」について説明する 2. 対象の個性性をふまえた援助について説明する			
第 3 回 〔講義〕	到達目標	対象の変化に応じた看護を考え、理解する		③課題プリント B	・課題に必要な学習の準備をしておく
	授業予定	対象の変化に応じた看護について説明する			
第 4 回 〔講義〕	到達目標	対象の変化に応じた看護を考え、理解する		③	・課題プリント B についての調べ学習をしておく ・グループ学習
	授業予定	対象の変化に応じた看護について説明する			
第 5 回 〔講義〕	到達目標	クリティカルケア看護が必要な対象の特徴と援助を理解する		①、④ DVD視聴 CPR 器具 AED	・既習した基礎看護技術の復習をしておく ・グループ学習
	授業予定	1. クリティカルケア看護の専門性について説明する 2. BLS、ACLS について説明し、体験する（演習）			
第 6 回 〔講義〕	到達目標	クリティカルケア看護が必要な対象の特徴と援助を理解する		① CPR 器具 AED	・既習した基礎看護技術の復習をしておく ・グループ学習
	授業予定	1. クリティカルケア看護の専門性について説明する 2. BLS、ACLS について説明し、体験する（演習）			
第 7 回 〔講義〕	到達目標	対象の変化に応じた看護を考え、理解する		①②③	・看護実践演習に向けた準備と練習をグループで行う
	授業予定	対象の変化に応じた看護について説明し、体験する（演習）			
第 8 回 〔講義〕	到達目標	対象の変化に応じた看護を考え、理解する		①②③	・看護実践演習に向けた準備と練習をグループで行う
	授業予定	対象の変化に応じた看護について説明し、体験する（演習）			
第 9 回 〔講義〕	到達目標	対象の変化に応じた看護を考え、理解する		①②③	・看護実践演習に向けた準備と練習をグループで行う
	授業予定	対象の変化に応じた看護について説明し、体験する（演習）			
第 10 回 〔講義〕	到達目標	対象の変化に応じた看護を考え、理解する		①②③	・看護実践演習に向けた準備と練習をグループで行う
	授業予定	対象の変化に応じた看護について説明し、体験する（演習）			
第 11 回 〔講義〕	到達目標	オリエンテーションを受け、シミュレーションテストに向けての準備を理解する		⑤シミュレーションテスト要項	・既習学習の臨床判断を復習しておく
	授業予定	1. シミュレーションテストについて説明する			

		2. 知識確認テストについて説明し、実施する		
第 12 回 〔講義〕	到達目標	対象の状況に応じた看護の実践を理解する	②③④	・事例に応じた看護 実践について学んだ ことを復習しておく
	授業予定	シミュレーションテストの実施	⑥卒業時目 標到達度表	
第 13 回 〔講義〕	到達目標	対象の状況に応じた看護の実践を理解する	②③④⑥	・事例に応じた看護 実践について学んだ ことを復習しておく
	授業予定	シミュレーションテストの実施		
第 14 回 〔講義〕	到達目標	対象の状況に応じた看護の実践を理解する	②③④⑥	・事例に応じた看護 実践について学んだ ことを復習しておく
	授業予定	シミュレーションテストの実施		
第 15 回		まとめ 終講試験(50 分)	⑦リフレク ションシー ト	・自己の看護実践を 振り返り、再度学習 を深める
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：レポート 10%、知識確認テスト 30%、シミュレーションテスト 60%、 以上の合計 100% で 60% 未満は再試験とする。		
使用教材	テキスト			
	参考図書			
	その他	①配布資料、②課題プリント A、③課題プリント B、④DVD 急変時の看護		
授業以外の学習方法		積極的に事例検討と看護実践のトレーニングを行ってください。		
履修上の留意点		講義内での演習や課題に主体的に取り組んでください。		

臨地実習

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	基礎看護学実習 I	単 位	1 単位
対 象 学 年	1 学年	学 期	後期	時 間	45 時間
担 当 教 員	岡部 裕美	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	初めて「看護の場」を体感し、そこが治療の場であるとともに生活の場であることに気づき、環境が患者に与える影響について考え、環境を整えることが出来ることを目的とする。また、患者とコミュニケーションを通じたかかわりを持つための基礎的能力を養う。病院で行われている看護に初めて触れる実習である。看護師だけではなく多職種と共に行われるチーム医療に触れることで、患者を取り巻く医療者の存在とそこにおける看護師の役割を知る。				
目 標	1.入院患者の生活環境を知る。 2. 患者の生活のしやすさを考えた病床を整えることができる。 3.患者とコミュニケーションを図ることができる。 4.看護師の看護活動を知り、今後の学習の動機付けにできる。 5.礼儀正しく節度ある態度をとることができる。				DP への対応
					DP1・2・3 DP1・2・3 DP1 DP5・6 DP1・4
概 要	・病院の組織・構造・機能、看護の機能と役割について見学及び説明を受け理解する。 ・看護師と共に行動し、看護活動の実態を理解する。				
方 法	病棟単位に実習を行う				
実 習 場 所	国立病院機構西別府病院 九州大学病院別府病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)			
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法		実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。			
履 修 上 の 留 意 点		これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中での「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。			

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ	単 位	2 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担 当 教 員	岡部 裕美	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	対象に必要な日常生活援助は何かを考え、生活を整える援助を理解する実習である。「日常生活への援助技術」は、病気や障害、加齢や幼弱などの理由から自力では日常生活に支障をきたす患者に対して、その必要度に応じた支援を行う技術である。具体的には、生活・療養環境を整え、身体の清潔を保ち、適切な衣服を選んで更衣・整容を行い、食事や排泄をし、休息・睡眠をとり、姿勢を保ったり体位を変えたり移動・移乗したりすることへの援助技術である。今患者に不足しているニーズは何か、必要としている援助は何かを見出し、患者に合った日常生活援助を、安全・安楽をまもり、個別性に配慮し、自立を促す方法で考え、指導者とともに実施することを目的とする。				
目 標	1.受け持ち患者とコミュニケーションをとることができ、良好な援助関係について考えることができる。 2.患者に必要な日常生活援助を理解できる。 3.患者に必要な日常生活援助を安全・安楽・自立に向けて、援助計画を立案できる。 4.患者に必要な日常生活援助を指導者とともに実施し、評価・考察できる。 5.自分の言動に責任を持つことができる。 6.医療チームの一員として、病棟内スタッフとの連携の必要性が理解できる。 6.看護実践をとおして、援助の意味を考えることができる。				DP への対応
					DP1 DP2・3 DP2・3 DP2・3 DP4 DP5 DP3・6
概 要	・受け持つ患者を1名担当し、患者に必要な日常生活援助を指導者とともに実施する。 ・コミュニケーションをとおして良好な人間関係を図る。 ・自分の言動に責任を持つ。 ・看護実践のなかでの「気づき」から、援助の意味を考える。				
方 法	病棟単位に実習を行う 受け持ち患者を1名担当し、援助を考える。				
実 習 場 所	国立病院機構西別府病院 九州大学病院別府病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)			
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法		実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。			
履 修 上 の 留 意 点		これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中での「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。			

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	基礎看護学実習Ⅲ	単 位	2 単位
対 象 学 年	2 学年	学 期	後期	時 間	90 時間
担 当 教 員	岡部 裕美	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	医療機関で健康障害によって入院治療を受けている患者を 1 名受け持ち、看護過程を展開する基礎的な能力と看護職者としての自覚を培う。具体的には日常生活援助技術を用いて患者の生活を整えながら、看護に必要な情報収集を行う。情報はゴードンの看護アセスメントの視点に基づいて分析され、導き出した看護問題を解決するための援助を計画に基づいて実践する。また、実践した自らの看護を振り返ることで、個性に応じた援助と看護職者にふさわしい態度や学習姿勢について学ぶ。				
目 標	1. 看護に必要な情報収集、アセスメント、看護問題の特定、看護計画の立案、実施、評価ができる。 2. 看護過程の実践を通して、看護職者としてふさわしい態度を身につけることができる。 3. 患者との関りを通して、患者の療養生活と看護のつながりについて考えることができる。				DP への対応
					DP3 DP1・2・3・4 DP1・2・3・5・6
概 要	・受け持ち患者を1名担当し、看護過程を展開する。 ・看護実践の中の「気づき」を活用し、援助に反映できる。 ・看護チームの一員であることを自覚し、責任ある行動をとる。				
方 法	病棟単位に実習を行う 受け持ち患者を1名担当し、看護を考える。				
実 習 場 所	国立病院機構別府医療センター 国立病院機構西別府病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト	看護学概論(医学書院)、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)			
	参 考 図 書				
	そ の 他				
臨地実習以外の学習方法		実習に必要な事前学習にしっかりと取り組みましょう。			
履 修 上 の 留 意 点		これまで学んできた知識、技術を復習し、実習の中で使えるようにしましょう。 看護の基礎となる実習です。実習の中での「気づき」を今後につないでいきましょう。 実習は、メンバー、指導者、教員の力を大いに活用しましょう。			

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ	単位	2単位
対象学年	1学年	学期	前期	時間	90時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	地域の様々なライフステージにある多様な人々の日々の生活を知り、人々の健康上の課題や人々の暮らしを支えるものについて理解する。また、看護の道への学習意欲を高め看護学生として学ぶべきことを明確にする。				
目標	1. 地域に暮らす人々と、適切な言葉遣いと内容でコミュニケーションを図る。 2. 地域に暮らす多様な人々の日々の活動を理解する。 3. 地域に暮らす多様な人々の健康上の課題を理解する。 4. 地域住民の健康な暮らしを支える人々の活動を理解する。 5. 看護学生としての自覚をもち、責任ある行動をとる。 6. 看護を学ぶ目的と課題を明確にし、自分の将来像を描く。				DP への対応 DP1 DP2・3・4 DP2・3・4 DP2・3・4・5 DP4 DP6
概要	入学後早期の5月末から6月はじめに設定し、医療・看護における知識がほとんどない状態で臨む見学を中心とした実習である。本実習では、地域の人々が生活する様々な場に足を運び、人々の生きるための活動、生活を支えるための活動を知ることで、地域に暮らす人々が支え合いの中で生きていることを、五感をとおして感じながら人々の暮らしについて想像し、看護の対象として意識していくことをねらいとしている。同時に、様々な活動の場で展開する実習はグループで計画・行動することを基本としながら自ら考え行動できる力を養い、今後の学習や学校生活を送るために必要な協調性や主体性を身につけるための導入となること、人々の健康な暮らしを支える看護への期待を膨らませ看護を学ぶ目的を明確にすることを期待している。				
方法	臨地実習（見学実習）・学内実習				
実習場所	別府市内自治会・老人クラブ等各種団体（別府市 健康推進課） 児童館・子育て支援センター ・北部児童館・西部児童館・子育て支援センター・南部児童館・子育て支援センター 社会福祉協議会 別府市医師会地域保健センター 別府市内診療所 ・岡田眼科医院・かめがわ耳鼻咽喉科・矢田こどもクリニック・おおさわクリニック・岡島医院 ・佐藤整形外科医院・平井整形外科医院 別府市内病院 ・内田病院・児玉病院・別府中央病院・村橋病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第29条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60点以上が合格、60点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）			
	参考図書				
	その他	講義資料			
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点		地域にある人々の生活の場で展開される実習です。気持ちのよい挨拶をはじめとし、基本的な姿勢・態度には十分心がけ実習に臨みましょう。			

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ	単 位	2 単位
対象学年	3 学年	学 期	後期	時 間	90 時間
担当教員	木畑 孝子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	地域で療養する人々とその家族の多様な生活を理解し、地域において看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を身につけること、また、(医療や介護が必要な)人々が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを、人生の最期まで続けることができるための包括的な支援や看護の役割について深く考えることを目的とする。				
目 標	1. 在宅で療養する人とその家族・周囲の人々と良い人間関係を築く。 2. 地域で療養する人とその家族・周囲の人々の様々な価値観を知り、個別に応じた看護を実践する。 3. 在宅で療養する人とその家族の望みを尊重し、科学的根拠に基づいた看護を実践する。 4. 在宅で療養する人とその家族の暮らしを支える多職種との連携・協働の必要性と看護師の役割を理解する。 5. 在宅で療養する人とその家族が望む暮らしを実現するために必要な法律・制度を理解する。 6. 専門職業人としての倫理や責務について考え、すべての人々に対して誠実な態度で接する。 7. 看護職としての将来像を描く。				DP への対応
					DP1 DP2・3 DP2・3 DP5 DP3 DP4 DP6
概 要	3 年次の 9 月～10 月と看護学校 3 年間の集大成となる時期に位置づけている。講義や実習をとおして培ってきた知識・技術を応用し、居宅（在宅）や施設で療養する人とその家族の看護、住み慣れた地域や居宅（在宅）での暮らしを実現するための地域包括ケアシステム、システムの中で活躍する多職種の連携の実践を学び、その過程をとおして、自助・互助・共助・公助の観点から人々の生活を幅広く理解し、専門職としての看護師の役割を明確に自覚していくことをねらいとしている。人は、地域で生まれ、地域で最期の時を迎える、人々の暮らしは地域にあり、その暮らしは人と人とのつながり、支え合いによって成り立っていることを理解していく中で、いのちの尊厳、人々の価値観や望む暮らし、自己の価値観に新たな気づきを得ること、看護師としての姿勢・態度について改めて考える実習となることを期待している。				
方 法	臨地実習				
実 習 場 所	別府市内・外訪問看護ステーション 別府市地域包括支援センター 高齢者福祉施設				
成績評価の基準と方法		基準： 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法： 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）			
	参考図書				
	その他	講義資料			
臨地実習以外の学習方法					
履 修 上 の 留 意 点		気持ちのよい挨拶をはじめとし、基本的な姿勢・態度には十分心がけ実習に臨みましょう。また、地域・在宅看護論実習Ⅱは、基本的な看護技術の応用の極みとなります。安全・安楽な援助を提供するために十分な学習・練習をしてから実習に臨みましょう。			

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	成人・老年看護学実習 I	単 位	2 単位
対 象 学 年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担 当 教 員	小林 恭子	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	健康レベル別に見た急性期における看護を学ぶ。病態や症状が急激に変化した状態の患者や、手術を受ける患者、検査を受ける患者を受け持ち、治療や看護によって回復に向かう患者を身体的・精神的・社会的側面から理解していく。看護を展開する中で、患者に必要な援助を考え、良い方向に向かうことができるよう看護を実践する。				
目 標	1. 急性期（周術期）にある対象の特徴を理解できる。 2. 急性期（周術期）にある対象が危機的状況から回復する過程に応じた看護過程の展開ができる。 3. 医療チームの中で多職種と協働・連携について理解できる。 4. 実習体験を通して、自己の看護観を述べることができる。 5. 看護者として、対象への倫理的配慮ができ、医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。				DP への対応
					DP1・2・3 DP1・2・3 DP5 DP6 DP4
概 要	急性期にある対象とその家族を理解し、健康回復に向けた看護を実践するための基礎的能力を習得する。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	中村病院 別府医療センター 九州大学病院別府病院 新別府病院 大分医療センター				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テ キ ス ト				
	参 考 図 書				
	そ の 他				
臨地実習以外の学習方法					
履 修 上 の 留 意 点					

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	成人・老年看護学実習Ⅱ	単 位	2 単位
対 象 学 年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担 当 教 員	小林 恭子	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	治療が終了、又は治療を続ける中で身体の状態が安定してきた慢性期にある患者の看護を展開する。その中で、患者の身体機能やより良い生活が向上するための援助を考え実践し、患者が健康な生活を取り戻していく過程を支援する看護の役割について考えていく。				
目 標	1. 慢性期にある対象の特徴を理解できる。 2. 慢性期にある対象がその人らしく生活を営むための看護過程の展開ができる。 3. 医療チームの中で多職種と協働・連携について理解できる。 4. 実習体験を通して、自己の看護観を述べることができる。 5. 看護者として、対象への倫理的配慮ができ、医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる				DP への対応
					DP1・2・3 DP1・2・3 DP5 DP6 DP4
概 要	治療が終了、又は治療を続ける中で身体の状態が安定してきた慢性期にある患者の看護を展開する。その中で、患者の身体機能やより良い生活が向上するための援助を考え実践し、患者が健康な生活を取り戻していく過程を支援する看護の役割について考える。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	別府医療センター 九州大学病院別府病院 大分医療センター 中村病院 新別府病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履 修 上 の 留 意 点					

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	成人・老年看護学実習Ⅲ	単 位	2 単位
対 象 学 年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担 当 教 員	小林 恭子	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	治療を尽くしても回復の見込みが難しい患者や、病気が末期の状態にあり、いよいよ最後の時を迎えようとしている患者の受け持ち看護を展開する。患者が気持ちよく、その人らしく、満足した日々を送ることができるような援助を考え実践する中で、命の可能性と命の尊厳、そして限らない看護の可能性について考える。				
目 標	1. 終末期にある対象の特徴を理解できる。 2. 終末にある対象が満足した生活を送るための看護過程の展開ができる。 3. 医療チームの中で多職種と協働・連携について理解できる。 4. 実習体験を通して、自己の看護観を述べることができる。 5. 看護者として、対象への倫理的配慮ができ、医療チームの一員として、責任ある行動をとることができる。				DP への対応
					DP1・2・3 DP1・2・3 DP5 DP6 DP4
概 要	治療を尽くしても回復の見込みが難しい患者や、病気が末期の状態にあり、いよいよ最後の時を迎えようとしている患者を受け持ち看護を展開する。患者が気持ちよく、その人らしく、満足した日々を送ることができるような援助を考え実践する中で、命の可能性と命の尊厳、そして限らない看護の可能性について考える。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	中村病院 村橋病院 別府中央病院 九州大学病院別府病院 鶴見病院 緩和ケア病棟				
成績評価の基準と方法		基準 : 履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法 : 別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履 修 上 の 留 意 点					

科目区分	専門分野	科目名	小児看護学実習	単位	2 単位
対象学年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担当教員	羽田野 京子	実務経験 関連資格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目的	小児期にある子どもとその家族を理解し、成長・発達段階、健康段階に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得する。				
目 標	1. 小児各期における身体的・精神的・社会的な成発達の特徴を理解できる。 2. 健康な小児、健康障害のある小児への成長発達を促す援助方法が理解できる。 3. 小児の健康障害の特徴を理解し、対象に応じた看護の実際を理解できる。 4. 健康障害や入院生活が小児と家族に及ぼす影響を考慮することができる。 5. 小児を取り巻く多職種の連携の中で小児看護の役割について考える。				DP への対応
					DP1・2・3 DP1・2・3 DP1・2・3 DP1・2・3 DP5・6
概 要	<保育所実習> 健康障害を持つ子どもを学ぶ前に、まず健康な子どもの保育活動を通して、成長・発達の特徴を学ぶ。 <病院外来実習> 急性症状を呈した子どもの、状態観察や対応について学ぶ。また、病気や治療処置が与える子ども及び家族の影響を学ぶ。そのうえで、小児看護における知識や看護技術・態度を学ぶ。 <病院実習> 小児期にある子どもが家族と分離し治療・長期療養することで成長・発達に与える影響について考える。そのうえで、小児看護における知識や看護技術・態度を学ぶ。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	<保育所> 中央保育所・鶴見保育所・内竈保育所 <病院外来> 別府医療センター・鶴見病院・矢田こどもクリニック <病院> 国立病院機構別府医療センター・国立病院機構西別府病院・別府発達医療センター				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履修上の留意点					

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	母性看護学実習	単 位	2 単位
対 象 学 年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担 当 教 員	清岡 佳子	実 務 経 験 関 連 資 格			
目 的	本実習は、ウェルネスの視点でマタニティサイクル期にある女性・新生児を受け持ち正常な妊娠・分娩・産褥期・新生児期の看護過程の展開を修得する。女性のライフイベントであるマタニティサイクル期における身体的・心理的・社会的変化及び胎児・新生児の生理的变化・成長について理解し、最適な生活支援を科学的根拠に基づいた安全で安楽な看護ケアを学ぶ。				
目 標	1. マタニティサイクル期にある対象者の特徴を踏まえ、援助の人間関係を構築することができる。 2. マタニティサイクル期にある対象者が妊娠・分娩・産褥期を正常な経過をたどり、最適な生活（Well-being）を目指した看護展開ができる。 3. 新生児が胎外生活に適応できるよう、健康な発育に向けた看護の方法が説明できる。 4. 子どもの誕生を受け入れるための家族支援方法が説明できる。 5. 母子とその家族の健全な育成支援に向けて、退院後の生活、継続看護の必要性、活用できる社会資源について説明できる 6. マタニティサイクルにある対象者の状態に適したセルフケアと健康支援ができる。 7. 医療チームの中で他職種と協調・協働する方法について理解し、看護職の母性看護の専門性について考察できる。 8. 生命の誕生と尊厳について理解を深めることができる。 9. 実習全体を振り返り、学びを整理し、課題を明らかにできる。				DP への対応
					DP1・5
					DP3・5・1
					DP1・3
					DP1・3
					DP1・4
					DP1・5
					DP4・5
					DP5・6
DP5・6					
概 要	1. 受け持ち褥婦・新生児の看護過程を展開する。 2. 母性看護の基本援助技術を理解し、一部実践する。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	国立病院機構別府医療センター あおい産婦人科 大分県立病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト	実習要項、母性看護学概論、母性看護学各論、看護がみえる、国民衛生の動向			
	参考図書	母性看護学概論（医学書院）母性看護学各論（医学書院）看護がみえる 産科（メディカ出版）			
	その他	実習施設ごとに必要物品についてオリエンテーション時に説明する。			
臨地実習以外の学習方法		看護過程展開の記録は、病棟において受け持ちの情報収集・アセスメントを終了し、看護診断、看護計画の立案は自宅学習とする。母性看護の基本技術は、自己練習をして実習に臨む。			
履 修 上 の 留 意 点		欠席をする場合は、事前に実習担当教員へ理由をそえて欠席届を提出する。			

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	精神看護学実習	単 位	2 単位
対 象 学 年	3 学年	学 期	前期	時 間	90 時間
担 当 教 員	川野 明子	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験・大学非常勤講師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	1. 受持ち患者とのかかわりを通して、患者理解及び自己理解を深め、治療の人間関係を構築する能力を養う。 2. 精神疾患を持つ人を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解すると共に、地域で生活する精神障害者支援の様々な場を知り、回復支援について学ぶ。				
目 標	<病院> 1. 対象者との出会いから相互作用を通して、看護者としての自分自身を振り返り、自己洞察を深めることで自己の課題を明確にし、患者－看護師関係を築き、発展させる。 2. 精神科医療における環境や法律・制度について理解できる。 3. 看護過程を展開し、看護について考えを深める。 4. 対象が生きていくために必要な社会資源を理解し、地域社会とのつながりについて考える。 5. 精神医療チームの一員としての看護の役割について説明できる。 <デイケア> 1. 精神科デイケアを利用しながら地域で暮らす人とかかわりを通して、精神疾患を持つ人の地域生活を理解する。 2. 地域で生活するために提供されているサービスの内容と、支援を行っている専門職の役割および連携を知る。				DP への対応
					DP 1 DP 3 DP 2, 3 DP 2, 3, 4 DP 4, 5 DP 2, 3, 4 DP 3, 4, 5
概 要	<病棟> 統合失調症または双極性障害の患者を 1 名受持ち、オレムのセルフケア理論を用いて看護過程を展開する。 <デイケア> デイケア実習を通してチームケア（多職種連携）の必要性和看護師の役割を知る。				
方 法	臨地実習・学内実習				
実 習 場 所	山本病院・鶴見台病院・向井病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履 修 上 の 留 意 点					

科 目 区 分	専門分野	科 目 名	統合実習	単 位	2 単位
対 象 学 年	3 学年	学 期	後期	時 間	90 時間
担 当 教 員	服平 敏枝	実 務 経 験 関 連 資 格	病院における看護師経験 別府市医師会立別府青山看護学校 専任教員		
目 的	看護の知識・技術・態度を統合し、看護チームの一員として看護を実践する基礎的能力を養う。				
目 標	1．対象との人間関係を築くことができる。 2．複数の対象の状況に応じ、根拠に基づいた看護の実践をすることができる。 1) 複数の対象の状況をアセスメントし、全体像をとらえる。 2) 複数の対象の状況に応じた看護計画を立案する。 3) 複数の対象の状況に応じた看護を安全安楽に実施する。 3．病院における看護管理の実際、多職種との連携・協働の実際を知り、看護師の役割と責任を理解することができる。 4．倫理観を養い、将来の看護師としての自己の課題を明確にすることができる。 5．専門職業人としての基本的態度を認識し、身につけることができる。 1) 専門職業人としての態度が備わる。 2) 学習に臨む姿勢がある。 3) 倫理に基づいた行動をとる。 4) グループの一員として責任ある行動をとる。				DP への対応
					DP 1、2、4 DP 1、2、3、4、6 DP 1、4、5 DP 4、6 DP 1～6
概 要	複数の対象の状況に応じ、根拠に基づいた看護の実践をするための基礎的能力を習得する。 看護管理の実際や多職種連携の実際をとoshi、看護チームの一員として看護を実践するための基礎的能力を習得する。				
方 法	臨地実習				
実 習 場 所	国立病院機構西別府病院 新別府病院 九州大学病院別府病院 中村病院				
成績評価の基準と方法		基準：履修規定第 29 条に規定する評価基準による。 方法：別に評価項目を定め、それに沿って評価する。 60 点以上が合格、60 点未満は別紙に定めるとおり再実習を行う。			
使用教材	テキスト				
	参考図書				
	その他				
臨地実習以外の学習方法					
履 修 上 の 留 意 点					